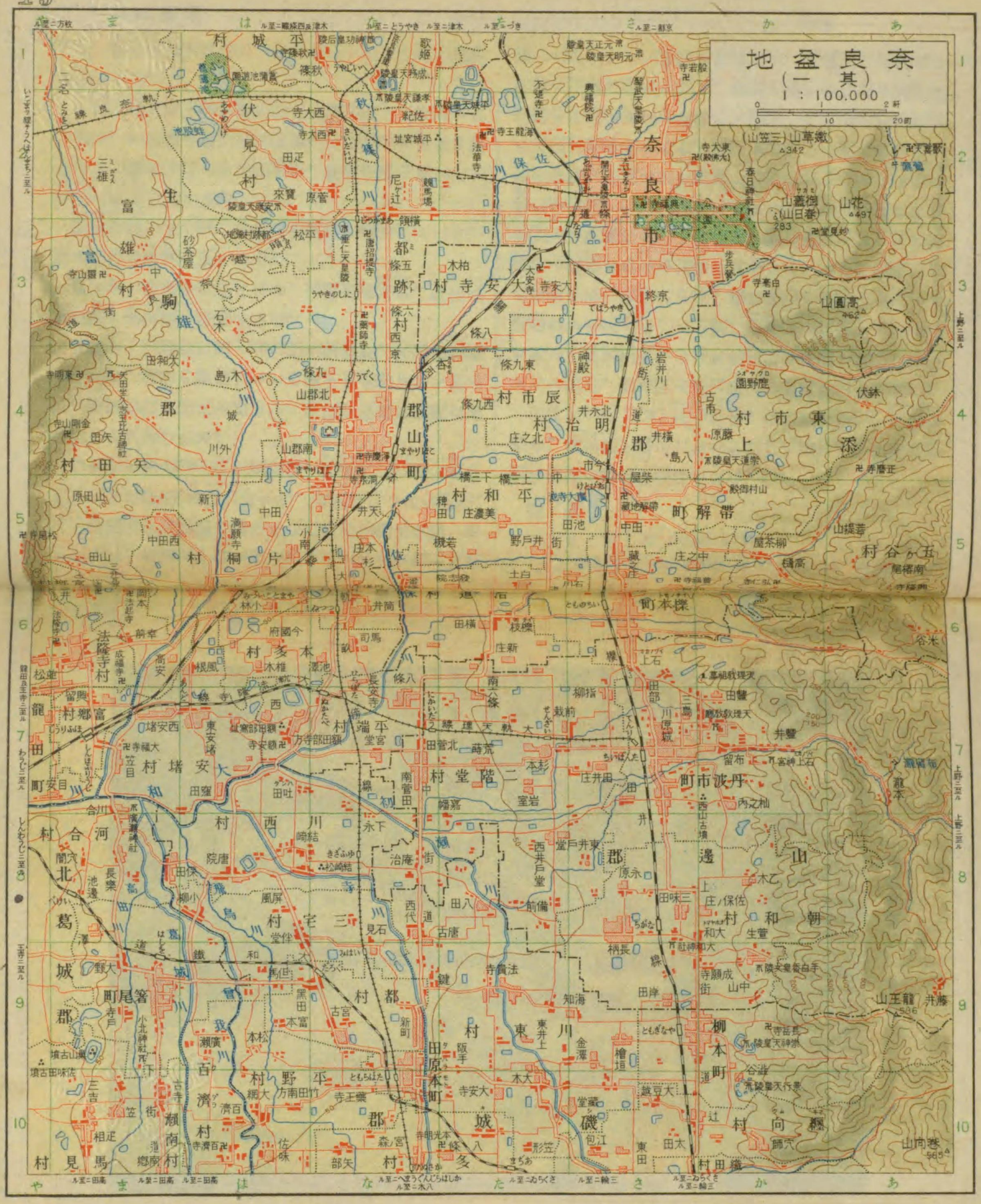

地盆良奈
(一其)
1 : 100.000
奈良市
富雄村
駒寺村
都跡村
山郡町
治明村
和平村
市辰村
東添村
上郡村
解帯町
五谷村
本樣町
法隆寺村
多村
端平村
堂階二村
丹波市町
郷富村
堵安村
大和川
河合村
北葛城郡
邊山村
朝和村
宅三村
都城村
尾箸町
柳本町
向櫻村
磯城郡
野平村
見馬村
田原本町
多村
田織村
山王龍井藤
山向巻
山花
山蓋(山日春)
山笠(三)山草嫩
山圓高
伏鉢
園野鹿
屋茶柳
山提菩
谷木
井蟹
留布
丙之杣
西山古墳
上庄(保佐)
和大
生菅
柄長
寺願成
山中
知海
金澤
檜垣
寺安大
寺王樂
寺貴法
寺濟百
寺明光本
寺岳長
寺若殷
寺大東
寺山圓
寺明東
寺山開金
寺山本
寺山田
寺局松
寺仁弘
寺慶正
寺磨正
寺願興
寺藏興
寺藏明
寺藏地
寺藏殷
寺藏殷
寺藏殷

藥師寺藥師三尊像

建一方格　玄　は　ル至二觀音菩薩木　ゆ至二とうやき　ル至二津木　ぐ至二ぐ　ル至二觀音　か　い　あ

唐招提寺講堂

唐招提寺金堂

藥師寺三重塔婆

法優秀、鎌倉時代の作である。

一舍利塔（伊勢舍利）〔國寶〕　一基

弘安六年叡尊が伊勢參籠の際感得した舍利を納めた塔と傳へて居る。銅製、鍍金一尺四寸九分、數層の蓮華座の上に玉緣、火焔緣中に舍利瓶を安置したもので頗る精巧な鎌倉時代工藝の特長を發揮した作である。

一瓶形舍利塔〔國寶〕　五基

金銅製、この舍利塔は五基で一具をなし、五基何れも同じ形式であるが、中央の一基のみ大にして高さ八寸三分、他の四個はその四方に配せられるもので高さ七寸五分ある。その舍利塔は各銅製の瓶中に容れられ飾紐で結び鐵製多寶塔（後記博物館出陳のもの）内に並置されるのである。形態頗る美はしく、手法また精巧にして鎌倉時代工藝品の優秀なものである。

一壇舍利塔〔國寶〕　一基

金銅製、多寶塔形をなし中に銅製舍利塔を納めた精巧な塔である。その方形壇の底面に文永七年六月一日願主叡尊の銘があつて銅細工未長入道成佛、坂上友末鑄物師友吉入道西珍の名が知られ、鎌倉中期工藝品の樣式規準を徵すべき貴重な資料である。

一十二天像〔國寶〕　十二幅

絹本著色竪五尺二寸幅四尺四寸の大幅である。何れも剝落甚しいが、十二幅中、風天、水天、地天、帝釋天の四幅は比較的損傷が少ない。圖樣古式にして多くは禽獸に觀して居る。描線色調共に高古莊重、平安時代の作である。十二幅中四幅は奈良帝室博物館へ出陳。

左記寶物は奈良帝室博物館へ出陳

一阿彌陀如來、釋迦如來坐像〔國寶〕　木造　二軀
一阿閦如來、寶生如來坐像〔國寶〕　二軀
一舍利塔〔國寶〕　傳叡尊感得　金銅製　一基
一多寶塔〔國寶〕　弘安七年の銘あり、鐵製　一基
一金光明最勝王經〔國寶〕　十卷
　百濟豐虫書、紙本墨書、蒔繪箱入
一大毘盧遮那成佛神變加持經〔國寶〕　七卷
　吉備由利願經、紙本墨書

奈良西郊

【八幡神社本殿】（はちまんじんしやほんでん）〔國寶〕同西大寺驛（さいだいじえき）の西約一粁、伏見村西大寺にある。西大寺の鎭守であつたと思はれ、三間社流造（ながれづくり）、屋根はもと檜皮葺であつたが今棧瓦葺（さんかはらぶき）となり、室町時代中期の遺構である。

【平城宮址（へいじやうぐうし）】〔指定史蹟〕（一九圖な2）同西大寺驛の東一粁都路村佐紀（みあとさき）及び北新の地にある。和銅三年元明天皇都

をこゝに遷し給うてより以來七十餘年間、平城京の大内裏の存した所で、内裏址、大極殿址及び朝堂址等の諸遺址を存して居る。内裏址は地字を大宮と呼び、高燥な廣い平坦な地域で、内裏、椎等の地名を存し、南にある小徑は朱雀路の遺址で、北部及び東部には長く斷續した土壘の遺址がある。大極殿及び朝堂址は内裏址の東南にあり、大極殿址は後殿址及び東樓址、西樓址を附屬し、各々土壇を遺存し、大極殿址の更に南にある朝堂址は第一堂から第十二堂址に至る十二の土壇稍々方形を描いて連續して存し、この南は東朝集殿及び西朝集殿址である。この外に大極殿址の周圍に廻廊に附屬したと認むべき溝底石の配置されたるを發見し、また大極殿の北方には建築基壇の遺構並に東北及び西部には枘孔のある方形の礎石群が、それぞれ發見された。また朝堂址及び西朝集殿址の西側に、一直線に地中に連續して埋沒した多數の古瓦を發掘したが、建物の外廂が自然に腐朽倒壞したことを推測せしめる狀態にあつたと云ふ。大内裏の設けられたのは平城京の最北部の中央部で、正面南北に通ずる朱雀大路を以て左右兩京に別ち、更にこれと並行して造られた南北の大路を以て兩京を各々四坊に區劃し、また別に東西に兩京を貫いた一條より九條の大路が造られた。この外に北京極の大路あり、右京の北に半條の北邊坊あり一條から五條までの東に京外條坊の區域を存したのであるが、今北京極の地に土壘の形跡殘り、また舊時の三條大路は現時の奈良市三條通から暗越奈良街道をその遺址と認むべく、一條大路の址は東大寺轉害門の前から宮址の東方まで殘存して居る。

【平城天皇楊梅御陵】（一九圖た2）大軌西大寺の東北約一粁半、都跡村佐紀にあり、平城宮址の北方に當る。高約一二米、直徑約八二米の圓墳で松樹に覆はれ、地高くして南方遙に大和平野を望む景勝の地にある。

【仁德天皇皇后磐之媛命平城坂上御陵】（一九圖た1）同西大寺驛の東約二粁、都跡村佐紀にある。小那邊山の西北に當り、北に丘を負ひて南面し、三段に築かれた前方後圓墳で、長さ約一五四米、青松蓊々として茂つて居る。周濠二重に繞り、中堤あり、内濠は廣く且つ深くして陵を環り、外濠は狹くして南側の部分が凹字形をなして遺存して居る。

【成務天皇狹城盾列池後御陵】（一九圖な1）奈良電鐵平城驛前にある。里俗石塚山と呼び奉り、丘上に南面して三段に築かれた前方後圓墳で、松樹翳蔚とし、前後徑約一七〇米、砂礫を以て葺いて居る。周濠が存するが南面の中央を埋めて御拜所あり、文久年間の修補の際に設けられたものである。御陵の南方に稱德天皇高野御陵がある。

【狹木之寺間御陵】成務天皇御陵の東に接し並んで居る。御陵山と俗稱し奉り、垂仁天皇皇后日葉酢姬命の御陵である。前方後圓墳で、周濠を有して居る。曾て大形の盾、纖蓋等の埴輪樹物、鏡、石製品等を出土したことがある。

【神功皇后狹城盾列池上御陵】（一九圖な1）成務天皇御陵の北、平城村山陵宮の谷にあり。里俗五社神と稱し、南面した前方後圓墳で周濠を有し、松樹が密生繁茂して居る。

【秋篠寺】〔眞言律宗總本山〕大軌西大寺驛の東北一粁、平城村秋篠にある。

當寺は光仁桓武兩帝の本願、寶龜年間善珠僧正の開基である。當初は七堂伽藍の整備せる大寺であつた。古來宮中に於て大元帥明王御修法を催される時には、その香水と壇土をこの寺に取られた。然るに保延元年火災に堂塔燒亡して、唯だ講堂と佛像とを遺すのみであつて、以後次第に衰頽した。

本堂〔國寶〕舊伽藍の講堂を鎌倉初期に大修理したもので五間四面、單層四注造本瓦葺の建築である。大體は奈良時代古建築の風格を傳へ、細部の手法桝組、虹梁、天井等には鎌倉時代の特徵を現はし、純和樣建築の面目を有して居る。

本尊木造藥師三尊像〔國寶〕本堂安置、兩脇侍の形相に特異の形式を存する藤原時代の作である。

技藝天像〔國寶〕頭部乾漆、體軀は木造、身首その材料の異なる如く製作年代を異にする。頭部は男性的の凛

凛しい相好の中に優雅溫麗の氣を含み、奈良時代乾漆像中天部の面貌として異彩を放つて居る。かゝる尊い乾漆の首に木造の體軀を補作した鎌倉時代彫刻は、雄健な手法を以てその凛然たる面貌に調和せしめ、こゝに完好な天部像となした。

大元帥明王堂　堂は三間三面入母屋造、近年の建築であるが、本尊は有名な大元帥明王像で國寶に指定されて居る。木造著色高六尺五寸、一面六臂踏割、蓮花上半裸の立像にして頭髮逆立ち筋肉逞しく、首、手足、腰に蛇を纏ひ、威力充實の忿怒相を示して居る。玉眼を用ゐず、刀法に古風の存する鎌倉時代の作で、彫像として現存する最古の大元帥明王像である。

寶物

左記寶物は奈良帝室博物館へ出陳

一梵天立像〔國寶〕木造　一軀
傳安阿彌作

一救脫菩薩立像〔國寶〕木造　一軀
傳法橋作

一帝釋天立像〔國寶〕木造著色　一軀

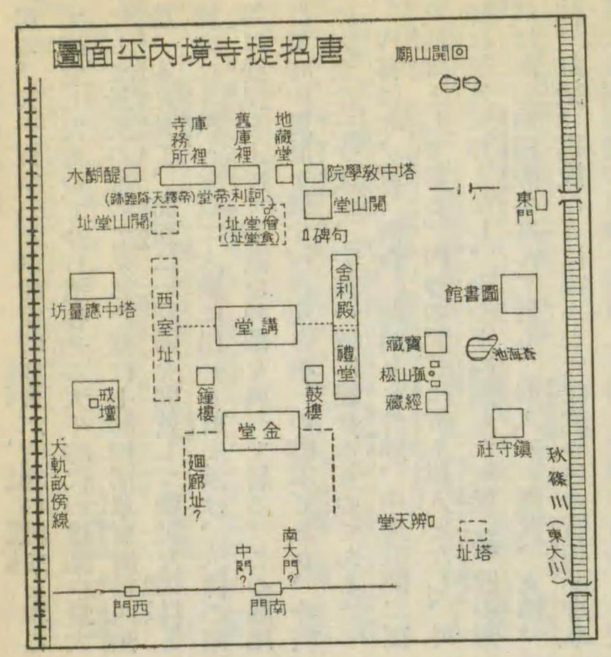
一十一面觀音立像〔國寶〕木造　一軀
傳安阿彌作

一地藏菩薩立像〔國寶〕木造　一軀

【喜光寺（菅原寺）】〔法相宗〕　大軌尼ケ辻下車、伏見村菅原にある。養老五年行基菩薩の開基にかゝる寺で、元明、元正、聖武三代の勅願所であつたと云ひ、後、興福寺一乘院に屬し、室町時代には一乘院の門主の隱栖地となつて居た。

本堂（金堂）〔國寶〕　五間四面、重層、屋根四注造、本瓦葺で、創建當時の土壇及び舊礎の上に建てられ、前面一間通り吹放し、軒は上層二軒、組物上層四手先二重支輪、內部二重虹梁、折上組入天井で、天平建築に則つたものであるが、寺傳に應永年間の建立と云ふが如く、細部の手法室町初期のものであることを示して居る。本尊木造阿彌陀如來坐像は國寶である。

【垂仁天皇菅原伏見東御陵】（一九圖なる）　同尼ケ辻の西約三〇〇米、都跡村尼辻西池にある。唐招提寺の西北にあたり、南面して三段に築いた前方後圓墳で前後徑約三三米、前方部幅約三〇米、高さ約一三米、後圓部徑約三三米、高さ約一八米あり、松樹鬱蒼として繁茂し、幅廣い周濠が繞り、里俗蓬萊山と稱して居る。東南部の濠中にある小島の如き狀をなす圓墳は、天皇の命を



奉じて常世國に往き、非時香菓を齎らし歸つた田道間守の墓と傳へて居る。陪塚は尙この他に西方に三基存する。

【唐招提寺】〔律宗總本山〕（一九圖なる）　大軌西の京の東北半粁、都跡村にある。當寺は天平寶字三年、唐の高僧鑑眞（過海大師）が聖武天皇の御爲め新田部親王の舊宅に創建した我が國最初の律宗寺院である。一に龍興寺、建初律寺、唐律招提寺とも呼ばれ、平城七大寺の一として寺運大いに榮え、諸堂宇も完備して居た。中世はあまり振はなかつたが鎌倉時代に至り、覺盛上人によつて中興された。その後戰國時代に際會して寺祿及寺域を縮少され、江戸時代に入り、將軍綱吉及桂昌院の寄進を得て諸伽藍に修理を加へ、稍舊觀に復するを得た。現存諸堂宇中には創建當初の金堂と講堂を始め、禮堂、鼓樓、校倉等、鎌倉時代の建築があつて、各時代の優秀な佛像が安置され、寺寶中にも名品及貴重な古寫經が少くない。

金堂〔國寶〕　南大門を入ると正面の石壇上に建つて

居る。天平寶字三年創建當時如寶が有緣の檀主を率ゐて建立したもので今日遺存せる天平時代の建築中最大にして最美のものである。堂は七間四面單層屋根四注造、本瓦葺で、前面は一間通を開放して豐肥な列柱と雄大な斗栱とを以て大膽に出せる軒を承け、大棟の兩端に鴟尾を上げて莊重な外觀を與へて居る。この鴟尾は當時の遺制を徵すべき現存唯一の標本であり、斗栱は完全な三手先で、完美の域に達せるものである。

內部は北、東、西各一間通りを外陣、中央五間二面を內陣として居る。內陣の天井は折上組入となし、外陣は組入天井となし、その下に架した虹梁・蟇股の形狀は頗る曲線美に富んで居る。尙天井の格間、支輪、柱、虹梁、蟇股などに描かれた繧繝彩色の寶相華唐草等は雄麗豐美の氣象を發揮して居る。要するにこの堂は規模雄大にして裝飾秀麗、今日遺存せる當代建築の代表的遺構である。

內陣の中央石を以て築かれた佛壇の上には本尊盧舍那佛像をはじめ、藥師立像、千手觀音立像、梵天、帝釋天立像及四天王立像等何れも奈良時代の優秀な佛像が安置されて居る。

盧舍那佛坐像〔國寶〕金堂の本尊である。乾漆塗箔の巨像で高十尺姿勢雄偉、面貌特に森嚴、天平時代の末に成れる最も偉大にして技巧最も優れた彫像で、特に全體の格好最も權衡を得、その衣襞の施設甚だ自由にして寫生の要を得た作である。螺髮は木製で頭に漆付になつて居る。佛體の構造は內部に桙を組み布を張り漆で固めて塗り上げた所謂木骨乾漆造である。その巍然として舊面目を失はざる千釋迦の大光背も本尊と同時の作で、他に類例のない樣式である。臺座も豐麗な蓮瓣と框を備へて居る。

藥師像〔國寶〕本尊盧舍那佛左方の脇侍である。木心乾漆の立像で高一丈二尺二寸あり、本尊ほど精巧ではないが、相好重厚、褶襞の流れ放大で特殊の形式を示して居る。本尊と同時の作であることは疑ひない。

千手觀音像〔國寶〕本尊の右方に侍立する威風堂々たる乾漆塗箔の巨像で總高十七尺六寸、その形相は三眼

にして頭上に十一面を戴き、前面上部の二手を合掌し眞手四十二臂、その間に簇出して居る小手を合せて如實に千手を現した類例のない靈像であつて、その複雜した形態を巧妙に綜合した技法は非凡である。特にその光背の浮彫華文は美麗且豐富にして、天平獨得の長所が見られる。

梵天帝釋天立像〔國寶〕本尊の前方左右にあり、木造彩色、高さ六尺餘、天平時代の優秀な作である。臺座の蓮肉內にこの像製作當時に樂書されたものらしい人物、馬、蛙、寶相華等の戲畫が珍らしい。

四天王立像〔國寶〕須彌壇の四隅に立つて居る。木造彩色高さ約六尺古四天王像中の優作で、梵釋二像と同時代のものである。

大日如來坐像〔國寶〕もと西山別房にあつたものと傳へ、今本堂の外陣に假安置されて居る。木像高十一尺餘、相貌頗る雄壯な平安初期の作である。

講堂〔國寶〕金堂の後に立つて居る。當寺創建の際平城京の朝堂院內にあつた朝集殿を賜はり、こゝに移建されたのである。移建の際に於ける變更や後世の修補で、幾分原狀に變化を生じて居るが、奈良時代に於ける宮殿建築の俤を見るべき唯一の遺構である。九間四面、單層屋根入母屋造、本瓦葺で輕快溫雅の風致に富んで居る。堂內の佛像及樂器などの中注意すべきものを次に說明する。

彌勒菩薩像〔國寶〕講堂安置の本尊である。寄木造漆箔、高さ九尺餘の巨像で、形態重厚にして手法堅實、鎌倉初期の作である。光背及臺座も同時の作で、胎內に弘安十年修理の墨書銘がある。

持國天增長天立像〔國寶〕本尊彌勒菩薩像の左右にあり、高さ各四尺餘、檜材の一木彫で、唐招提寺獨特の形式を有する天平末期の作である。

行基菩薩坐像〔國寶〕寄木造著色玉眼、高三尺八寸、豪宕な運慶風の手法に成る鎌倉時代の作である。

佛部坐像〔國寶〕二軀あり、釋迦及多寶如來の像と傳へて居る。兩者共高さ三尺に達せざる坐像で、所謂唐招提寺樣の作風を示した平安朝初期の作である。

菩薩立像〔國寶〕觀世音像と傳へ、貞觀時代の一木彫で頗る刀法堅實、清新の氣に滿ちた作である。

如來形立像〔國寶〕木造高さ五尺餘、頭部及兩手等缺失して居るが、殘存體軀衣文の豐麗な平安時代初期の優秀な作である。

佛　頭〔國寶〕木心乾漆、高さ二尺九寸　一個
佛　頭〔國寶〕木心乾漆、高さ一尺九寸　一個
菩薩　頭〔國寶〕木心乾漆、高約二尺四寸　一個

以上三箇とも木で形を刻み、上に厚く乾漆を着けたもので、今はそれが殆んど剝落して居るが、そのために造像の手法が知られる。本寺の彫刻は多く奈良時代末期から平安初頭にかけて作られたが、これ等の佛頭もその一類で、相貌雄偉氣宇壯大所謂唐招提寺樣を示し、平安時代初樣式の先驅をなすものである。

十一面觀音立像〔國寶〕木造著色、高さ五尺八寸、一木彫成にして寶冠金具、髻頂如來相、輪圓光、左右垂下天衣、寶瓶、臺座伏仰蓮座が後補である以外は全體具足し、彫刻の技精妙にして暢達、奈良末期と平安初期との間に於ける連系として造像史上珍重すべき優秀な作である。他にこの像と形相作技の近似せる十一面觀音像は東京帝室博物館に出陳されて居る。

大威德明王像〔國寶〕木造、高さ約三尺、六面六臂六脚の像で、水牛に乘つて居る平安時代の作である。

不動明王坐像〔國寶〕木造、高さ二尺餘、雄大な氣魄と折伏の威力は乏しいが、一種の精神力を感ぜしめ、細かい造形上の注意が見られる。作者湛海は生駒山寶山寺の中興と稱せらるゝ江戸時代の高僧である。

鼉太鼓緣〔國寶〕木造、高さ約十尺、玉を持てる双龍が左右相對し、雲を吐いて昇天の勢を示せる浮彫を光背形輪廓に取り付けられて居る堂々たる形態のものである。

鉦鼓緣〔國寶〕二個あり、何れも木造、高さ約五尺、鼉太鼓緣と同時代のものである。

鼓　樓〔國寶〕金堂と禮堂の間にある。三間二面、重層、入母屋造、本瓦葺、仁治元年の建築で、もとは經藏であつた。鎌倉時代の特色を存して居る。

禮　堂〔國寶〕鼓樓の東に細長く延びて居る建物である。桁行十九間、梁間前三間後四間、單層屋根入母屋造本瓦葺、鎌倉時代の建築であるが、近世の修補が少なくない。

釋迦如來立像〔國寶〕木造、禮堂の本尊で建仁三年解脫上人が講堂を修補した時に安置して釋迦念佛會の本尊としたのである。高さ五尺四寸、用材は赤栴檀と稱せられ素地の儘で衣文に截金で線と圓紋が描かれて居る。鎌倉時代に嵯峨清涼寺の釋迦を模造したものである。廚子は江戸時代の作で內面に胡粉彩色の釋迦傳が描かれて居る。

經　藏〔國寶〕禮堂の東隣にある。三間三面校倉造の建築で、當寺創建當時のものであるが、鎌倉時代の修理を經て居る。

寶　藏〔國寶〕經藏の北にあり、建築樣式は經藏と同樣で、同じく鎌倉時代に修補された奈良朝時代の建築で、內部に多くの寶物を藏して居る。

開山堂　講堂の東にあり、當寺の開祖鑑眞和尙坐像と、中興開山大悲菩薩坐像が安置されて居る。

鑑眞和尙像〔國寶〕鑑眞和尙は當寺の寺寶東征繪傳に詳しく述べられて居るやうに、海路幾多の辛酸を嘗め兩眼の明をさへ失つたが、遂に天平勝寶五年來朝して我が國戒律宗の祖となつた大德である。この像は天平寶字七年に本寺の唐僧忍義が夢に講堂の梁が折れて落ちたと見て、和尙入滅の兆を知り、和尙の高弟唐僧思託に命じて作らしめたと傳へて居る。その造像法は紙を張り重ねて塗り固め、更にその上に著色を加へたもので、俗に紙張の像と稱する珍らしい像である。高二尺七寸、兩手を膝の上に置いて端坐し、兩眼を閉ぢ、失明の姿を現はして居る。乾漆塑造像等に見る自由な技巧は見られないが、よく個性の特徵をとらへた肖像として注意を値する。

大悲菩薩坐像〔國寶〕木造高五尺九寸、本寺の中興開山覺盛の像である。胎內に「于時應永乙亥二年八月十七日奉造立之所也招提寺大佛師成慶康慶法眼之流南都興福寺住」の墨書銘がある。細微な手法のものである

が纖弱に流れず、相當氣力も現はれて居り、形態も纏まり、この時代肖像中の白眉である。

地藏堂　開山堂の西方にあり、國寶に指定された木造地藏菩薩の立像が安置されて居る。高さ五尺五寸、頭部に薄く乾漆を着せて居る。奈良時代の雄健な作風を帶びた平安時代初期の作である。

寶物

一法華曼荼羅圖〔國寶〕絹本著色　一面
一天部形立像〔國寶〕木造　一軀
一三尊佛〔國寶〕押出銅造　一面
釋迦三尊を中央に二菩薩二飛天六化佛天蓋を配した竪一尺五寸横八寸餘の唐式押出佛の優秀なものである。
一聖德太子立像〔國寶〕木造　一軀
鎌倉末期の製作で太子孝養像中の佳作である。
一阿彌陀如來像〔國寶〕磚製　一面
竪一尺一寸横五寸餘像の頭部と脇侍を失つてゐるが作技優秀唐朝製作のもので像の下方に區劃を作り供養者獅子天人等を現してゐるのは珍とすべきである。
一根本說一切有部戒經及老母六英經〔國寶〕　二卷
紙本墨書、天平十二年五月一日光明皇后御願經の跋文がある

一大般若經卷第一百七十六〔國寶〕　一卷
紙本墨書、願文に寶龜十年閏五月朔云々とある。
一大毗盧遮那成佛神變加持經〔國寶〕　一卷
紙本墨書、上下二段に書寫した他に類例のない珍らしい形式の寫經である。裏書に承曆三年九月五日讀了とあり書寫年代は平安朝中期で音訓加點あることも貴重である。
一瑜伽師地論〔國寶〕　一卷
紙本墨書、弘安五年中宮寺尼信如移點の奥書があるが、本文書寫の年代は平安朝中期である。
一四分律剛繁補缺行事鈔卷下之三〔國寶〕　一卷
紙本墨書。平安朝中期の書寫で現存行事鈔の最古のものである。
一戒律傳來記上卷〔國寶〕　一卷
紙本墨書、天長六年當寺の豐安律師が勅によつて撰述したのを平安朝末期に書寫したもので、それに保安五年白點を加へたことが奥書で知られる。
一四分戒本〔國寶〕　一帖
紙本墨書、寛元元年書寫の奥書がある。
一梵網經〔國寶〕　二帖
紙本墨書、寛元元年書寫の奥書がある。
一寶篋印陀羅尼經〔國寶〕　一帖

紙本墨書。
一唯識三十頌、大乘百法明門論、般若心經〔國寶〕　一帖
紙本墨書、覺盛筆、寶治元年書寫の奥書がある。
一法華經、開結共、〔國寶〕　十帖
紙本墨書、覺盛筆寛元元年二月書寫。
四分戒本以下盡く當寺の中興開山覺盛の書寫本である。

左記寶物は奈良帝室博物館出陳

一東征繪傳〔國寶〕　五卷
絹本著色、鎌倉時代永仁六年に畫工蓮行の描いたもので、詞書は四筆より成り、支那の高僧鑑眞和尚が支那から我國へ渡來して當寺を開創するに至つたまでの物語を、繪卷物に仕立てたものである。
一大威德明王像〔國寶〕絹本著色　一面
一唐招提寺勅額〔國寶〕木造　一面
一寶生如來立像〔國寶〕木造　一軀
一獅子吼菩薩立像〔國寶〕木造　一軀
一衆寶王菩薩立像〔國寶〕木造　一軀
一佛頭〔國寶〕木造　一箇

左記寶物は京都博物館出陳

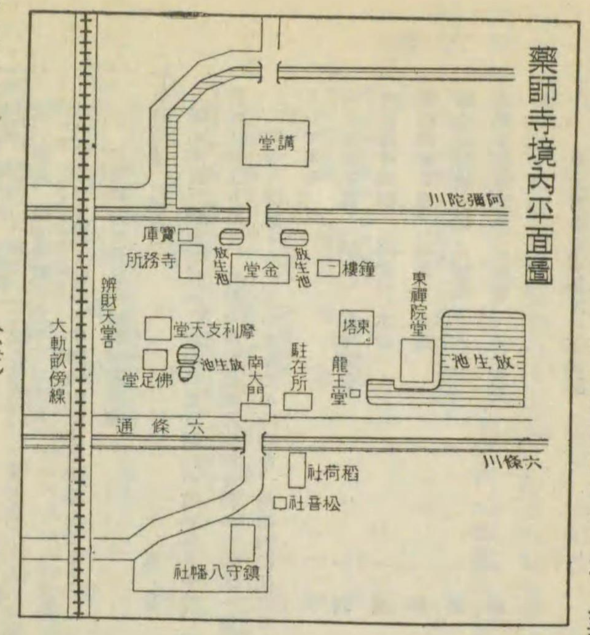
一十六羅漢像〔國寶〕絹本著色　十六面
一藥師如來立像〔國寶〕木造　一軀

【西方院阿彌陀如來立像】〔國寶〕塔頭の一で鎌倉時代慈禪上人の開基にかゝる西方院の本尊で木造、高三尺三寸、檜材寄木造、漆箔、玉眼、肉髻と白毫に水晶嵌入左足枘外側に「巧匠法眼快慶」同内側に西方（花押）右足枘外側には「□□□年癸卯十月日」の墨書銘があり、容姿整美、衣襞流麗、快慶の作として著名な遺品で、鎌倉時代彫刻の一名作である。

【藥師寺】〔法相宗大本山〕（一九圖な3）同西の京の東南 三〇〇米、都跡村唐招提寺の南方にある。

當寺は南都七大寺の一で天武天皇即位八年、皇后の御惱平癒を祈らんがために創始する所にして、持統天皇を經て文武天皇二年に諸堂の構作略々完了した。もと高市郡木殿に在りしを平城遷都に伴うて養老二年今の所に移建された。當時の規模は寺域十二町を有し、東西兩塔、金堂、講堂、食堂、鐘樓、經藏の外東院、西院、僧坊等を加へ、一大伽藍を成し、大安、元興、興福、東大の諸大寺の列に加はり、聖武、孝謙兩帝當寺に遷御し給ひしこともありて、朝家の尊信また重き

ものがあつた。平安遷都の後もまた南都大寺の一として常にその勢を保ち、餘勢鎌倉時代に及びしが、室町時代に至り、應仁の亂以後兵燹に禍されて伽藍燒失していたく衰微した。江戸時代に入り德川幕府より寺領を寄せられ、また郡山城主の保護を得て寺勢やゝ挽回し



以て現今に及んで居る。

現存の古建築中移建當初のものは、金堂の正面左手に建つて居る三重塔婆のみであるが、その位置は、金堂の前面東西に一基の塔婆が相對して建つて居たその東塔で、西塔の方は慶長二年に燒失した。金堂の前面に東西兩塔を配置することは、奈良時代に生れた伽藍配置の新形式で、法隆寺に見る如き飛鳥時代の伽藍配置とは全く異つて居るのである。その他現存古建築の主なるものは金堂、講堂、東院堂等であるが、東院堂は鎌倉時代、金堂及講堂は江戸時代の再建である。この外に有名な佛足石並に佛足跡歌碑を收めた佛足堂がある。

三重塔婆(東塔)〔國寶〕その年代は法隆寺、法起寺、法輪寺等の塔婆に次ぐもので、奈良時代初期所謂白鳳時代の建築として唯一の遺構である。初層は方三間、第二層と第三層は方二間の三重塔婆で、各層に裳階を附けたため、一見六重塔婆の觀を呈して居る。初層より上階に至るに從つて漸次減縮し、その間に裳階の淺

き屋根を存し、隨て屋根の形が每層交互に大小伸縮して奇拔雄麗の輪廓となり、加ふるに屋根の勾配緩にして軒の出多く、各層減縮の度比較的大なるを以て安定の外觀を呈する。頂上には最も適當な長さの相輪が高く聳え、その形狀秀美にして飛天を透彫にせる水煙の端麗なる他に類例がない。塔の全高百二十五尺啻に形の珍奇なるのみならず、その權衡も殆ど完美と云ふべく、塔婆中最も秀麗なるものゝ一として、我が建築史上重要な位置を占めて居る。細部についても特に注意すべく、礎石に柱を承くべき作り出を生じ、柱は各層とも圓柱で、下は太く上は細くなり、そのエンタシスは法隆寺のより減じて居る。裳階の柱には比較的細い角柱を使用して居る。桝組は裳階には單純な三斗を用ゐて居るが、各層には尾垂を有する三手先を使用して居る。これは三手先桝組の初期の實例である。また桝組が三手先になつた結果、軒裏に小天井が出來、軒が二重垂木となり、推古時代のものより構架に一段の進歩をなした。內陣は折上組入天井で唐草唐花が極彩色で描いてある。心の柱を中心にしてもとはこゝに塑土で釋迦八相中の四相が作られて居たが今は亡くなり、須彌壇の上に大日如來と四天王の像が安置されて居る。尙相輪の擦には次の刻銘があつて、當寺の緣起を述べた貴重な資料である。

維清原宮馭宇　天皇卽位八年、庚辰之歲　建子之月　以中宮不豫　創此伽藍　而鋪金未遂　龍駕騰仙　大上天皇奉遵　前緒遂成斯業　照先皇之弘誓　光後帝之玄功　道濟郡生　業傳曠劫　式旌高躅　敬勒貞金　其銘曰。巍巍蕩蕩　藥師如來　大發誓願　廣運慈哀　猶猟聖王　仰延冥助　爰飭靈宇　莊嚴調御　亭亭寶刹、寂寂法城　福祟億劫　慶溢萬齡

金堂　最初の金堂は享祿元年の兵火に燒失し、現在のは慶長年間の再建で注意に値するものではないが、堂內に著名な藥師三尊像が安置されて居る。

藥師及脇侍像〔國寶〕創建當時勅願によつて出來た本尊で、當寺が今の地へ移建された時、高市の舊地から移坐されたのである。金銅の三尊像で中尊は坐像高八尺四寸、兩脇侍立像共に十尺餘、本堂炎上の爲め火焰と雨露とにその燦たる金色を失ひ、今は美はしく滑かな

黑光を放ち、大理石の壇上奇拔な臺座に、巨大にして相好圓滿なる三尊相並ぶ偉觀は全く他に類例が無い。初唐の優秀な形式の粹を傳へ來りて、精練し且つ醇熟せしめたもので、形態の整美にして、衣襞の宛轉自在なる、全體の肉付豐滿にして柔か味に富み、推古佛に見る古拙と形式的硬化は全く無く、優美と嚴肅を兼ね備へた秀麗な傑作である。

中尊の坐せる臺座は特に注意を値する。その形式は法隆寺金堂の釋迦三尊及玉蟲厨子のそれと同樣である。鑄銅製で臺座の周緣に施された葡萄唐草、寶玉裝飾は精巧優美にして、よく奈良朝初期の特徴を示して居る。この外特に珍らしいのは、腰部四面に裸體の蕃人を、下層の四方に青龍(東)白虎(西)朱雀(南)玄武(北)の四神を鑄出して居ることである。かくて本像は世界に推賞さるべき作品である。

講堂　金堂の後にあり、當初の講堂は天祿四年に燒失し、現在のは文化年間の再建である。堂內に國寶の本尊藥師三尊像が安置されて居る。

藥師如來兩脇侍像三軀〔國寶〕金銅製、中尊は坐像で高さ九尺、脇侍日光月光は立像で共に九尺九寸、その形態は金堂の藥師三尊像によく似て居るが、著しく遜色がある。尙所々に、後世修補の手が加へられて居るが、唐式を傳へた奈良時代前期の作である。

東院堂〔國寶〕三重塔婆の東にある。東禪院とも稱し、緣起には吉備內親王が養老年間元明天皇のために造立せる所と傳へ、また一說には養老五年長屋王の創建と稱して居る。現存の建物は弘安八年の再建、七間四面、單層、屋根入母屋造本瓦葺の和樣建築である。棟低く、屋根の流れゆるやかにして、木割は寧ろ纖細である。鎌倉期の堂宇として整備完璧の建築である。內陣中央に須彌壇を設け、壇上中央の厨子內には有名な本尊聖觀音の立像が安置されて居り、四隅に四天王立像がある。その他堂內には國寶の木造二天立像及喜光寺藏の國寶木造阿彌陀如來坐像がある。

聖觀音立像〔國寶〕金銅製、高六尺二寸二分、左手をあげ、右手を垂れ、蓮華座上に立てる正面像である。

その面相をつくる微妙、その襞襞を設くる婉曲、この整美殊妙の靈像を載するに堂々として美麗なる華座を以てする、實にこれ初唐造像の範を直模して、その技神に入るもの、法隆寺壁畫と相對して双璧と稱すべく、奈良時代初期の大傑作である。

二天立像〔國寶〕持國多聞二天の立像で寄木造著色、高さ約三尺七寸、藤原中期の作で姿態自然にして溫秀の作である。

佛足石〔國寶〕金堂に向つて左手放生池の西側の佛足堂內に安置されて居る。佛足石は釋迦佛の足跡を印せる石で、釋迦三十二相の一である千輻輪その他の記號が現はされて居る。佛足跡の禮拜は古く印度に起り、西域、支那を經て日本にも傳つたのである。この佛足石は我が遣唐使の將來せし模本によつて、天平勝寶四年に彫刻したもので、現存中最古の佛足石として名高い。全長凡二尺二寸、幅凡三尺七寸、奧行凡三尺八寸二分の不規則な六面の石上面に千輻輪具足の佛足を線彫にし、前後左右の面に佛足禮拜の事、佛足石の由來、諸行無常の偈文、佛像、草花等が刻してある。

佛足跡歌碑〔國寶〕佛足石の後に立てる石碑である。高六尺三寸九分、幅一尺四寸八分、厚二寸。碑の表面を上下二段に劃し、和歌が二十一首萬葉假名で刻されて居る。上段に十一首、下段に十首、各首一行に書き下されて居る。そのうち十七首は佛足跡を恭ふ歌であり、殘る四首は呵嘖生死を詠んだものである。作者を光明皇后と傳ふるも、この傳說は信じがたいが、天平時代のものであることは疑ひなく、當時に於ける佛教信仰の一端を徵すべく、また我が歌學史上珍重すべき資料である。

寶物

一大津皇子坐像〔國寶〕寄木造彩色　高さ一尺三寸　一軀
藥師寺八幡宮に祀られたもので鎌倉時代神像彫刻の一例である。その頤太く肩の怒れる胴體は、當時の佛像彫刻の影響を示してゐる。面相は童兒の寫生の如く、かくてこの像に自ら實人の肖像以上に森嚴が加はり、作者の工夫も窺はれる。
左記寶物は奈良帝室博物館出陳
一慈恩大師像〔國寶〕絹本著色　一幅

一神　像〔國寶〕　六面
　板繪著色　永仁三年堯儀筆
一十一面觀音立像〔國寶〕木造　三軀
一彌勒菩薩坐像〔國寶〕木造　一軀
一比丘八幡神坐像〔國寶〕木造　一軀
一神功皇后坐像〔國寶〕木造　一軀
一仲津姫命坐像〔國寶〕木造　一軀
一增臺阿含經〔國寶〕　一卷
　紙本墨書　科野虫麿筆
一大般若經〔國寶〕紙本墨書　三三卷

【八幡神社若宮社殿】〔國寶〕藥師寺南大門の南に接して居る。藥師寺の鎭守、八幡神社の攝社で本社の背後にあり、一間社春日造、屋根本瓦葺の小建築で鎌倉時代の遺構であるが補修が多い。

八幡神社の社寶に國寶の木造狛犬一對あり、奈良帝室博物館に出陳中である。

【赤膚燒】藥師寺の西方に連る丘陵を五條山と云ひ、赤膚燒と稱する古雅な陶器を產するが、その產額は多くない。

【あやめ池遊園地】（一九圖は1）大軌菖蒲池下車、驛によつて南北二園に分かれて居る。北園は上下合せて廣さ約三、三〇〇アールに達する二池を中心として、ウオーターシユート、餘興館、グランド、運動具、東洋民俗博物館、不動堂、旅館等を設け、約三十種三十萬株の花菖蒲の外、櫻、躑躅、萩等を植ゑてある。南園は面積約三、三〇〇アール、多量に湧出する炭酸泉を利用して大溫泉場を設け、こゝにも種々の設備がある。

【東洋民俗博物館】あやめ池遊園地內にあり。左右二館に分かれ、左館は繪馬參考品、農民藝術、石器と土器、魔除禁厭、性崇拜資料、ロシヤ、支那、印度、朝鮮、琉球、臺灣に關する土俗風俗品を、右館は古制札、古事記人形、土俗玩具、皺人形、支那、南洋、日本の面その他を陳列して居る。陳列品は約一萬點に及ぶと云ふ。

【長弓寺本堂】〔國寶〕大軌富雄の北約三粁、生駒郡北倭村上にある。桁行五間、梁間六間、單層、屋根入母屋造、檜皮葺で、正面一面の向拜を附して居る。弘安二年の再建で屋根の勾配緩く反轉輕妙で鎌倉時代中期の建築にかゝる。

【添御縣坐神社本殿】〔國寶〕同富雄の南約一粁、生駒郡富雄村三碓にある。式內社で添田の天神と稱し、五間社、流造、正面千鳥破風付、屋根檜皮葺で室町時代中期の作である。

【靈山寺】（古義眞言宗）（一九圖は3）同富雄の南二粁、生駒郡富雄村中にある。天平勝寶八年、婆羅門僧遷那、行基菩薩と俱に創建したと云ふ寺である。

本堂〔國寶〕桁行五間、梁間六間、單層、入母屋造、本瓦葺で、棟札に弘安六年癸未十一月四日大工頭末淸引頭國重の銘ありて建立年代を知る事が出來る。安置の本尊は藥師如來及兩脇侍像三軀で木造、平安時代初期の樣式から藤原時代の樣式に移る過渡時代の特色を表はした作品で國寶であるが、中尊の胎內に「釋迦牟尼佛弟子比丘得勢、女秦三子」の墨書銘及紙本墨書治曆二年十二月十四日の願文があり、像と共に國寶に指定されて居る。

三重塔〔國寶〕三間三層塔婆、初重棧瓦葺、二重柿葺、三重檜皮葺、本堂と同じく鎌倉時代の遺構で、よく當時の特質を示して居る。

寶　物

一阿彌陀如來坐像〔國寶〕木造　一軀
一大日如來坐像〔國寶〕木造　一軀
　共に藤原時代の作である。
一十二神將立像〔國寶〕木造　十二軀
　鎌倉時代の典型的の像で恐らく弘安再興の折の作であらう。
　左記寶物は奈良帝室博物館出陳
一十一面觀音立像〔國寶〕木造　一軀
一持國天多聞天立像〔國寶〕木造　二軀
一華　鬘〔國寶〕木造　二枚
一彌陀三尊像〔國寶〕磚製　一枚

【東光院毘沙門天立像】〔國寶〕靈山寺の塔頭東光院の寺寶、一木造の像で鎌倉時代初期の作である。

【地藏院地藏菩薩立像】〔國寶〕靈山寺の塔頭地藏院の本尊で木造、肉身衣體共に金粉を塗り、文樣に截金を用ゐた鎌倉時代の作である。

【十六所神社本殿】〔國寶〕 靈山寺内にある。もと靈山寺の鎮守で本堂左後の高地に南面し、左に龍王神社他一社、右に住吉神社他一社と、都合五社並列した中央の最も大きな社殿で、一間社春日造、屋根檜皮葺、棟木に至德五年甲子六月の銘を存する。住吉神社及び龍王神社社殿も同じく一間社春日造、屋根檜皮葺、本殿と共に至德元年の造立で二社とも國寶である。

【長福寺】〔眞言律宗〕 大軌生駒驛の北約一粁半、生駒町俵口金龍にある。本尊の阿彌陀如來は古來有名な靈像である。本堂は桁行五間、梁間三間、一間の向拜を附し、單層、屋根入母屋造、本瓦葺で、弘長年間の建物と云ひ國寶である。寺寶の鍍金銅製能作生塔は國寶で奈良帝室博物館に出陳中である。

【生駒山】（二圖さ4） 大阪府と奈良縣との境に跨つて聳え、金剛山脈の北部を占める生駒山脈の主峰である。海拔六四三米、頂上からは東方に奈良市街、笠置山脈、西方に大阪市街が望まれる。

山腹の西側には興法寺、東側には寶山寺があり、殊に寶山寺は生駒の聖天と呼ばれて、世に名高い流行佛である。

【寶山寺（生駒の聖天）】〔眞言律宗〕 大軌生駒驛乘換、ケーブルカー寶山寺驛下車、生駒山の中腹にあり。もと般若窟と稱せられ、修驗者の行場であつたが、延寶六年寶山律師中興して伽藍を造營した。本堂は元祿年間の建立で、本尊不動明王は律師の自作と稱して居る。その他虛空藏を安置せる雲上閣、聖天堂、奥の院、鐘樓、庫裡等がある。近年參拜者甚だ多く、山上には大なる遊園地が設けられ、展望が頗る廣い。

寶物

一五大明王像〔國寶〕 木造厨子入 五軀

赤栴檀の一木造で、淡彩を施し、中尊不動明王の膝裏に元祿十四年十月十八日湛海造像の銘があり、湛海の傑作である。尙厨子にも同樣の銘がある。

左の三幅は奈良帝室博物館に出陳

一彌勒菩薩像〔國寶〕 絹本著色 一幅

平安末期の名作

一愛染明王像〔國寶〕 絹本著色 室町時代 一幅

一春日曼荼羅圖〔國寶〕 絹本著色 室町時代 一幅

【生駒山遊園地】 生駒山上にあり、海拔六四三米、面積約九、九〇〇アール、最新運動具、高さ約三六米の飛行塔、スケート場、サンマーハウス、食堂、無料休憩所等を有し、眺望がよい。

【行基菩薩墓】〔指定史蹟〕 大軌生駒驛乘換、信貴生駒電鐵一分の西南半粁、生駒村有里の山麓の丘腹にある。舊竹林寺境内で文殊山と呼び、今草叢中墓址を存し、文殊堂の土壇等を遺存する。竹林寺は行基の開基で天平二十一年菅原寺に寂するや遺命によつて遺骨をこゝに葬つたが、文曆二年發掘せられ、銀製骨壺を納めた墓誌刻銘の銅製容器を發見したので、その後土壇を修築しこれ等の藏骨器を埋め、上に文殊堂を建てたと云ふ。然るに戰國時代兵火に燒亡し、のち堂は再興せられたが、明治六年廢寺となつて、遂に廢滅し、堂下から發見した再造の舍利瓶塔は唐招提寺に移して保存されるに至つた。文曆に發掘されたもとの藏骨器等は凡て散逸し、唯銅製刻銘の容器（舍利瓶）破片が一箇、こゝから約三〇〇米竹林寺奥院の地と傳ふる興山の高瀨家に所藏されて居る。銅製鑄物、不正三角形の破片で幅約二糎の罫線のうちに雄健な文字を刻して居る。

文殊堂の扉二枚及び竹林寺舊藏の木造行基菩薩等身坐像等は唐招提寺にいま所藏され、後者は鎌倉時代中期の作にかゝり國寶に指定されて居る。

【圓福寺本堂】〔國寶〕 同一分驛の西南約一粁、南生駒村有里にある。桁行三間、梁間三間、單層、屋根四注造、本瓦葺、鎌倉時代の建物である。

境内に古き寶篋印塔二基あり、一基には、永仁六年の年紀銘が存する。

【寶憧寺本堂】〔國寶〕 信貴生駒電車南生駒の西約一粁、南生駒村小平尾にある。桁行三間、梁間五間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺、鎌倉中期の遺構で、須彌壇厨子の形式が美しいが、建物全體頽廢甚だしく、くづれ堂の別名がある。

【普門院聖觀音立像】〔國寶〕 信貴生駒電車平群驛の西一粁、平群村福貴志垣内にある普門院の本尊で木造、

平安初期の作である。この寺は貞觀年中法隆寺道詮律師の寓居であつたと云ふ。

【郡山町】（一九圖な4） 郡山驛所在地。奈良盆地の北部に位し、東西約二粁、南北約二粁三、面積凡一〇方粁、西部一帶は丘陵性の山地が南北に連つて居る。この地は柳澤氏十五萬石の城下であつた處で、城址今尚遺存し、同氏の祖先を祀る柳澤神社があり、花の名所に數へられる。産物に、綿絲、綿織物、金魚等がある。金魚はもと郡山藩士の副業として飼養されたもので、近年歐米諸國に輸送されるものが少くない。人口約一萬七千。

【郡山城址】 郡山驛の西一粁、郡山町市街の西にあり、犬伏城と呼び、天守閣その他の石壘及び濠池を存して居る。始め小田切春次の築城で、天正十三年豐臣秀吉の弟大和大納言秀長が修築したが、その後江戸時代に至り水野、松平、本多諸氏を經て、享保九年柳澤吉里入國して以來、子孫世襲して維新に至り、明治初年に城が毀たれた。本丸址に柳澤吉保を祀る柳澤神社あり、その南の二の丸址は城の主要部で今郡山中學校あり、その東南は三の丸址である。城壘の石材には古寺址の礎石が多く利用されて居る。今城内には櫻樹多く花時には見事である。城の北、箕山には豐臣秀長墓がある。

【淨慶寺阿彌陀如來坐像】〔國寶〕 郡山驛の西南 八〇〇米、郡山町字洞泉寺の淨慶寺の本尊で、木造、鎌倉時代の大作である。

【洞泉寺阿彌陀三尊立像】〔國寶〕 郡山驛の西南 九〇〇米、郡山町字洞泉寺にある洞泉寺の本尊で木造、總身粉泥塗の上に金泥文を畫き、製作健實精緻、鎌倉時代の優作である、寺傳の安阿彌作と稱するは特にその形式を物語るに過ぎない。

【千體寺千體佛厨子】〔國寶〕 郡山驛の南二粁、筒井村丹後庄にある千體寺の寺寶で、木造、鎌倉時代の和樣、唐樣兩式を混用した樣式手法を表はした厨子で、製作優秀である。

【金剛山寺】〔眞言宗高野派〕（一九圖ま4） 郡山驛の西約四粁矢田村矢田にあり、矢田寺と呼ばれ、矢田の地藏さんと俗稱される。天武天皇八年智通の開創にかゝり、金堂、講堂以下十數宇あり、本堂に安置する地藏菩薩立像は木造で試地藏と稱し、平安時代初期の作で國寶に指定されて居る。上念佛堂に安置の阿彌陀如來坐像は木造で、藤原時代の作にかゝり、十一面觀音立像は木造、平安初期の作で、木造の地藏菩薩立像と三軀何れも國寶である。北僧坊の虛空藏菩薩像及び南僧坊の毘沙門天立像は共に奈良帝室博物館に出陳中である。

春日神社本殿〔國寶〕 境内にあり、一間社春日造、檜皮葺、室町時代の建築である。

この寺より西方は金剛山城址で、楠氏關係の遺跡が多い。

【東明寺】〔眞言宗高野派〕（一九圖ま4） 金剛山寺の北約一粁生駒郡矢田村矢田にある。舍人親王の建立と傳へ、本尊藥師如來坐像は木造で藤原時代の作にかゝり、國寶である。寺寶の地藏菩薩坐像及び毘沙門天立像は何れも木造、本尊と等しく藤原時代の作で、奈良帝室博物館に出陳中の木造吉祥天立像と共に、三軀共に國寶である。

【矢田坐久志玉比古神社】（一九圖ま4） 東明寺の東南一粁半、矢田村矢田東良にある。矢田の地は往古玉作氏の居住地で、祖神久志玉比古命及び久志玉媛命を祭り、貞觀元年既に神戸を賜ひ、延喜式内の古社である。俗に矢田大宮と呼び、矢落社と稱する。

本殿〔國寶〕 一間社春日造、屋根檜皮葺で室町時代初期の建築にかゝり、幕股内には梅、牡丹、桃等の彫刻がある。

八幡神社社殿〔國寶〕 攝社で一間社春日造、屋根檜皮葺、本社殿の西に並び、等しく南面して居る。本殿より稍時代降り室町時代中期前後の建築である。

【小泉神社本殿】〔國寶〕 大和小泉驛の西 八〇〇米、片桐村小泉にある。一間社春日造、屋根檜皮葺で室町時代の建築である。

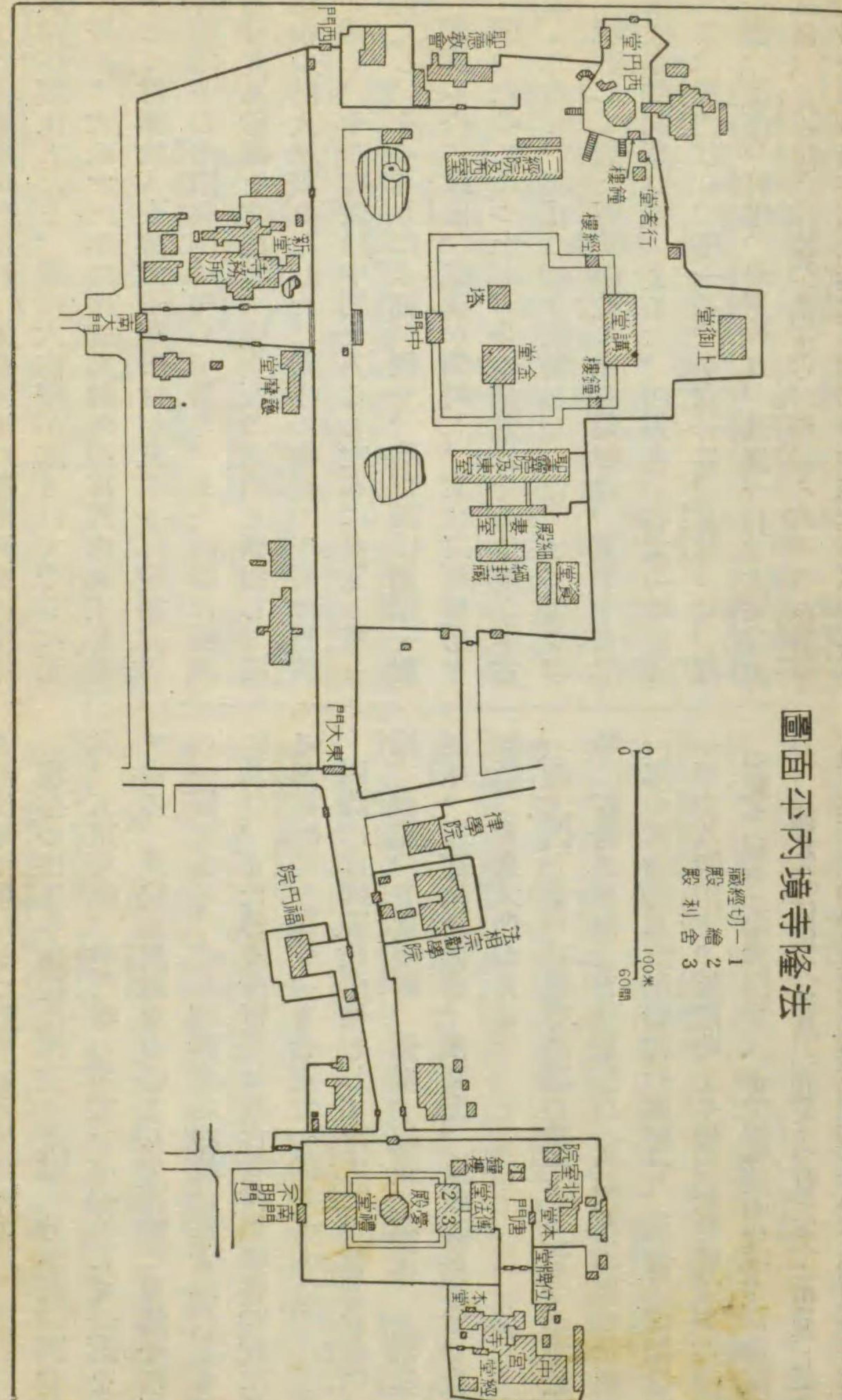
【勝林寺】〔融通念佛宗〕 大和小泉驛の西南約一粁半、富郷

村高安にある。大日堂に安置する十一面觀音立像、聖觀音立像及び藥師如來坐像の三軀の木像は、何れも國寶であるが、前二者は奈良帝室博物館に出陳されて居る。

【成福寺聖德太子立像】〔國寶〕法隆寺驛の東北一粁半、法隆寺村にある。聖德太子芦垣宮の舊址と云ふ成福寺の寺寶で、木造高二尺七寸餘、寄木造、玉眼、鎌倉時代末期の作である。

【法隆寺】〔法相宗大本山〕（一九圖ま6）法隆寺驛の北二粁、法隆寺にあり、自動車の便がある。當寺は用明天皇御不豫御平癒祈請の爲に建立を誓願せられたが、果さずして崩じ給うたから、推古天皇と聖德太子がその御發願の遺志を繼いで創建せられた。この地はもと斑鳩の里と稱し、聖德太子が前からこゝに宮室を營みて居住せられ斑鳩宮と稱せられた。それで寺を斑鳩寺とも鵤寺とも書かれてあるが、正しくは法隆學問寺である。聖德太子の創立せられた寺は、法隆寺以外四天王寺（大阪）、中宮寺（法隆寺の東）、橘寺（大和）、蜂岡寺（山城今の廣隆寺）、池後寺（大和今の法起寺）、葛城寺（大和今は廢絶）等があるが、當時の遺構をよく今に存するは獨りこの法隆寺あるのみである。勿論天智天皇九年罹災和銅元年再建の說もあるが、縱令それであつても天平式と判然異なつた飛鳥樣式をその儘に、創建當時の佛像と共に、一千三百年後の今日世界最古の木造建築が現存することは、眞に驚嘆すべき一大奇蹟である。

斑鳩宮は聖德太子遷化し給ひし後、蘇我氏の爲に御子孫上宮家の滅亡と共に全く荒廢して終つたので、天平十一年行信大僧都の奏聞によつて斑鳩宮の舊址に東院が創立され、八角圓堂即ち夢殿が建てられ、寺運の興隆を致した。その後汚隆常ならず、漸く年を經て東院の諸堂また荒廢したので、貞觀元年道詮律師の勸進に依りて、諸堂の大修理が行はれた。後三條天皇の初年より稍活動の運に向ひ寺運の回復なりしも、後源平の亂を經て次第に衰へ、東西兩院の堂宇また破壞したが、鎌倉時代に大修繕が加へられて大に復興した。慶長九年には豐臣秀頼の發願により、片桐且元を奉行と



法隆寺境內平面圖

してまた大修理が行はれ、元祿九年に將軍綱吉の生母桂昌院が願主となり、更に大修繕が施されて今日に至つて居る。大正十三年には故元帥久邇宮邦彥親王を總裁として財團法人聖德太子奉讃會が設立され聖德太子の偉德鴻業の奉讃講明に努めて居る。また政府は國庫から廿九萬餘圓を支出して完全なる水道を敷設して境內建物の防火施設をなした。當寺の伽藍の配置は百濟樣と稱し、その特徵は中門を入ると左右に金堂と塔と相對立し、その周りに步廊が廻り、奧正面に講堂を置き、廻廊の外に鐘樓、經樓が對峙し、更に三面僧房を以て圍つたのであつたが、今の講堂はその位置が中古後退したので、現在の如き配置となつた。さて天平年間に現存して居た西院伽藍の主要建物は、天平十九年の法隆寺流記資財帳によると、四方各一百丈の地に佛門二口、僧門三口、塔一基、金堂一口、食堂一口、廡廊一廻、鐘樓、經樓、僧房四口、溫室一口、大衆院屋十一口、その他倉庫等が掲げられて居るが、その中に講堂の記載の無いのは最初の講堂燒失後、この時にはまだ出來て居なかつたものと思はれる。

現存の法隆寺伽藍は西院と東院に分かれ、西院は金堂、五重塔婆、中門等の諸堂を中心として一廓をなして居る。東院は夢殿を中心として西院に東隣せる諸堂の一廓である。これ等諸堂の建築は推古時代より近世に及び、また佛像什寶類は推古時代以降各時代に於ける佛敎藝術を徵すべき貴重なる遺品である。

西院には國寶建造物として南大門、新堂、中門、廻廊、金堂、五重塔婆、鐘樓、經樓、講堂、上御堂、綱封藏、三經院及西室、西圓堂、聖靈院及東室、食堂、細殿、及東大門がある。

南大門〔國寶〕法隆寺外郭の總門で、當寺の創建と同時に經營されたことは疑ひなく、現存のものは永享十一年の再建卽ち室町時代の建築で、單層入母屋造三間一戶の八脚門で、形態のよく備つた建築である。

新堂〔國寶〕南大門を入りて寺務所の北、西園院にある。單層入母屋造三間三面の小持佛堂である。鎌倉時代の建築で、棟札に「新堂院棟上弘安七年甲申七月二日勸進上人圓覺大工橘國繼」と記されて居る。優秀なる手法になれる須彌壇の上に本尊藥師如來兩脇侍像三軀と四天王像が四軀安置されて居るが、何れも藤原時代の作で國寶に指定されて居る。

護摩堂　西園院の前にあり、堂は江戶時代の建築であるが、本尊木造不動明王及二童子立像三軀は國寶で二童子の臺座に康曆二年舜慶作淸玄彩色の銘がある。木造弘法大師坐像も國寶で、胎內に應安八年三月慶秀等造立の銘がある。

中門〔國寶〕主要伽藍の正面に建つ四間三面二戶の樓門である。左右の間に仁王像が安置され、中二間が中央の柱によつて二戶の入口となつて居るのは、特異の形式である。細部の手法樣式は金堂と同一で、全體の形態莊重にして安定、各部の均衡極めて整正にして、樓門建築として實に稀代の傑作である。左右の仁王像卽ち金剛力士立像は、頭部のみが塑像で他は總て木彫である。後世の補修が甚しい爲に、頗る見劣りがするが、製作は和銅頃とすべきである。

廻廊〔國寶〕桁行八十五間、梁間一間、單層屋根本瓦葺、構造飛鳥式である。中門の左右より起りて東西に延び、北折して更に內に屈折、鐘樓、經樓を貫きて講堂の兩脇に及び、凸字形をなして內に金堂及五重塔婆を圍んで居る。步廊が內に屈折して更に北折するあたりから先は藤原時代の改造になり、飛鳥時代に屬する他の部分とは柱を初め細部に著しい相違がある。

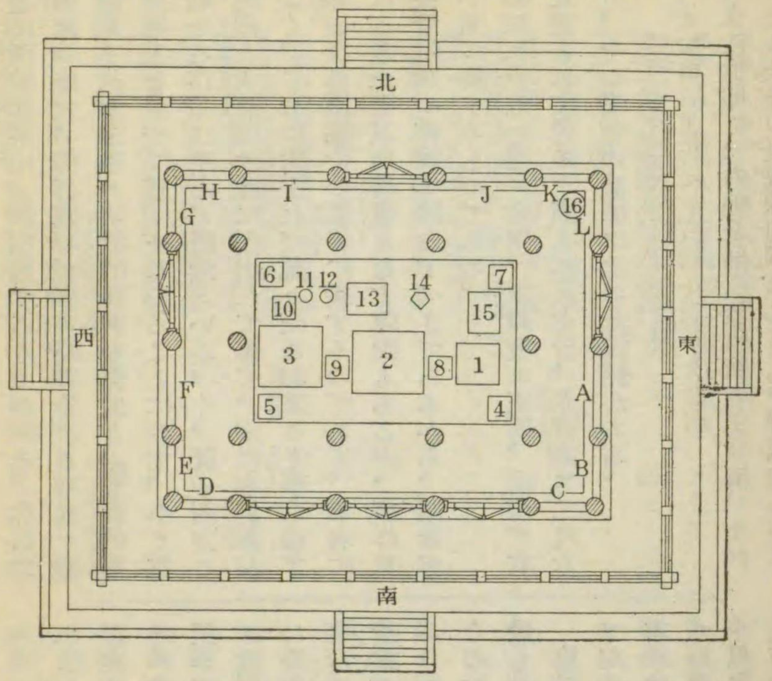
金堂〔國寶〕二重石壇の上に建つ、その上壇は當初のまゝの凝灰岩樣の石材を用ゐて、下壇は何時の頃よりか花崗岩に取替へられて居る。石壇を二重にすることも飛鳥時代の形式である。堂は下層五間四面、上層四間三面の重層の大建築で、屋根入母屋造本瓦葺である。下層四周の裳層は和銅年間頃に附加され、また裳層の上で四隅の屋根を支へて居る獸形、龍の卷きついた支柱、兩妻の飾等は何れも江戶時代の大修理の際附加されたものである。上下兩層の差額が大なのは、聳拔の觀を著しくすると共に安定の感を强からしめ、軒の出を深くしてその反を强くし、これを受けるに雲形

曲線の繰形を付けた雲肘木雲斗の構架を以てしたるその自由にして活達なる手法は鬼神の業かと思はるゝのである。更に上層に圍らす組勾欄に於ける腰組三斗間の割束地覆平桁間の卍字崩組子等飛鳥時代建築の特徴を發揮し、その外形姿態の莊重にして、しかも整美せる、如何に本願聖德太子の思構の非凡にして藝術味の豐富にましませしかに驚嘆せざるを得ないのである。

當代の特徴である何の細工も施されない高さ十尺、巾三尺の一枚板の大扉を見て內部に入れば、更に飛鳥樣式が眼前に展開せられる。美事に列ぶ太い圓柱は、氣持の好い膨みを持つ爲に、非常に落着いた感がする。柱上は三斗で、柱と大斗との中間に皿斗がある。桝組に雲斗及雲形肘木を用ゐ、その刳り方に獨得の趣好がある。中央三間二面を內陣とし、周り一間通りを外陣とする。天井は外陣組入、內陣は折上組入、格間と支輪間に胡粉地に蓮花文や寶相花唐草を彩畫してある。床は現在漆喰叩で、內陣全部白漆喰塗の須彌壇、それを廻らせる朱塗の擬寶珠勾欄は共に江戸時代のものである。壇上には諸尊の像が安置されて居る。天井下周りの小壁と外陣の四壁には有名な壁畫がある。

金堂壁畫（國寶）この壁畫は實に日本繪畫史上極めて貴重な遺作である。その主要部は金堂外陣の四方、十二面の壁に描かれて居る。畫題については異說があつて一定してない。西壁の阿彌陀佛卽ち無量壽佛の淨土には異論はないが、東壁と北方東寄の壁及び西寄の壁に描かれた淨土に就ては、寶生（東）藥師（北の東）釋迦（北の西）とも、また金光明經の四佛、無量壽寶生、阿閦、微妙聲と云ふ說もあるが、金堂の本尊を何れに定むるかゞ先決問題で俄に斷定し難い。他の八面の小壁には八菩薩の像が描かれて居る。製作の手法は藁、土、小砂利を混ぜた下塗りの上に、幾重にも土を塗り重ね、白土を塗りあげた後、膠で溶いた顏料を以て描いたものと云はれて居る。その畫は佛像の儀軌の出來る以前であるから、各尊の形態とその配列が頗る自由であつて、壁畫として裝飾的效果を充分に擧げて居る。尙佛菩薩の面貌と服飾にも特異のものがあつ

法隆寺金堂內陣佛像配置圖



1、藥師如來坐像　A、東方大壁
2、釋迦三尊像　B、東南小壁
3、彌陀三尊像　C、南東小壁
4、持國天立像　D、南西小壁
5、增長天立像　E、西南小壁
6、廣目天立像　F、西方大壁
7、多聞天立像　G、西北小壁
8、毘沙門天立像　H、北西小壁
9、吉祥天立像　I、北西大壁
10、普賢延命坐像　J、北東大壁
11、觀世音菩薩立像　K、北東小壁
12、聖觀音立像　L、東北小壁
13、橘夫人念持佛厨子
14、觀音菩薩立像（百濟觀音）
15、玉蟲厨子
16、伏藏

て、遙に西域藝術に一脈相通ずるものがある。然してその構圖の雄大、佛菩薩の面相容姿に於ける寫實と理想の驚異すべき調和、宗教的精神の偉大と、藝術的形象の美趣とを併せて感受せしむることに於て、かく迄に優越せる作品は殆んど絶無といふべく、就中西方の阿彌陀淨土大壁面は殊に傑出して居て、幸にも剝落が最も少く、これに對すれば魏々たる如來の光顏を仰ぎ殊勝希有なる兩脇侍の溫容に接するのである。筆者に就ては古來止利或は曇徴となす傳説もあるが、製作年代を覺層附加の和銅年間とすべきであるから、兩者何れも不明に屬するものである。

藥師如來坐像〔國寶〕金銅、須彌壇の正面、向つて右側に安置されて居る。高さ二尺七分、光背高さ二尺六寸三分、その光背の裏面に次の刻書銘がある。

池邊大宮治天下天皇大御身勞賜時歲
次丙午年　召於大王天皇與太子而誓願賜我大
御病太平欲坐　故將造寺藥師像作仕奉詔然
當時崩賜造不堪者小治田大宮治天下大王天
皇及東宮聖王大命受賜而歲次丁卯年仕奉

即ち用明天皇が即位元年に病に罹らせ給うたので、天皇は推古天皇と聖德太子を召して、御平癒祈願のため佛寺を建て、藥師像を造ることを議らせ給うたが、翌年四月天皇は崩御されたので、推古天皇と聖德太子は遺詔を奉じて、推古天皇即位十五年にこの像を敬造し給うたのであつて、法隆寺の創建と共に、この像の造られた由來が明かにせられると共に、造像銘として最古のものである。また像も光背も共に北魏式であるが、かくまで形態の整美したもの、また銅造としてかくの如く大なるものは、支那にも皆無で、東洋佛像中最も貴重なるもの丶一である。

脇侍立像〔國寶〕金銅、前掲本尊藥師如來の脇侍として左右に日光月光兩菩薩と稱する像が立つて居るが、本尊は元來一尊像であつたのに後から添へられたもので形式も稍々後のものである。

釋迦如來坐像及同脇侍立像〔國寶〕金銅、須彌壇正面の中央に安置されて居る。中尊は高さ二尺八寸五分、光背五尺四寸二分、右脇侍高三尺一寸、左脇侍高さ三尺三分ある。造像の由來は中尊光背裏の左記の銘によつて明かに知られる。

法興元卅一年歲次辛巳十二月鬼
前太后崩明年正月廿二日上宮法
皇枕病弗愈于食王后仍以勞疾並
著於床時王后王子等及與諸臣深
懷愁毒共相發願仰依三寶當造釋
像尺寸王身蒙此願力轉病延壽安
住世間若是定業以背世者往登淨
土早昇妙果二月廿一日癸酉王后
即世翌日法皇登遐癸未年三月中
如願敬造釋迦尊像並俠侍及莊嚴
具竟乘斯微福信道智識現在安隱
出生入死隨奉三主紹隆三寶遂共
彼岸普遍六道法界含識得脫苦緣
同趣菩提使司馬鞍首止利佛師造

即ち推古天皇廿九年十二月に、聖德太子の母后が崩ぜられ、翌年正月廿二日聖德太子が病に臥し給ひ、次で膳王后また勞疾を以て起ち給はずなつたから、王后橘大郎女王、王子等及諸臣と深く愁ひ給ひ、三寶に歸依し太子と尺寸相等しき釋迦像を造らんことを發願せられたが、王后太子相次いが登遐し給うたので、推古天皇の三十一年にその願を果さんが爲めに、鞍作止利をしてこの像を造らしめられたのである。

この釋迦三尊像と前記藥師像とは相互の形式手法が非常によく似て居り、一見同一作者の手に成つたものであるべきことが看取される。されど司馬鞍首止利佛師の確證ある作品は、幾多遺存する造像の中に就てこの像を推すの外はない。而して北魏樣式造像の最も優秀なる作品にして、藥師如來像よりも更に一歩を超越して整美安住の域に達し、各部の曲線悠揚自在にして所謂止利式佛像の偉大なる典型である。

阿彌陀三尊像〔國寶〕金銅、須彌壇の向つて左にある。中尊高さ二尺一寸、脇侍高さ各一尺八寸、大體の形狀は前の二組の佛像に似て居るが、光背以外は推古時代の手法とは全然異り、全く鎌倉時代獨特の寫實的作風に成つて居る。それは中尊の光背裏にある左の刻

銘によると最初の佛像は承德二年盜難にかゝり、その後百餘年を經て寛喜三年にこの像の再造されたことが明かにされて居る。然してまた運慶の子として知られた康勝在銘の唯一のもので、しかもかく勝れた作品を確實に遺存することは藝術史上珍重すべきである。またこの三尊の中向つて右の脇侍は姿態優雅にして刀法精妙、奈良時代初期の優秀なる作である。

奉鑄顯　觀世音菩薩
阿彌陀如來
大勢至菩薩
右去承德年中白波入金堂侵佛像盜道具
自爾以降一百餘歲寺僧等每見須彌座之空
殘屢悲端嚴像之永隱非實一寺之含悲爭无四
隣之傷意依新勸進十方施主磨瑩三尊聖容
于時寛喜三辛卯三月八日所催僧正範圓寺務之時如鑄之
貞永元年壬辰八月五日法印權大僧都覺遍寺務之時仕奉之
本師阿彌陀伏乞本願聖靈納受面面懇志不空
各結緣然則斷興修善之道漸以滿足矣

貞永元年八月　日
大勸進僧覺俊
大佛師法橋康勝
銅工平國文

天蓋〔國寶〕木造、前記諸像三座の上に吊されて居るものである。中央釋迦像の上のと、西阿彌陀像の上のとは推古時代の作で、東藥師像の上のは鎌倉時代天福年間の模造である。

古式の方の天蓋は屋蓋に二段の廂を出し、軒には透彫光背を負へる木彫音聲飛天を並べ、四隅に金銅透彫光背形立飾出を立て、その軒周りは鱗形三角形の文様を表はし、それに木彫の鳳凰を附し、下には蝶結び七寶繋ぎの垂飾を木または吹き玉で造り出し、足に平鈴を垂れて居る。内面には小組格天井支輪小壁等ありて、格間には寶相華文、支輪間には蓮唐草、小壁形には山に松樹の彩畫が施されてある。實に雄大華麗にして古今獨歩の天蓋である。

新作の天蓋は形式は古制をとりながら、手法は全く鎌倉時代の新様式を現はし、優劣の甚しきものがある

四天王立像〔國寶〕木造、須彌壇の四隅に安置されて居る。高各四尺三寸餘、我が國最古の四天王像で、その直立正視の姿態、衣文の彫法等によく推古式彫刻の特徴を現し、製作の簡古、形狀の奇異、頗る後世の四天王像とその趣を異にするものがある。廣目、多聞二天の光背に刻銘があり、廣目天には「藥師德保上而鐵師弓古次木閑二人作也」多聞天には「山口大口費上而鐵師弓古二人作」とある。山口大口費は日本書紀白雉元年の條に「是歲漢山口直大口奉詔刻千佛像」とある。

毘沙門天、吉祥天兩立像〔國寶〕木造、毘沙門天は高さ四尺八分、吉祥天は高さ三尺八寸六分ある。

今この兩像の金堂内釋迦佛の左右に在るのは正しく最勝會の本尊として作られ、白河天皇承暦二年に安置されたのであつて、類似の像他に存せないのである。二軀共に濃彩の藻文を施した爲めに刻鏤の痕、刀法の快を見ることは出來ないが、姿態圓滿面貌優美裝飾の豐麗と相俟つて優婉の趣がある。藤原時代に最も盛に應用せられた截金七寶文様が毘沙門天の肩に施され、立涌形に菱形文が吉祥天の紐帶に見られる。

普賢延命坐像〔國寶〕木造、高さ三尺三分、平安時代初期の木像としては、野山金堂のそれが燒失せる今日唯一の遺品であり、現存する最古の彫像である。像は一木造、手法謹嚴にして粗剛、增益延壽の修法本尊として加持力の包藏をその姿態に現はして居る。寶珠形二重光背また同時の作にして鮮麗なる繒綢彩色を一部分存して居る。

觀世音菩薩立像〔國寶〕木造、高さ五尺四寸六分、姿態直立不動、各部の權衡頗る整美、藤原初期の作にして、未だ優柔の作風に染まぬものである。

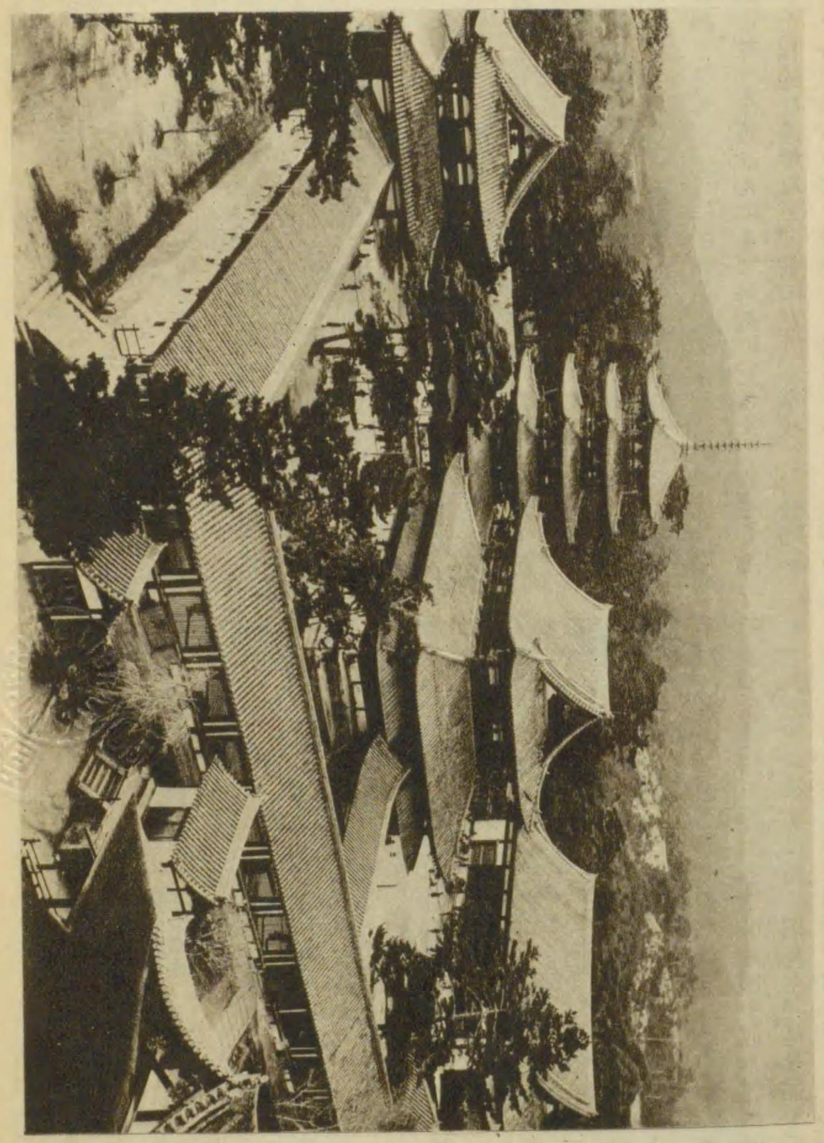
聖觀音立像〔國寶〕木造、高さ六尺五分、藤原初期の作であるが、寶冠は唐式を存し、髮筋を一々彫刻して居る。その姿勢特に麗はしく、全身に施彩し截金を用ゐ、大花丸紋を散らして居る。臺座二重光背共に國寶である。

橘夫人厨子及阿彌陀三尊像〔國寶〕須彌壇北側にある厨子の内の本尊阿彌陀三尊が光明皇后の御母橘三千代

夫人の念持佛であつたと云ふので厨子をかく稱する。高さ九尺二寸二分、臺座、龕、天蓋の三部から成つて居る。

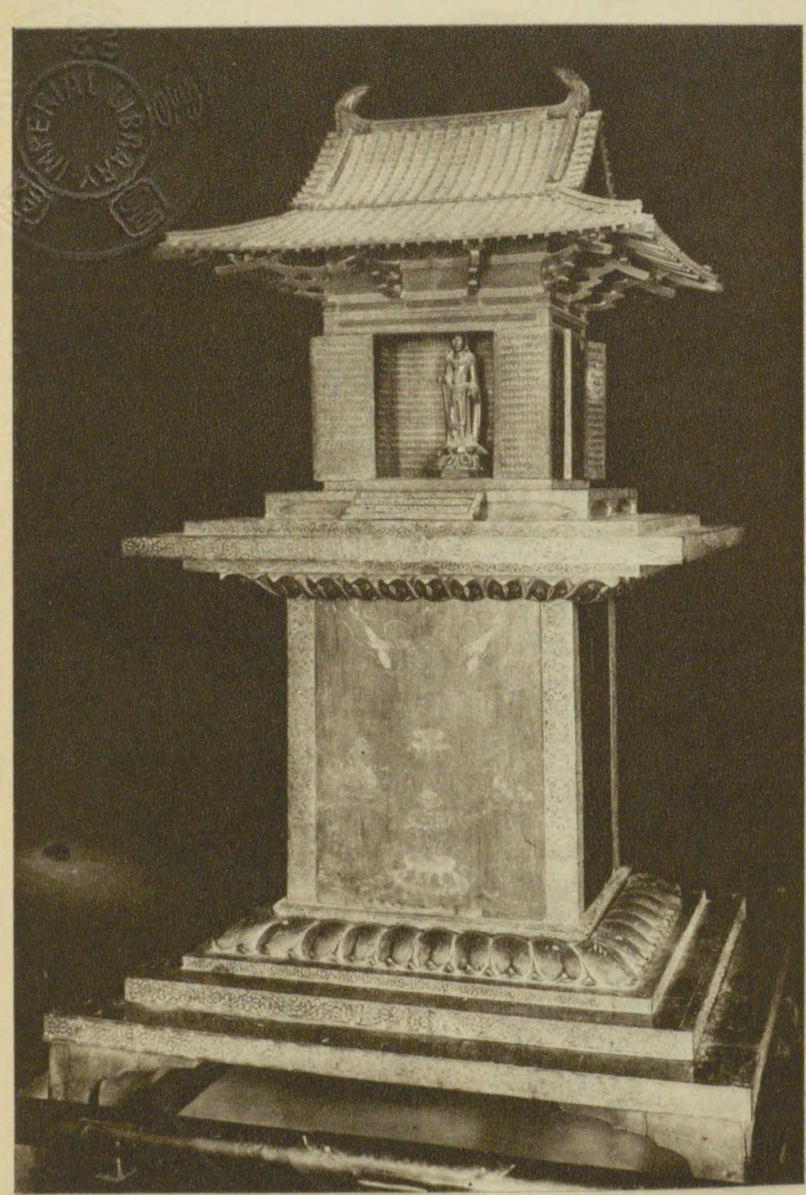
阿彌陀三尊像〔國寶〕金銅製、中尊高さ一尺一寸、兩脇侍高さ各八寸九分、この三尊佛は方形の金銅板から挺出した三莖の蓮花臺上に安置され、その金銅板の表面には、一面に波文の間に蓮葉の浮ぶ蓮池を薄肉彫で現はして居る。三尊の背後には三枚の金銅板より成れる屏障があり、その上邊を波狀に形どり、表面には菩薩形五體と上方に化佛七體を流麗な浮彫にし菩薩は同じく池中より挺出する蓮花に各違つた姿態で坐し、何れも本尊を讃仰して居る。飄々として舞上る菩薩の天衣と、高く伸び上つた蓮莖が裝飾的に屏障面を塡めて居る。中尊の光背は屏障に取り付けられて居るが、その作精緻を極め、中央に單瓣蓮花文を現はし、周圍には羅網のやうな透彫更にその外周に忍冬文と水文とを絡合せた暢達な透彫など、實に意匠が卓拔で、技巧が秀絶で、優麗雅致の美を發揮して居る。かゝる殊妙の莊嚴を具へた本尊は相好圓滿、姿態優美、慈悲の溫容がよく表現され、衣文も前時代の硬直がなくて流暢となり、兩脇侍も寶冠や瓔珞裙衣まで尤も輕妙な作技を示し、明かに初唐の影響を示せる奈良時代初期の作である。龕の扉には菩薩四天王金剛力士等を密陀僧で描いて居るが、その面貌豐麗にして表情に富み、姿態自由にして優美となり、體軀四肢權衡を得、衣文の線條流麗溫雅なるは、正しく前代佛像の面目を一新して居る。臺座の四方には胡粉地の上に自由な構想を以て菩薩聲聞などが描かれて居る。それ等は全く初唐の形式に屬し、金堂の壁畫の流にして更に精練と圓熟とを加へたものである。

觀世音菩薩立像〔國寶〕金堂須彌壇後部玉蟲厨子の傍に安置されて居る。木造著色高さ六尺九寸、百濟から貢献されたと云ふので百濟觀音の名を以て著はれ、夢殿の聖觀音像と共に木造推古佛中最も傑出せる遺作の一である。その丈け特に細高く、總身扁平で左右の腕にかゝれる天衣も夢殿觀音の如く著しき鰭狀をなさず



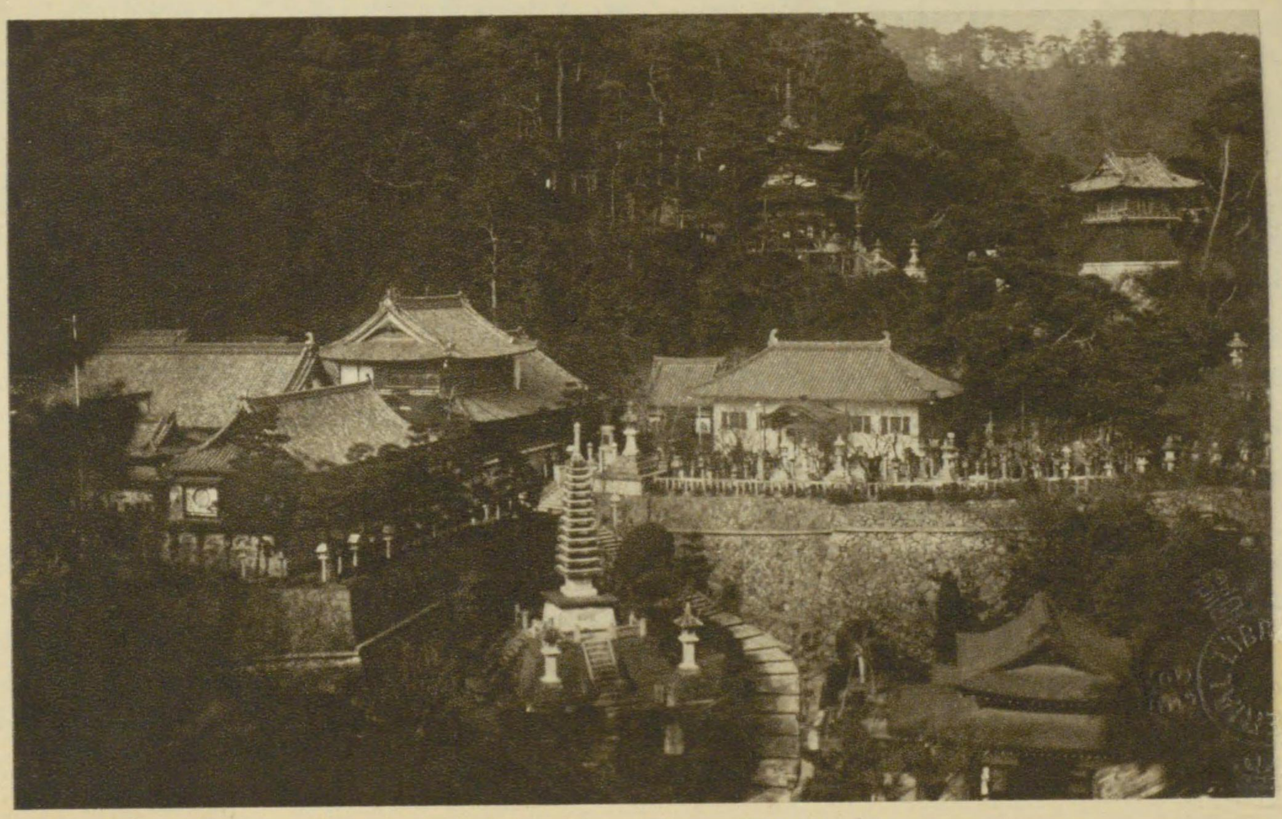
法隆寺金堂壁畫

法隆寺金堂釋迦三尊像



法隆寺金堂玉蟲厨子

中宮寺如意輪觀音像



信貴山

また兩肩にかゝる垂髮も蕨手形にあらずして波紐狀をなし、幾分寫實的になつて居る、裳の襞を現はせる線の縱に規則正しく併列して流れて居るのはその細長き姿勢の整美な感を一層深めると共に、上體の曲線や屈伸せる左右兩手と相俟つて、直立の姿に優美な曲線美を强調して名狀し難い崇高優美な趣を現して居る。光背の支柱を竹幹に模したのも珍稀で、中宮寺の本尊にその例を見るのみである。臺座の五角形であることも特異のことである。

玉蟲厨子〔國寶〕須彌壇東側に安置されて居る。高さ七尺七寸、厨子は鴟尾をあげた寶殿が、腰細な高い臺座の上にのせられて居る。推古時代の建築及び繪畫を徵すべき極めて重要な資料である。柱その他の裝飾には推古時代獨特の忍冬文を主調とした模樣の銅鍍金透彫の金具が用ゐられ、その透彫金具の下に玉蟲の羽根が伏せられてあるので玉蟲厨子と稱せられる。寶殿は屋根が四注の上に切妻をのせた樣な一種變つた入母屋造で錣葺になつて居る。棟の兩端の鴟尾は古式であるが模造である。

金堂の大屋根は後世改造せられて居るから、原形を想像するにはこの寶殿の屋根を參考すべきである。また皿斗付大斗雲斗雲肘木等全く金堂と同一式である。厨子と臺座の四方には密陀僧で描かれた繪がある。寶殿の扉には正面に二天、側面に菩薩像を描き、後壁には山上に三基の寶塔、日月、洞窟中の羅漢、飛天、鳳凰等が描かれ、臺座の四面には舍利供養圖、餓虎投身圖施身聞偈圖が描かれて居る。圖樣奇古であるが、說話の時間的變化を巧に畫面に配列し、その描法は生動の趣に富み、裝飾的效果を擧げて居る。實に天壽國曼荼羅と共に我が國最古の佛畫の双璧である。中に安置してある本尊は製作年代の下るものである。

伏藏　金堂の外陣北東隅に漆喰で固めた饅頭形のものがある。これは鎭壇と稱するものであるが、普通には伏藏と呼び、珍寶が埋納されて居ると云ふ。

五重塔婆〔國寶〕金堂と東西に相竝び、二重石壇の上に立てる三間五層の塔婆で、樣式は全く金堂と同一で

ある。高さの割合に初層の面積が大きく、各層軒の出深くして且出方に變化があり、屋根の勾配緩く、九輪の釣合よく（塔の高さの三分一）、これが爲に安定莊重の外觀を示し、加ふるにその大膽なる軒、雄麗なる組物高雅なる高欄、秀美なる相輪は、上下相應じて最も善美な權衡と諧調とを示して居る。實にこの塔は海内最古最善の塔である。塔の高さ百五尺二寸、初層の裳層は和銅頃の附加である。外部の裝飾は單に丹塗としたに過ぎないが、内部は型の如く四天柱を以て内外兩陣に分れ、外陣は組入天井で、格間に蓮花文を胡粉地に極彩色で描いてある。

塑造群像〔國寶〕内陣須彌壇上は土を以て須彌山を造り、その四面に維摩詰問答（東）、涅槃像（北）、舍利供養（西）、彌勒佛（南）の四つの光景が、塑造の群像によつて現はされて居る。これは我が國に現存する唯一の遺例である。壞れた像の一部は、後世の拙劣な模造と置換へられて居るが、東面の文殊菩薩維摩詰及侍者坐像十五軀、北面の涅槃釋迦佛及侍者像十九軀、西面の金棺一基、舍利塔一基、侍者坐像十五軀、南面の彌勒菩薩坐像一軀の如き、その技巧優秀にして氣品高く、何れも國寶に指定せられて居るが、若しその全體が原形のまゝ遺存して居たなら、如何に驚嘆すべきものであつたかが十分察せられる。その製作年代は和銅四年である。

大講堂〔國寶〕最初の講堂は延長三年に西室、北室、三經院等と共に雷火で燒失し、正曆元年この堂を京都より移築する時に原位置より遙に後方に退かせて、北室の跡に再建されたのである。九間四面、單層、屋根入母屋造、本瓦葺、藤原時代初期稀に見る雄大な建築である。

藥師三尊像〔國寶〕木造漆箔、講堂内須彌壇上に安置されて居る。中尊は高さ八尺六寸、脇侍は各高さ五尺四寸あり、一木造の名殘を存し、刀法遒勁姿態雄偉、慈悲相に勇猛の氣分を含める藤原初期の大作である。

四天王像（木造）〔國寶〕講堂内須彌壇の四隅に置かれて居る。高さ六尺三寸乃至六尺六寸あり、本尊藥師三

尊像と同時代の作である。

經樓〔國寶〕廻廊の北端に近く大講堂に向つて左にある。三間二面重層、屋根切妻本瓦葺、奈良時代の再建である。優美で力强い肘木の曲線、輕快な頭貫の調子に、よく時代が現はれて居る。

觀勒僧正坐像〔國寶〕經樓内に安置されて居る。平安時代の優秀な作で、厨子に納められて居る。僧正は推古天皇の十五年、百濟から來朝した名僧である。

鐘樓〔國寶〕廻廊の北端に近く經樓と相對し、大講堂に向つて右にある。三間二面の重層で、構造形式殆ど經樓に等しいが、藤原時代の建築で肘木の曲線が著しく弱くなつて居る。

銅鐘〔國寶〕鐘樓にかゝれる鐘で、無銘であるが、上下帶の忍冬唐草や撞坐の蓮花文に依て、奈良時代前期の鑄造に成る最古の名鐘である。

綱封藏　寶庫で開閉に寺の三綱職の封印を要したのでかく名づける。現在の建物は室町時代のものである。藏内は三室に分れ、推古朝以來の重寶及歷代御寄進の品物を藏し、入口の中央室から右手に入つた南室に最も主要な寶物がある。今各室陳列の主要品を次に列擧する。

中央室

一日光月光菩薩立像〔國寶〕　二軀
木造、奈良時代初期の作で、鎌倉時代の厨子に納められて居る。

一觀音勢至立像〔國寶〕　二軀
金銅製、飛鳥時代の作で、もと金堂阿彌陀像の脇侍と傳へて居る。

一百萬小塔、十萬節塔、一萬節塔〔國寶〕　百二基
百萬塔は高さ四寸五分、三重塔の形をなしたもので、九輪の下の孔に陀羅尼（印木）を容れた供養塔である。天平寶字八年惠美押勝の亂後孝謙帝の御願により十大寺に分納されたものである。この陀羅尼印木は世界最古の木版印刷として名高い。

南室

一觀世音菩薩立像〔國寶〕　一軀
金銅製高一尺九寸　奈良時代

一藥師如來坐像〔國寶〕　一軀

金銅製、高一尺一寸五分　奈良時代初期の優作

一九面觀音立像〔國寶〕　一軀

木造、高一尺三寸、檀像彫刻の代表的遺作である。頭飾瓔珞等滿身盛裝の莊嚴具から蓮花坐まで全く一木を以て刻鏤精緻を極め、刀法細密にして勁健、樣式典麗にして崇高、小像ではあるがその作技神に入り殆ど人間の物に非ず、蓋し唐朝式彫刻として傑出せる作品である。

一夢違觀音立像〔國寶〕　一軀

金銅製、高二尺九寸もと綸殿の木尊であつて惡夢を轉じて吉夢となすとの信仰から夢違觀音と呼ばれてゐる。面相に微笑を湛へ圓渾な風貌を具して居る。純唐式から稍々日本化された奈良時代初期の造像の一形式を示す優秀なる作である。

一觀音勢至菩薩立像〔國寶〕　二軀

木造漆箔高二尺八寸餘、奈良時代初期の作で漆箔がよく殘つて居る。

一文殊普賢兩菩薩立像〔國寶〕　二軀

木造高二尺八寸餘、奈良時代初期

一如意輪觀音坐像〔國寶〕　一軀

木造、高五寸七分、藤原末期の精巧な作で、臺座に正嘉二年の修理銘がある。

一阿彌陀三尊像〔國寶〕　一面

磚製、この種の磚像中唐招提寺のものと共に最も精巧他に比類なきもので唐朝の製作である。

一十一面觀音立像〔國寶〕　一軀

乾漆造、高約二尺五寸、天平時代

一藥師坐像〔國寶〕　一軀

金銅製、高一尺の小像で金色がよく殘り、八角の廚子に納められて居る。

一彌勒菩薩坐像〔國寶〕　一軀

木心乾漆造、高二尺、傳法堂の諸像に見る法隆寺型木心乾漆像で、乾漆造像の盛時から木彫全盛期に入らんとする過渡期である奈良時代末期に屬し、一木造の形態に乾漆の柔味ある頗る純朴な感じのする作であるが乾漆法の特色を發揮した妙技は寧ろその光背であつて、圓形と長方形とを取合はせた木心乾漆でこれに施された鳳凰、寶相華、飛雲などの模樣は極めて秀妙優美である。

一毘沙門天像〔國寶〕　一面

絹本著色、額裝高さ約十尺、平安時代

一觀音菩薩立像〔國寶〕　一軀

金銅製、高さ約二尺、飛鳥時代の作でよく金色殘存し、八角の廚子に納められて居る。

一聖德太子立像〔國寶〕　一面

絹本著色、聖德太子孝養の御像と稱する鎌倉時代の作である

北室

本室には國寶の陳列はなく、多數の百萬塔、伎樂面、舞樂面古代鈴桙等が陳列されて居る。

聖靈院（豐聰殿）〔國寶〕聖德太子像の奉安は古く行はれ、始めは勸學院に於てせられ、後には綱封藏に納めたこともあつたが、堀河天皇の世に東室顚倒し、保安二年これを再建するに及び、その南端を改造して堂殿となし太子の御像を安置し、新聖皇院と號した。即ち聖靈院である。現在の建築は鎌倉時代に改造されたもので、五間六面單層切妻本瓦葺、正面に檜皮葺の廂を設け向拜が付いて居る。聖德太子の像と脇侍山背王、茨田王、殖栗王、惠慈法師の諸像が安置されて居る。この外左右に如意輪觀音坐像及地藏菩薩立像が安置されて居る。

聖德太子及脇侍坐像五軀〔國寶〕木造、正面須彌壇厨子內に太子を中央にして左右に山背王、茨田王、殖栗王の三王子と惠慈法師の坐像を配侍して居る。太子像は三十五歲の御影と稱し、束帶把笏の坐像で、高さ二尺七寸五分、御衣は一面に截金文樣を施し、處々に大丸紋を散じて居る。眉著しく逆づり上目の据りたる威容嚴然自ら逼視すべからざるを覺ゆる。襞褶は皆柔な曲線が能く湊合して端然たる姿勢を造成して居る。

胎內には木にて蓬萊山を作れる上に、古式の金銅觀音像を安じたるを納め、別に細字の法華經二卷、維摩經及び勝鬘經一卷を一篋にして籠められてある。而して山背王像は高さ二尺六分、衲袈裟を着けて如意を持ち、殖栗王像は高さ一尺七寸五分、念珠笥を持ち劍を帶ぶ、茨田王像は高さ一尺八寸五分、太子の御劍を奉持する、惠慈法師像は高さ二尺六分、衲衣香爐を持つ、かくて太子の御影が威嚴と叡智の表現の十全なるに對して、侍者の像が笑を帶びた安舒の形を現して對照の効果を收めて居る。この像は鳥羽天皇天仁年中に造り創められ、保安二年に開眼したと古記にある。その彫鏤の手法、截金裝飾の術、皆藤原後期の特色を發揮して居る。木彫の太子像としてかくまで技巧の精を盡し

妙を得た作は他に類例がない。

地藏菩薩立像〔國寶〕木造、高さ二尺五寸、太子像の左厨子内に安置せらる。もと橘寺にありしと云ふ。左手に寶珠を捧げず、拇指と第二指とを屈し、眉線大に開けて眼細く、口をつぼめて唇頭少しく突出する、相好は慈悲の相に滿ち、無限の愛嬌を包めり。貞觀時代の手法を存すれど、流麗自在殆ど精妙の域に達し、前代の剛健の格調漸く衰へて優婉の域に轉入せんとするもので、法華寺十一面觀音と共に精熟したる様式の双璧である。

如意輪觀音坐像〔國寶〕木造高さ三尺一寸五分、太子像の右厨子内にある。二臂如意輪であつてその珍しい形相に藤原時代の優婉な作風を現した他に類品のない像である。臺座の修理銘に「永仁三年乙未三月十日始奉修複處也爲生々世々値遇頂戴今生必得發菩提心兼二親聖靈頓之證菩提乃至法界衆生平等利益矣敬白永仁三年卯月大法師慶舜」とある。

食堂〔國寶〕聖靈院の東北にある。奈良時代の建築にかゝり、我が國に現存する食堂中最古のものである。塑造の藥師像が安置されて居る。

細殿〔國寶〕食堂の前面にある食堂附屬の建物で、鎌倉時代の建築である。

上御堂〔國寶〕講堂の背後の丘の上にある。舍人親王の本願によつて創建されたと傳へて居るが、現存の建築は鎌倉末期の再建で桁行七間、梁間四間、單層、屋根入母屋造本瓦葺の建築である。本尊として釋迦三尊〔國寶〕が安置されて居る。何れも木造で中尊の高さ七尺五寸、藤原初期の大作にして、座具の裏に應安三年の銘文がある。この外四天王の立像がある。これも國寶で吉野朝時代の精巧な作で、廣目天の頸柄に文和四年の墨書銘がある。

三經院及西室〔國寶〕三經院は勝鬘、維摩、法華の三經を講讀する所で、現存のものは鎌倉時代の再建である。西室は僧侶の宿所でこれも鎌倉時代の再建にかゝり、昔時の僧房建築を窺ひ知ることが出來る。

彌勒菩薩半跏像（木造）〔國寶〕本像は三經院にありて

唯識講說の本尊である。高さ二尺五寸、奈良時代の古風を存する平安時代初期の一木造で、唐式傳來の大寶冠を戴き、豐美の眉宇に明眸を見開き、姿態悠揚、儀軌形相の彌勒菩薩彫像として最古の名品である。

西圓堂（峰藥師）〔國寶〕西室の北方、小高い丘上に建つて居る。橘夫人の本願、養老二年に創建されたが、今の建築は鎌倉時代に建築された八角圓堂である。内部は瓦敷で八角柱八本を立て繫虹梁がある。内陣より外陣の一部に亘つて木造二重の須彌壇を造り、中央に奈良時代の作にかゝる丈六藥師如來の乾漆坐像〔國寶〕が安置されて居る。この本尊を繞つて國寶の木造十二神將立像がある。その中の二軀は藤原時代の作で、他は鎌倉時代のものである。この外に同じく國寶の地藏菩薩立像、千手觀音立像があり、何れも木造で平安時代の作である。

尙中古以來奉納された繪馬、鏡、刀劍、鍔などが堂の内外、柱虹梁、羽目、小壁等に多數かゝつて居る。

地藏堂〔國寶〕西圓堂の東側の一段低い所に建つて居る。三間三面單層、屋根入母屋造瓦葺の小宇で、應安五年の棟札があり、構造様式よく室町中期の特色を現はし、蟇股拳鼻等の彫刻が頗る美はしい。

本尊地藏菩薩半跏像〔國寶〕木造高さ一尺七寸、玉眼截金模様及極彩色を有する鎌倉時代の優秀な作である。

東大門〔國寶〕西院伽藍の東門にして奈良時代の建築である。

東大門を出でて勸學院の表門〔國寶〕前を經て東院伽藍の靈域に達する。東院伽藍の主要堂宇は東院南門、東院西門、同廻廊、夢殿、禮堂、舍利殿及繪殿、傳法堂及鐘樓等である。

東院西門〔國寶〕切妻造の四脚門で室町時代の建築である。

東院南門〔國寶〕八脚切妻造、室町時代の建築で俗に不明門と稱し、東院伽藍の表門である。この門と西門を含む築地塀によつて東院の外廊が造られて居る。

東院廻廊〔國寶〕夢殿の前面にある禮堂の左右より出で、中央に夢殿を圍み、後方、舍利殿、繪殿の兩側に

遵して居る。室町時代稀に見る歩廊として名高い。

東院禮堂〔國寶〕夢殿の前面にある禮堂で、鎌倉時代に再興された單層切妻造、本瓦葺の建築である。

夢殿〔國寶〕天平十一年行信僧都の創建にかゝる上宮王院の本堂で、東院伽藍中最も重要な建築にして、創建當時のまゝ今日に遺存せる名建築である。二重の石壇上に建ち、我が國に現存する八角堂中最古のもので、また最も美はしい建築である。これに似て名高いものに奈良興福寺の北圓堂がある。堂内には有名な本尊觀世音菩薩像、行信僧都坐像及道詮律師坐像が安置されて居る。

觀世音菩薩立像〔國寶〕古來聖德太子御自作の等身像と傳へ、非常に名高い靈像である。木造塗箔、高さ六尺五寸、一木彫成像で寶冠と持物寶珠の水焔にのみ金屬が使用せられて居る。總身扁平で刀痕極めて淺く、姿勢は直立左右均齊にして、衣文も主として直線を用ゐ、重疊した鰭狀の天衣が按排せられ、その樣式は止利式に屬し、相好姿態崇高の氣に滿ち溢れて居る。寶冠その他裝身具の透彫金具も精巧であるが、殊に寶珠形、光背の彫刻は精彩を極めて居る。推古朝の造像として木彫にかく莊嚴を極めたものなく、東洋に於ける最古の木彫として唯一無二の靈像である。この像古來秘佛として容易に開扉されなかつたが、今日は春秋二期即ち春は四月一日より同五月十五日まで、秋は十月二十二日から十一月二十日まで特別に開扉される。

聖觀音立像〔國寶〕夢殿本尊の前立にして一木彫成、高さ四尺八寸、藤原時代の作で、胡粉地に繧繝彩色及截金文樣が施されて居る。

行信僧都坐像〔國寶〕夢殿の須彌壇上にある。乾漆、高さ三尺、彫法頗る自在、骨格雄偉肉身肥滿眉目の間剛邁の氣が溢れ、奈良時代の宗教界に一時活躍した英傑行信僧都の面目躍如たるものがあり、天平時代に於ける肖像彫刻の傑作である。行信は東院伽藍再興に最も盡力した功勞者であるからその追善の爲めに作られたものである。

道詮律師坐像〔國寶〕行信僧都の像と對坐して居る。

塑造高さ二尺九寸、一木彫成の刀法を宛ら現して居るのはいかにも乾漆塑造の時代が去つて木彫全盛期に入つた貞觀時代の作である爲めで、塑造の復活がこの像に見らるゝと同時に塑造彫刻掉尾の傑作である。道詮は貞觀年間當寺の復興修營に盡した人で、この像は即ち當時その功を讃へるために造られたのである。

阿彌陀如來坐像〔國寶〕木造漆箔高さ約一尺二寸、藤原時代の作である。

聖德太子立像〔國寶〕木造彩色、十六歲の御像、高さ約二尺五寸、鎌倉末期の作で厨子に納められてある。

舍利殿及繪殿〔國寶〕夢殿の後方にあり、東西に連ねて一屋をなし承久年間に建立された鎌倉時代の建築である。繪殿には木造漆箔の十一面觀音立像及聖德太子七歲の御像が安置されて居る。また舍利殿には厨子に納められた舍利及太子七歲の御像が安置されて居る。

聖德太子坐像〔國寶〕繪殿の本尊で厨子に安置せられてある。寄木造內刳著彩高さ一尺九寸餘。黃丹闕腋を蒙け美豆良の端を胸の兩端に垂れ、左手に唐草文のある團扇を持ち、右手を膝に安じて端坐する童形の尊容で、太子七歲の御像と稱し、聖靈會に厨子のまゝ長柄の輿に載せて練供養をなし、講堂に移坐して法會を營む例となつて居る。風貌端嚴にして叡智に滿ち給ひ、衣文は端正な姿態に準じて簡潔溫雅な手法で、袍には丸華文を堆く彩繪せられ、藤原彫刻の特色が窺はれる。胎內には製作年代と共に作者彩繪者の名さへ明記した左の墨書銘がある。

佛師僧圓快
繪師秦致貞
唵阿嚧嘿迦婆婆呵
敬白
奉造聖德太子御童子形御影
高三尺六寸一體事
右始自太子生年壬辰及治曆五年五百五歲事偏爲自
他法界共成佛道法隆寺大衆爲結緣所法奉造顯
也如右敬白
治曆五年歲次己酉二月五日
奉修復御手拜衣裳等
永德四年甲子二月十七日

北室住持　民部公

奉行比丘湛譽佛師舜慶
比丘印秀

傳法堂〔國寶〕舍利殿及繪殿の後方にあり、東院伽藍の講堂にして、もと行信大僧都傳法弘通の道場で、橘夫人の舊宅を移し建てたものと云ふ。七間四面、單層屋根切妻造、內部は中央五間二面を內陣とし、內陣後方に長い須彌壇を造り、多數の靈像が安置されて居る。次にその主なるものを擧げて說明する。

一阿彌陀三尊像　三軀

須彌壇の中央に安置された傳法堂の本尊である。乾漆造、中尊は坐像で高さ四尺一寸、臺座は今蓮瓣を脫落して居る。脇侍は立像で高さ各五尺三寸、何れも天平末期より平安初期に至る過渡期の作で、衣紋に稜角があり、姿勢に剛建の氣を現はして居る。

一阿彌陀三尊像　三軀

木心乾漆造、中尊坐像高さ三尺九寸五分、觀音像高さ四尺二寸、勢至像高さ三尺九寸、何れも姿態頗る重厚にして所謂傳法堂樣式を傳へた平安初期の作で、頗る森嚴の氣に滿ちて居る。

一釋迦如來坐像　一軀

木造漆箔、高さ二尺八寸五分、圓滿な形相を備へた藤原時代の作で、臺座も溫雅にして優美な藤原時代の形相を現してゐる

一阿彌陀如來坐像　一軀

木尊の向つて左に安置されて居る。木心乾漆造高さ三尺九寸八分、この像も所謂傳法堂樣式を傳へた重厚な作で、木尊と同時代の作である。

一觀音菩薩立像　一軀

木心乾漆、高さ五尺二寸五分、西の間安置の阿彌陀如來の脇侍にして、堂內乾漆諸尊像中最も大なるもので、天平末期の作である。

一阿閦如來坐像　一軀

木造漆箔、高さ三尺九寸五分、これも藤原末期に造られた典雅な像である。

一阿彌陀如來坐像　一軀

木造著色、高さ二尺九寸三分、須彌壇の西端に安置された平安時代の作である。

一藥師如來坐像　一軀

木造漆箔、高さ二尺七寸、これも傳法堂樣式の一である。

一十一面觀音立像　一軀

木造漆箔、高さ五尺八寸三分、手法頗る簡素にして藤原末期の作である。

一不動明王像　一軀

木造著色、鎌倉時代の作であるが、寫實味の乏しい鈍重な舊樣式を傳へた像である。

一梵天帝釋天像　二軀

木造著色、高さ何れも約五尺四寸、帝釋天像には胎內に保元元年五月造功の墨書銘があり、藤原末期の優雅な作である。梵天像には銘は無いが、刀法に冴を示した流麗な作で、帝釋天像よりも古く、藤原初期の作と思はれる。

一四天王像　四軀

木造著色、高さ二尺九寸乃至三尺二寸、鎌倉時代の天部像に見るやうな奮躍活動の姿態は見られないが、典雅な風を帶び、却つてよく壇上の諸尊と調和して居るのは藤原末期の作と思はれる。

一阿彌陀如來坐像　一軀

木造漆箔、高さ一尺八寸三分、簡素であるが森嚴の氣に滿ちた平安時代の作である。

十一面觀世音菩薩立像　一軀

木造漆箔、高さ二尺四寸三分、前出の阿彌陀像と同一形式の像である。

東院鐘樓〔國寶〕傳法堂の西側にあり、鎌倉時代の建築で、側面から見た形態が頗る美はしい。國寶の梵鐘がかゝつて居る。

【北室院】傳法堂の北裏にあり、東院僧房の一で、起原は明かでないが、現存の本堂及表門は大體に於て室町時代の建築である。

表門〔國寶〕北室院の表門である。室町時代に建築された我が國最古の平唐門で手法も優れて居る。

本堂〔國寶〕方三間、單層入母屋造、本瓦葺、室町時代の建築で、各部に施された意匠彫刻等も面白く、內部須彌壇の形式は唐樣に屬し、よく當時の風格を存して居る。壇上に國寶の木造阿彌陀三尊像が安置されて居る。鎌倉末期に於ける寫生風の作である。

【中宮寺】法隆寺東院の東北隣にある。斑鳩尼寺と稱し、聖德太子の御母穴穗部間人皇女の宮を寺に改めたものと傳へて居る。舊地は法隆寺の東方にありしが、創建の後數百年を經て堂宇廢頹せしを、文永年中河內西琳寺の日淨、西大寺の思緣等一宇一坊を今の地に再興して尼信如をして住せしめた。本寺には有名な如意

輪觀音半跏像及天壽國曼荼羅圖がある。

如意輪觀音半跏像〔國寶〕推古天皇時代の代表的傑作である。頂上から臺座に至るまで檜材の一木彫で、素地の光澤が今は黑く光つて居るが、もとは金箔押しであつた。高さ五尺二寸、左指で輕く頤を支へる憶念相の像で相好氣高く、秀潤な眉目と微笑のうちに深き慈悲を表はして居る。法隆寺金堂三尊や夢殿本尊の生硬さは失せて婉麗溫雅となり、技巧の進歩が窺はれる。光背の支柱を竹竿に擬したのは法隆寺百濟觀音と同樣である。

天壽國曼荼羅圖〔國寶〕生絹に彩絲を用ゐて刺繡をした繡帳である。天壽國と云ふのは極樂淨土の義で、聖德太子薨去の後王妃橘大郎女が太子往生の狀を追懷せんため、采女等に刺繡せしめられたものである。もとは二張造られたのであるが、今日はその斷片六枚と外に數片を存するのみで、これを一枚の幅に繋ぎ合せたのに過ぎない。竪二尺八寸八分幅二尺七寸、もと周緣に百箇の龜形を作り一龜に四字全四百字の造像銘文があつたが、今は僅に龜形四箇あり、その三龜に四文字宛十二字を存するのみであるが、幸この銘文は、上宮聖德法王帝說に記されて居る。その銘文によると圖の筆者は東漢末賢、高麗加西溢、漢奴加巳利、令者椋部秦久麻とあるから、圖案家は何れも歸化の氏族の人々である。それで畫風は六朝式を傳ふるものが多く、建築を始め、物像の形式は大陸藝術によつたものである。色彩は紺青、群青、綠青、黃綠、朱、黃、白、白綠、紅、丹、黑の十數色が用ゐてある。この圖もと法隆寺に傳來したのであるが、文永十一年中宮寺の尼信如これを綱封藏より發見して當寺に移したのである。

天壽國曼荼羅圖斷片二點〔國寶〕近年正倉院から斷片が發見され當寺に下賜されたが、その中に銘文の「利令者椋」の四字を記した龜形がある。

【寶珠院文殊菩薩騎獅像】〔國寶〕法隆寺塔頭の一である寶珠院の本尊で木造、高一尺三寸八分の五髻文殊で室町時代の作にかゝる。臺座に左の墨書銘がある。

和州　法隆學問寺

長祿三年己卯七月　日

大勸進　法隆寺住侶　專祐五師

南都住舜覺坊

佛師春慶

南都住常陸公

繪師定清

【法輪寺】〔眞言宗東寺派〕法隆寺驛の北約三粁、法隆寺東院の北約一粁、富鄉村三井にあり、一に三井寺また法琳寺とも呼ばれて居る。推古天皇の御世の創建にかゝり現に當時建立された三重塔婆を遺して居る。三間四方、本瓦葺で飛鳥時代の樣式を傳へて居るが、江戸時代に大破して三重目を亡くしたので大修理が加へられて居る。

金堂本尊藥師如來坐像は木造高さ三尺八寸、推古時代止利式のもので國寶に指定されて居る。

講堂本尊十一面觀音立像〔國寶〕は一木彫高さ約十二尺、平安時代の大作である。

この外、木造聖觀音立像、木造吉祥天立像及木造地藏菩薩立像がある。何れも平安時代の作で國寶に指定されて居る。尙推古時代の遺物として珍らしい瓦製の鴟尾を藏して居る。

【三井瓦窯址】〔指定史蹟〕法隆寺驛の北三粁、富鄉村三井東山にあり。法輪寺と法起寺との中間の瓦塚と呼ばれる丘陵の中腹で、構造登り窯をなし、西方に焚口あり、火床は長徑約二米、短徑約一米半で、平面半圓形をなし高さ約二米、天井穹窿狀を呈して居る。筒形の部分は火床奧壁の上方から東方に四〇度の勾配を以て登り、長さ約六米、上方に至るに從ひて細くなりまた底部には階段十級を連ね、天井は穹窿狀である。火床の內部から多數の瓦破片を發掘し、奈良前期の樣式を有せる蓮華紋の巴瓦一箇がそのうちに存し、略その工築年代を知る事が出來る。

【法起寺】〔法相宗〕法隆寺驛の東北約三粁、法隆寺東院の東北約一粁、富鄉村岡本にある。

聖德太子の創建と傳へ、岡本寺または池後尼寺とも

稱せられて居る。現存の三重塔婆は飛鳥時代の建築にして、我國現存三重塔婆中最大のものに屬し、全高七十九尺あり、後世幾度も修理を經て居るが、よく推古時代の古態を保存せる貴重な遺構である。

尙當寺には推古時代の銅造の菩薩の小立像があり、これも國寶に指定されて居る。

【松尾寺】〔眞言宗高野派〕（一九圖や5）法隆寺驛の北五粁、矢田村山田にある。松尾山の頂上に近き斜面に營まれ、養老二年舍人親王の本願によつて、永業上人の開創であると云ひ、本堂は南面して懸崖にかゝりて舞臺造となり、五間五面、單層、屋根入母屋造、本瓦葺で、文祿九年の再建にかゝり、屋根の勾配緩かに軒の出深く、細部の手法等、鎌倉中期の和樣建築を代表するもので、國寶に指定されて居る。大黑堂の本尊木造大黑天立像は鎌倉時代の技巧頗る精妙な優品で國寶である。この他寺寶の絹本著色、元畫の釋迦八大菩薩像及び木造十一面觀音立像は、共に奈良帝室博物館に出陳中である。

【吉田寺多寶塔婆】〔國寶〕法隆寺驛の西二粁、龍田町小吉田にある。三間二層の塔婆で、屋根本瓦葺、塔心柱に寬正四年の銘あり、且つ構造樣式細部の手法等より見て室町中期の建立に屬する。本尊阿彌陀如來坐像は木造、藤原時代の端正優麗な作で、國寶に指定されて居る。

【仙光寺十一面觀音立像】〔國寶〕法隆寺驛の西北二粁、龍田町龍田にある仙光寺の寺寶で、木造である。

【大福寺地藏菩薩立像】〔國寶〕法隆寺驛の東南半粁、安堵村笠目にある大福寺の本尊で、木造である。

【廣瀨神社】〔官幣大社〕（一九圖ま8）法隆寺驛の東南約二粁、北葛城郡河合村川合にある。祭神若宇迦賣命で櫛玉姫命、水穗雷命を配祀して居る。龍田の風神に對し水穀を守護し給ふ水神で、崇神天皇の御代の創建と傳へるが、國史には天武天皇四年、五年、大忌神を廣瀨河曲に祀らしめた事が見ゆるのを始めとし、延喜の制、名神大社に列した。

社の內外に廣瀨の杜、廣瀨山、蛇ケ池、水足の池等あり、社の後方に廣瀨川流れ、行幸橋がある。例祭は龍田神社と同じく四月四日で、廣瀨龍田祭と稱し、また二月十二日の御田植祭は、一社傳來の古式であると云ふ。

【富貴寺釋迦如來坐像】〔國寶〕法隆寺驛の東南約二粁、磯城郡川西村保田にある富貴寺（釋迦堂）の本尊で木造、寺寶の地藏菩薩立像（國寶）と共に藤原時代末期の作である。

【極樂院阿彌陀如來坐像】〔國寶〕大軌安堵驛の東南半粁、安堵村東安堵にある極樂寺の本尊で、木造である。

【額田部窯址】〔指定史蹟〕（一九圖は7）大軌額田部の西南約半粁、生駒郡平端村額田部北方字別所にある。窯址は三個東西に並列して居るが、略々その原形を遺存し、火口は各々南方に面して居る。內部から發見された瓦は唐草瓦及丸瓦等の破片で、鎌倉時代を降らない遺址である。

【額安寺】〔眞言律宗〕（一九圖は7）同額田部の西南半粁、平端村額田部寺方にある。聖德太子の創立にかゝり、熊凝の精舍と云ひ、大安寺の根本で、百濟の地に轉じて後も堂宇尙存在したが、天平の初、額田の人道慈律師大安寺を造營し、工竣つて後この寺に移り住んだ。本尊は虛空藏菩薩半跏像で乾漆、虛空藏堂に安置せられるが、寺寶の種子曼荼羅の黑漆小龕と共に奈良帝室博物館に出陳中である。尙、木造獅子上文殊菩薩像は京都博物館に出陳され、何れも國寶である。

【光明寺阿彌陀三尊立像】〔國寶〕大軌平端驛の西南半粁、生駒郡平端村柏木にある光明寺の本尊で木造である。尙寺寶の傳善導大師坐像は木造で、これも國寶になつて居る。

【龍田神社】〔官幣大社〕（二圖か4）王寺驛の西南一粁半、生駒郡三鄕村立野にある。天御柱命、國御柱命二柱の風神を祀り、創建は崇神天皇の御代と傳へ、天武天皇三年、風神を龍田立野に祀り、翌年またこれを祀つた。延喜の制名神大社に列した。もと法隆寺の鎭守であつたが、のち寺の附近に新宮を建てた、卽ち今の龍田町にある縣社龍田神社で、四月四日及び十月二十五日

の秋祭には新宮に神輿の渡御がある。農家及び航海業者の信仰が厚い。本宮、新宮の附近には御室山、龍田山、龍田關址、懼坂、磐瀬の杜、奈良志岡、大和川即ち古の龍田川等、昔から聞えた名所が多い。

【觀音寺地藏菩薩立像】〔國寶〕王寺驛の西南約一粁、生駒郡三郷村立野にある觀音寺の寺寶で木造である。

【信貴山（朝護孫子寺）】〔古義眞言宗〕（二圖さ4）王寺驛乘換、信貴生駒電車信貴山驛の西北約一粁、信貴山の東中腹にある。志貴山寺、毘沙門堂、歡喜院、孫子寺の別稱があり、聖德太子の草創と傳へ、延喜年間明蓮（命蓮）上人の中興と云ふ。現時の堂宇は豐臣秀賴の再營で、本尊毘沙門天像を安置する本堂、護摩堂、多寶塔、開山堂、命蓮上人墓その他、玉藏院、成福院、千手院等の宿坊あり。山上の松永彈正信貴山城址に空鉢護法堂がある。この寺楠氏と因緣深く、正成の母本尊毘沙門天に祈りて正成を生みたりと云ひ、護良親王もこゝに駐在し給うたことがあつた。

寶物

一金銅鉢〔國寶〕　一口
高さ五寸餘、口徑約二尺八寸で、聖德君奉施入金御鉢一口施主前上總講師寬運　延長七年　歲次己丑の銘文あり、紀年を有する點に於いて貴重な遺品である。

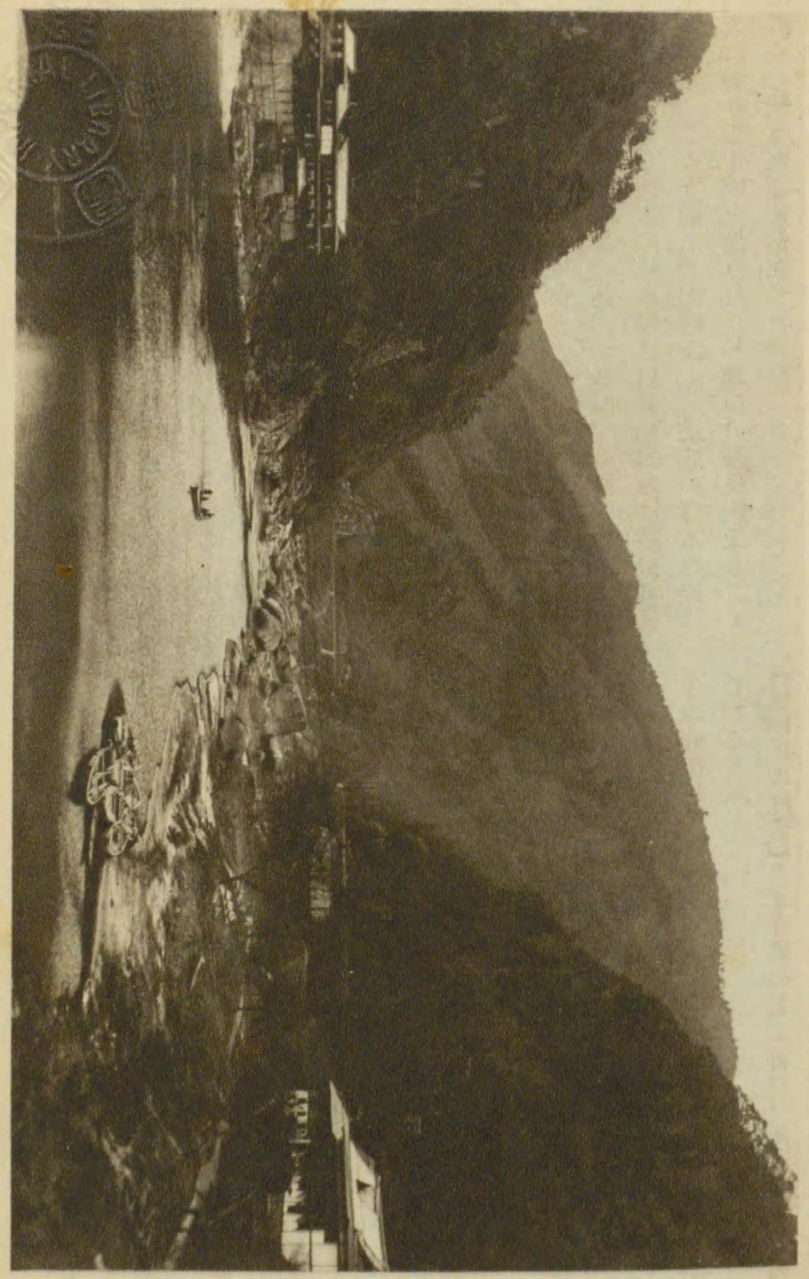
一志貴山緣起〔國寶〕紙本墨書　三卷
奈良帝室博物館出陳

一武器〔國寶〕　三種
兜一頭、袖一雙、喉輪一懸、楠木正成所用と傳へて居る。
奈良帝室博物館出陳

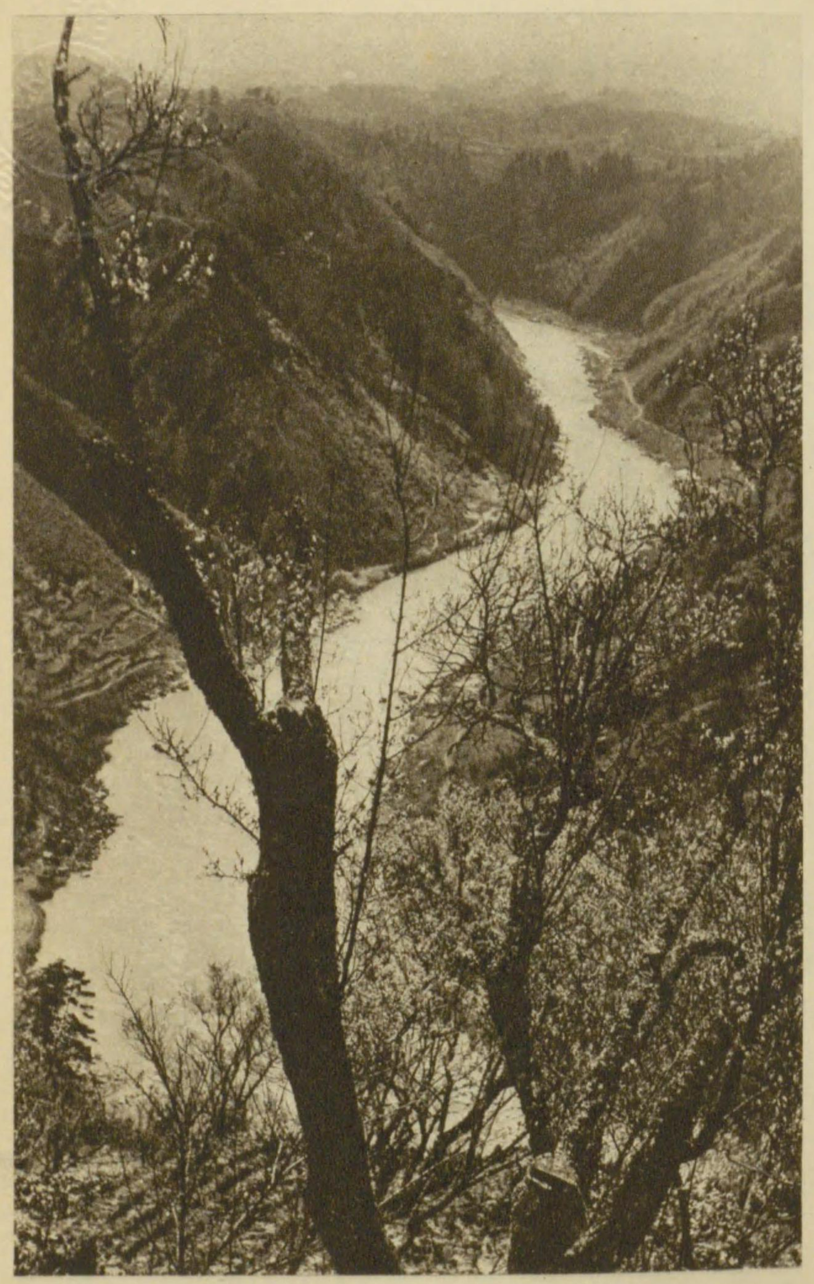
【八幡神社社殿】〔國寶〕王寺驛の北約一粁、生駒郡三郷村勢野にあり、一間社春日造、屋根檜皮葺、室町時代の建築である。

【龍田川】　生駒谷の北部に發し、上流は生駒川と呼ばれ、南流して大和川に注ぎ、長さ約一六粁、下流に沿うて龍田川の紅葉、三室山、磐瀬杜等の名所がある。今の龍田川は古の平群川で、今の大和川が古の龍田川であると云ふ。

【龍田川の紅葉】　王寺驛の北二粁三、法隆寺驛の西北二粁九、龍田町龍田を流れる龍田川の兩岸四粁餘に亘



（近附置笠）川津木



月瀬梅溪

つて居る。龍田川の紅葉は往時から有名で、これに關する古歌が少くないが、明治二十二年頃には唯三十六株の古木があるに過ぎなかつた。當時奈良縣宇陀郡から六千株の苗木を取寄せて補植したので、今は一萬本に及び、やまもみぢ及その園藝變種に、少數のいたやかへでその他を混じ、葉の大小、形態、色彩の濃淡不同で、嵐山、高雄、寒霞溪等に於ける自生械樹の紅葉とは景觀を異にする。古い時代には自生せるやまもみぢが主なものであつたらう。大木は根元の周圍約三米、地上約一米半の幹圍二米内外で、根元から數多の支幹に分かれて居るもの丶中には、樹幹の全周圍更に大なるものがあるが概ね寄植である。

近畿地方府縣別官國幣社數

	官幣大社	官幣中社	國幣大社	國幣中社	別格官幣社
京都府	八	六	〇	二	四
大阪府	四	一	〇	〇	二
兵庫縣	二	三	〇	二	一
滋賀縣	三	一	〇	〇	〇
三重縣	〇	〇	一	一	二
奈良縣	九	〇	〇	〇	一
和歌山縣	五	二	〇	一	〇

奈良龜山間

關西本線は奈良から北進して奈良縣から京都府に進み木津七粁七に至つて片町線（木津片町間四五粁四）及奈良線（木津京都間三四粁七）を分岐する。木津からは東に折れ加茂六粁を過ぎて木津川の南岸に出で、流に沿うて東進し笠置六粁七大河原五粁四を經、京都府から三重縣に入つて島ケ原七粁を通り伊賀上野七粁三に着く。

【大智寺文殊菩薩坐像】〔國寶〕木津驛の西北約半粁、木津町木津大智寺の本尊で木造、玉眼入、極彩色で鎌倉時代末期の作にかゝる。

また寺寶の十一面觀音立像は木造、藤原時代の作で、これも國寶に指定されて居る。

【御靈神社本殿】〔國寶〕加茂驛の東約八〇〇米、加茂町兎並にある。三間社流造、屋根檜皮葺の建築で全體の形よく整ひ、蟇股木鼻等の繪樣彫刻優れ、鎌倉時代末期の作である。

【燈明寺本堂】〔國寶〕加茂驛の東北約九〇〇米、加茂町兎並にある。桁行五間、梁間六間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺で、欄間その他の繪樣彫刻見るべく、室町時代初期の特徴を有する。

【現光寺十一面觀音坐像】〔國寶〕加茂驛の東北約一粁、加茂町山の上にある現光寺の本尊で木造、鎌倉時代の作である。

【西明寺藥師如來坐像】〔國寶〕加茂驛の西約一粁、加茂町大野西明寺の本尊で木造、藤原時代の作である。

【淨瑠璃寺（九體寺）】〔眞言律宗〕加茂驛の南約四粁、當尾村西小、靜寂閑雅の境地に建つて居る。

當寺は天平年間行基菩薩の創建にかゝり、後藤原時代、僧義明によつて復興されたと傳へて居る。今の本堂及三重塔婆は藤原時代の遺構で、再興當時の俤を殘して居る。

本堂〔國寶〕十一間四面、單層、屋根四注造本瓦葺、外部はすべて素地のまゝで、正面九間に扉を開き、蓮池に臨んで建ち、長方形の平面を有する藤原時代阿彌陀堂の好標本である。內部は床總板張りで九間二面を內陣となし、奥に長大な須彌壇を設け、九體の阿彌陀如來坐像がずらりと並び、その間に地藏菩薩、不動明王の諸像を安置して居る。尙須彌壇の前面には四天王の像がある。

阿彌陀如來坐像〔國寶〕本堂の本尊で九品の彌陀と傳へて九體あり、中尊は所謂丈六の彌陀で、上品下生の來迎印を結び、左右の手を上下に捌いて居るが、その左右に安置された八體の彌陀は、中尊よりも小さく何れも彌陀の定印を結び、兩手を膝の上にあつめて居り、九品の差別を印相の上に現はして居ないのである。何れも木造漆箔の像で、その形相は藤原時代に流行した定朝式に屬し、頗るよく保存され、漆箔もよく殘つて居る。

地藏菩薩立像〔國寶〕二體あり、中尊阿彌陀像の左右に安置されて居る。何れも木造にして彩色あり、藤原末期の作であらう。

不動明王二童子像〔國寶〕木造、玉眼入、盛上彩色を施した鎌倉時代の作で、寺傳には佛師康圓の作と稱して居る。

四天王像〔國寶〕本堂の內陣須彌壇の正面に安置されて居る。木造で彩色模樣が非常によく殘り、藤原時代に流行した各種模樣の標本を見ることの出來るもので、鎌倉時代初期の作と思はれる。

三重塔婆〔國寶〕池を距てゝ本堂に對し、小丘の上に建つて居る。方三間、三層、屋根檜皮葺、朱塗の建築で、藤原末期治承二年に京都より移建されたものである。形態輕妙にしてよく藤原時代の優雅な趣味を現はして居る。內部は天井柱羽目等全體に極彩色を以て寶相華文、佛像、羅漢などを描いて居る。初重中央の須彌壇には本尊藥師如來坐像〔國寶〕を厨子に納めて安置して居る。木造彩色、藤原時代の作である。

尙當寺の有名な木造吉祥天像〔國寶〕は東京帝室博物館に、また木造法起菩薩立像は奈良帝室博物館に出陳されて居る。

【岩船寺】〔眞言律宗〕加茂驛の東南約四粁、當尾村岩船

にある。當寺の由來は明かでないが、この地方に於て淨璃瑠寺につぐ古寺で、藤原時代の阿彌陀像及室町時代の三重塔婆がある。

阿彌陀如來坐像〔國寶〕本堂安置の本尊である。木造漆箔彌陀の定印を結べる巨像で、姿態の頗る雄大な藤原初期の作である。

三重塔婆〔國寶〕方三間三層塔婆にして、室町時代の建築であるがいたく破損して居る。

【山城國分寺址】加茂驛の北約二粁、瓶原村河原登大内にある。土壇二基あり、一は東西約六五米、南北約二七米、高さ約一米あり、上に村役場、現時の國分寺の堂宇等存し、圓形造出を有する方形礎石散在し、金堂址と推定され、役場の東南一〇〇米には約一〇米四方で高さ一米の土壇あり、塔の本の地字がのこり、上に圓形柱座を造出し、更に方形地覆座を加へ、柱座の中央に圓形突起ある礎石十數個整然として遺存し、塔址と推定される。金堂址の南一〇〇米にも礎石存し、恐らく中門或は大門址と推せられる。遺瓦は奈良時代の樣式を示し、且つ、文字瓦多く出土し、塔址附近からは金銅風鐸が發見されて居る。瓶原の地はもと甕原離宮の舊地で、聖武天皇この地に恭仁京を造營せられたが、間もなく廢都となり天平十八年九月二十九日、恭仁大宮の大極殿を以て國分寺に施入し給うたとある。今、恭仁京大極殿址の碑が塔址及金堂址に建つて居る。

【海住山寺】〔新義眞言宗智山派〕加茂驛の北約九粁、瓶原村例幣にある。天平七年良辨僧正の開創にかゝり、保延三年燒失し、承元元年解脫上人が中興した。境内四面山に圍まれ、古木鬱蒼として居る。本堂の本尊十一面觀音立像は貞觀時代の作風を示し、國寶に指定されて居る。

五重塔〔國寶〕五層塔婆、方三間、屋根本瓦葺、建保二年慈心上人瓶原疏水の工成つたので建立したものであると云ふ。小規模ながら藤原樣式を傳へた鎌倉時代の遺構である。

文殊堂〔國寶〕本堂の北にあり、桁行三間、梁間二間、單層屋根四注造、栈瓦葺で、鎌倉時代の遺構に屬する。

寶物

一十一面觀音立像〔國寶〕木造　一軀

尺餘の小像で一木造、日本化した檀像彫刻の一例で藤原時代初期の作である。

一法華曼荼羅圖〔國寶〕絹本著色　一幅

京都博物館出陳

【金胎寺】〔古義眞言宗高野派〕加茂驛の東北約一五粁、東和束村原山にあり、途中まで自動車の便がある。鷲峰山の山頂にある修驗道の靈場で、永仁五年九月伏見天皇行幸あり、勅して多寶塔を建立せしめた。元弘亂に兵火に罹り、以後衰微して今の諸堂は文政九年の再建である。

多寶塔〔國寶〕永仁六年の建立にかゝるもので方三間二層塔婆、檜皮葺で、外部丹塗、內部極彩色、權衡の美を有し、石山寺、金剛三昧院のものに次ぎ、古い時代に建立された多寶塔の一である。本尊は彌勒菩薩坐像で木造、鎌倉時代の作である。

寶物

一鍍弘儼八萬四千塔〔國寶〕鋳造　一基

高さ約六寸あり、塔の四面に釋迦の本生譚が鑄出されて居る。この塔は支那五代の末に吳越王鍍弘儼が阿育王の故事に倣ひ八萬四千の小塔を造つて之に寶篋印心咒經を納め諸國に頒置したが、その內五百基は我が國に傳來したと傳へ、これはその一基であると思はれ、今から約千年前の遺物である。內面に仁字を刻して居るが千字文の順序によつて記した記號であると云ふ。この塔で國寶となつて居るものは筑前今津の大泉坊にあるもので、この他に熊野那智發見（東京帝室博物館所藏）及び河內金剛寺所藏のものがある。

鷲峯山は吉野大峯山と同樣全部秩父古生層で、堅い秩父古生層の岩石が水蝕され、崖、瀧などを現出し、その絕頂は眺望がよい。

【笠置溫泉】笠置驛附近にあり、史蹟笠置山の北麓、木津川の淸流に臨める勝境、觀月の名所として昔から知られて居る。溫泉は炭酸鹽類泉で木津川上の泉源から舟にて運び、加熱浴用に供して居る。旅館は左岸に笠置館、右岸に新溫泉、同別館あり、いづれも料亭を兼ね、遊樂的の氣分が濃い。

【笠置山】〔指定史蹟〕（一七圖は2）笠置驛の東南約一粁半、山は海拔二八九・八米を有し、嶺高く溪深く、樹木鬱蒼、奇巖、崔嵬、北の山下は木津川の清流に臨んで居る。山巓に笠置寺あり、白鳳年間の草創と傳へ、枕草紙に「寺はかさぎ」とあつてその名の古から高かつたことが知られる。安元二年後白河法皇の臨幸あり、建久年間、解脫上人貞慶伽藍を修め、堂塔相並で壯觀であつたが、のち元弘元年後醍醐天皇天險と坊舍とを利用して行宮をこゝに設けられ近國勤王の兵を招かれたが、六波羅の大兵來り迫るに及びて陷り、天皇は藤房等と共に山を出て落させ給うた。山上の伽藍はこの際燒失し、弘和元年、一旦舊構に復したが、應永五年また火災に罹り、文明年間に至り貞盛和尙がこれを再興したが、嘉永七年地震に倒壞し、現時は塔頭福壽院が僅に笠置寺として存して居る。

笠置寺銅鐘〔國寶〕笠置寺寺務所の門の傍にある。解脫鐘と呼ばれ高さ約四尺五寸、口徑約二尺二寸あり、駒爪なく六ケ所に切れ込みをつくりて六葉に擬したもので六葉鐘と稱し、俊乘坊重源の寄進にかゝり、各葉の底面に左の銘文がある。

〔梵字十四字〕阿謨迦吠嚕灑羅摩訶謀達摩尼鉢
〔梵字十四字〕娜摩誥囉羅鉢羅鉢羅囉里多耶叫
諸行無常　是生滅法
生滅々已　寂滅爲樂
笠置山般若臺
新鑄華鐘　遠振梵響
願令衆生　發菩提心
建久七年丙辰八月十五日大和尙　南无阿彌陀佛

尙、寺には地藏講式及び彌勒講式各一卷あり、紙本墨書、共に貞慶筆にかゝり、前者は建久七年二月十七日、後者は同二月十日の奧書あり、何れも國寶で藤堂高睦寶永元年の箱書ある漆塗箱に納められて居る。

磨崖石佛　寺の門前を過ぎ笠置山の鎭守椿本殿の前を北に進めば林間に露出する巨石は藥師岩、文殊岩、彌勒岩等と呼ばれ、各々刻像があつたと云ふが、今は彌勒岩の面に光背形が遺つて居るに過ぎない。彌勒岩は承元の頃造顯された大和大野寺石佛の原型となつた古像であると云ふ。この三巨石に隣つた高さ三十尺幅二十五尺の巨石には虛空藏菩薩坐像を線彫してあり、鎌倉時代初期の作と推定される。彌勒岩の前正月堂の傍に元應元年の寶篋印塔あり、藥師岩の前には十三重石塔が建つて居る。貞慶、母儀のために建てたものともまたは元弘亂戰死者供養塔とも傳へる。尙、左右に石川飛驒守義純及び錦織判官俊政墓がある。

般若臺　寺の南二〇〇米、小字神宮山に建久六年貞慶建立の六角精舍般若臺の遺址に土壇、礎石を存して居る。尙般若臺を中心として附近に多く僧坊が設けられた址が認められる。

貞慶墓　笠置寺の東半粁、溪を距てゝ字東山にあり。五輪塔が四基並んで居るうち最西のもので高さ五尺五寸、俗に上人墓と呼ばれる。

行宮址　彌勒岩の西北方、山中一番高い地點で、今西面に石段が設けられ、これを登りつめた平坦な地に約一〇アール石柵を圍らし、松樹雜木鬱蒼として居る。これを本丸址卽ち行在所の址と傳へ、行宮址の東南一段低い平坦の地點を二の丸址と傳へ、この中間に空濠がある。山の半腹鐵道線路の上邊に高さ約七米、幅約六米の自然石に行宮遺址の四字を刻した碑がある。小松宮彰仁親王御筆で明治十九年の建設にかゝる。

【法明寺佛像】〔國寶〕笠置驛の東約三粁、笠置村西畷有市にある法明寺の寺寶で左の三體ある。

一釋迦如來立像　木造　一軀
高さ五尺三寸八分、損傷甚だしいが、肉體豐滿で袖衣の甚だ薄い具合等室生寺金堂釋迦像に似て、平安朝初期の製作にかゝる。
一吉祥天立像　木造　一軀
高さ五尺五寸餘、一木造、彩色等剝脫して居るが前者と同時代の製作である。
一增長天立像　木造　一軀
平安朝初期の輕快な趣致に富んだ作である。

【丹生神社本殿】〔國寶〕笠置驛の東南約一一粁、柳生村丹生にある。一間社春日造、屋根檜皮葺である。

【天神社本殿】〔國寶〕笠置驛の東南約一二粁、東山村北野にあり、一間社流造屋根厚板葺で應永年間の創建

と云ひ、細部に室町時代初期の手法を存する。天正六年修理の際の棟札あり、軒廻の彩色は江戸時代安永年間の補修である。

【木津川下り】 大河原驛から笠置山麓に至る間で、遊覽に約一時間半を要する。驛前の乘船場から解纜すると、關西本線木津川鐵橋までの間の左岸に、箒の瀨、高岩、小川、溝瀧、桝岩、下の廻、松の下、壁石岩、西岩、蛙岩、屏風岩、三郷の瀨等の勝があり、鐵橋から下流には右岸に大島瀨、赤岩瀨、赤石、ゆうせん瀨、孫太屋大瀨、一の瀨、かま岩、なめんだら瀨、はいばの瀨、屏風岩、蟹岩等の勝がある。季節は新綠の頃もよく、紅葉の頃もよい。

【夢絃峽】 島ケ原驛の西方約三粁、月瀨に至る街道の途中にあり、自動車の便がある。伊賀川に架した笹瀨橋の邊から始まり、それより下流木津川の弓ケ淵までの間約二粁の溪谷で、中央の邊に五月川（名張川）合流して三叉狀をなして居る。近時下流北大河原に設けられた發電所のダムのため、河水横溢して兩岸の奇岩峭壁の間に瀦を形成し、舟遊に適する樣になつた。

【觀菩提寺】〔新義眞言宗豐山派〕 島ケ原驛の北約二粁、島ケ原村二の井手にある。もと奈良東大寺の別院で實忠僧正の創建にかゝり、本堂を正月堂と稱す。

樓門〔國寶〕三間一戸、屋根入母屋造、檜皮葺で、內外丹塗、寺傳弘長年間に燒失したものを嘉吉年間に再建したものと云ふ、室町時代の樣式を具有して居る。

本堂（正月堂）〔國寶〕方三間、單層、屋根入母屋造、檜皮葺、堂は內外丹塗で、寺傳應永二十一年再建、天正年中の兵燹にもこの堂は災を免れたと云ふ。構造樣式から見て室町時代のものである。傍に白檀樹の老木がある。

本尊十一面觀音立像〔國寶〕一木造、六臂頂上佛十二面寶瓶本體と同一木刻出、高さ六尺七寸餘藤原初期の作である。衣紋の手法一種異樣で膝の下に並行せる皺を作り、足にズボンの樣なものを着けて居る、地方的色彩の濃厚なものである。

【淨顯寺聖觀音立像】〔國寶〕島ケ原驛の北約八粁、多羅尾村淨顯寺の寺寶で木造、鎌倉時代の作である。

伊賀上野驛 三重縣阿山郡三田村三田

▽參宮急行電鐵 伊賀上野、名張間二六粁三

▽乘合自動車 上野町行、名張町行、阿保行

【伊賀燒】 伊賀盆地の丸柱、河合、玉瀧の三村で製造され、丸柱燒とも云ひ、土鍋、土瓶、行平等の日用品を主とする。產額は未だ多くない。

【佛土寺阿彌陀如來坐像】〔國寶〕伊賀上野驛の西約一粁半、新居村東村佛土寺の本尊で木造、高四尺六寸餘、寺傳春日作と云ふが、胎內に左の墨書銘が存する。

傳燈大法師僧實海地方奏三子敬白　一體
奉造立半丈六阿彌陀如來像
右件佛　承安二年十月廿九日始
僧行源女　淚會氏愛女子等
友恒愛女　伊賀氏愛子等
友恒家女　愛子等
僧尊海女　愛子等

【高倉神社殿】〔國寶〕伊賀上野驛の西約四粁、新居村西村にある。創立の年次は不詳であるが、天正二年仁木長政が再建した際の棟札がある。中、左、右殿三社別棟をなし、何れも一間社、屋根檜皮葺で、中殿と左殿の八幡社とは流造、右殿の春日社は春日造となつて居る。蟇股の彫刻、手挾、頭貫の鼻その他の手法、皆桃山時代の特色がある。

【高倉神社の無澁榧】〔指定天然記念物〕高倉神社の境內にあり。種子の乾燥するに從ひ、澁皮は離れて殼の內面に附着するにより、殼を割れば直ちに白色の種子が露出するので、無澁榧の名が起つた。同村西山の果號寺にも無澁榧がある。

【上野町】（一七圖な2）伊賀上野驛乘換、參急伊賀線の便がある。伊賀盆地に位し、藤堂氏の城下町として發達した處で、街衢端正、鍵屋の辻、俳聖芭蕉の故鄕塚及蓑虫庵等の名所古蹟があり、主な通は東立町、本町で、產物には生絲、和傘等がある。人口約二萬。

【上野城址（白鳳公園）】 上野町の北隅小丘にあり、藤堂氏の居城であつたが、明治十九年公園となつた。石壘及濠池が殘存して居る。展望開濶で老樹鬱蒼として居

る。尚、藤堂氏の邸址は名張町にあり、低い石壘が遺つて居る。

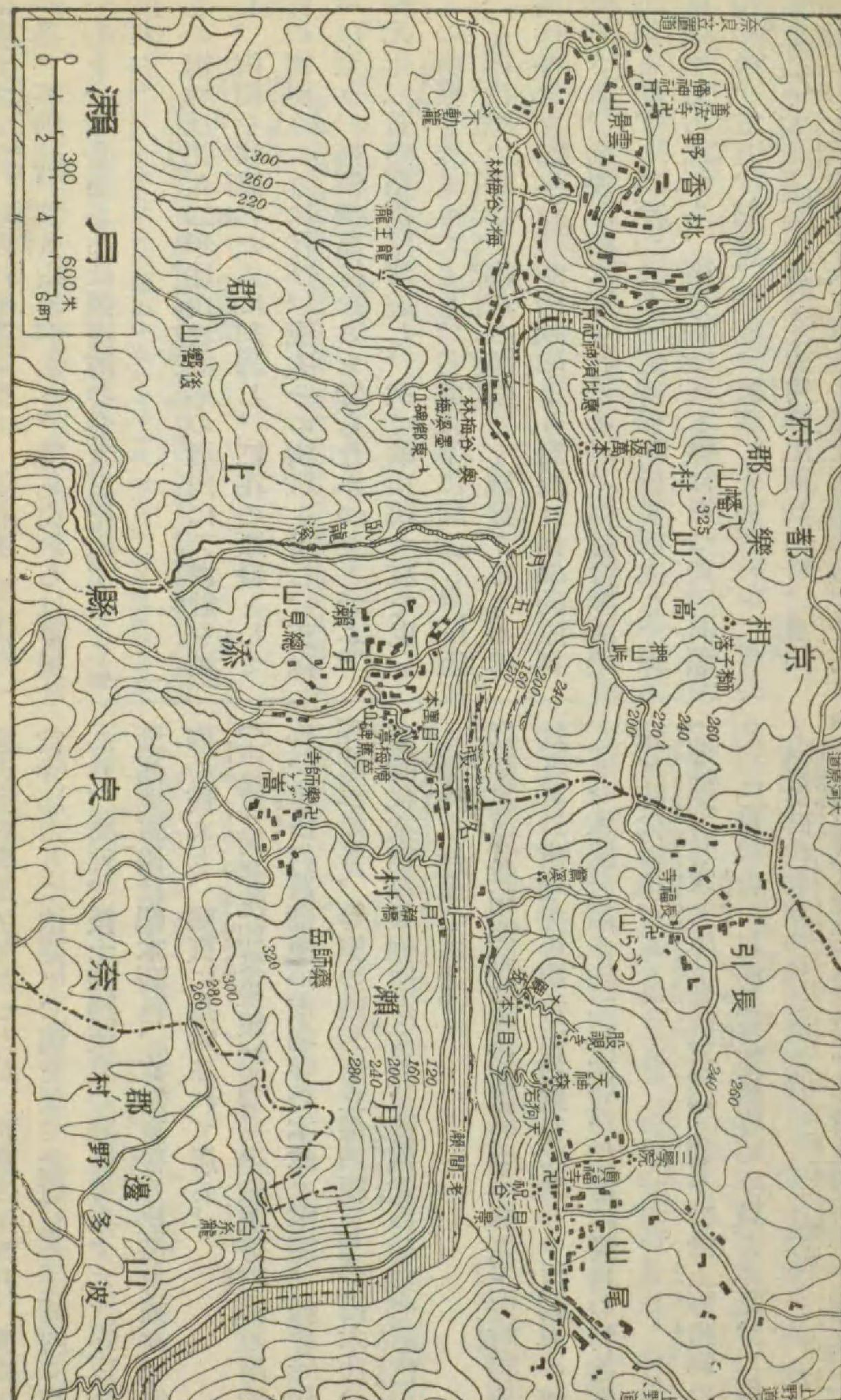
【舊崇廣堂】〔指定史蹟〕 上野町舊城入口の左方にある。文政三年舊津藩の藩學有造館の支校として藤堂高兌の建設したもので、始め文場と呼び、文政四年落成してから今の名に改めた。その後安政年間、書庫、控室等を増築し、廢藩後は明治四十四年迄上野町小學校々舍であつたが、後町立圖書館として使用されて居る。また元武技諸教舍であつた場所は阿山高等女學校敷地となつて居るが表門、玄關、內玄關、講堂及び安政増築にかゝる建造物は、今尚儼然として舊位置に存して居る。只もと東側にあつた御成門は正門の近くに移され、講堂內疊敷は板敷に、障子は硝子戸に改變せられ、講堂前に池を掘り有恒寮、思齊舍を廢して土塀となし、且有恒寮の址には小舍が設けられる等の舊規の變更されたものがある。

【故郷塚】 上野町農人町愛染院にあり。芭蕉の葬儀に列した土芳、與袋兩人が遺髮を携へ歸つてこゝに納めた。碑面の文字「芭蕉桃靑法師」は嵐雪の筆と稱して居る。

【蓑虫庵】 上野町西南日町にあり、芭蕉五庵の一で、俳聖手植の松、遺愛の石燈籠がある。

【鍵屋の辻】 參急伊賀線鍵屋の辻、西大手から何れも約三〇〇米、上野町の西端にあり。荒木又右衞門が渡邊數馬を助けて敵討を行つた處で、大きい記念碑がある。又右衞門の徒黨河合武右衞門の墓は念佛寺に、討たれた河合又五郎の墓は萬福寺にあつて、何れも廣小路驛から近い。

【月瀬梅林】〔指定名勝〕（一七圖な2） 伊賀上野驛の西南一六粁、上野町からは西一四粁、笠置驛からは東一三粁、島ケ原驛からは南一二粁、大和の月瀬村にあり、何れも自動車の便がある。木津川の支流名張川卽ち五月川に沿ひ、月瀬村六大字の中、桃香野、月瀬、嵩、長引、尾山に跨る溪谷で、東西四粁餘に及び、滿開は三月十日から二十五日頃までの間である。總見山以東は一目八景、天神森、股のぞき、一目千本等があつて、概し



て開濶であるが、以西は幽邃閑雅で、臥龍溪、龍王瀧、梅が谷、不動瀧、雲景山等があり、總見山からは東梅溪一帶を、雲景山からは西梅溪の全景を俯瞰することが出來る。

この梅林は元久二年尾山眞福寺の境内に天神社を創祀し、梅樹を移植したるに起因し、紅花の原料として烏梅の需要されるに伴ひ、漸次その樹數を增し、正保年中に至り、梅樹幾萬株なるを知らなかつたと云ふ。天保元年二月齋藤拙堂淸遊し、次で賴山陽も杖を曳いてこの勝概をたゝへてより、名聲天下に聞ゆるに至り、その自然の勝景と梅花の美觀とを觀賞するもの年と共に多きを加へた。明治初年より烏梅は化學的原料に壓倒され、需要が頓に減少したので、梅林は漸次桑園茶畑と變ずるに至つたが、近時保勝會を設立し、保護區域を定めたから、面目を改める樣になつた。月瀨は梅の外、五月、鮎漁、納凉、紅葉によい。

【西蓮寺】〔天台宗眞盛派〕參急上野町驛の西約三粁、長田村長田にある。眞盛上人中興し、後土御門天皇、後柏原天皇の御歸依深かつたが、明應四年四月、眞盛上人當寺にありて法筵中、病を以て急逝した。境内に墓墳あり、また、後土御門天皇の御塔も存する。寺寶の藤堂高虎畫像は絹本著色、衣冠束帶の坐像を描き、僧天侮の贊あり、國寶に指定されて居る。

【市場寺阿彌陀如來坐像】〔國寶〕參急上野町驛の南約八粁、古山村菖蒲池の市場寺の本尊で木造、鎌倉時代の作にかゝり、寺室の四天王立像四軀〔國寶〕は木造、藤原時代末期の製作にかゝり、檀像式の彫刻で彩色のある優秀な作品である。

【觀音寺本尊阿彌陀如來坐像】〔國寶〕參急上野町驛の南約九粁、市場寺の南古山村東谷にあり、自動車の便がある、木造、高さ約二尺六寸、相好に獨自の特色ある鎌倉時代の作である。

【蓮德寺日光月光菩薩立像】〔國寶〕參急上野町驛の南約一〇粁、古山村湯屋谷蓮德寺の寺寶で木造、二軀とも鎌倉時代初期の作である。

【新大佛寺】〔眞言宗大覺寺派〕參急上野町驛の東約二八粁、阿波村富永にある。建久年間東大寺再建で有名な俊乘坊重源の開創で、伊賀大佛道場と稱せられた。後衰頽して中古大雨の時山壑崩れ、堂舍佛像悉く破壞して土中に埋沒し、只本尊の頭と手の殘れるに因て後世これを修補した。開山堂安置の本尊俊乘上人坐像は木造、東大寺俊乘堂安置の像等と同じく、鎌倉時代初期の製作で國寶に指定されて居る。

寶　物

一興正菩薩像〔國寶〕絹本著色　一幅
室町時代の作である。

一僧形坐像〔國寶〕木造　一軀
寺傳蜜頭廬尊者と稱する像で袈裟を纏ひ、鎌倉時代後期の製作である。

一板彫五重塔〔國寶〕　一面
銘文の終に「建仁三年九月十五日造□造東大寺大勸進大和尙□□」とある。他に類似のないもので、平たい板を五重塔の形として千體佛を彫り、下に「印佛員數五輪都合惣數千三十六體」とあり、更に印佛印塔の功德が刻記せられてあるが、殆んど磨滅して判讀し得ない。

【伊賀國分寺址】〔指定史蹟〕參急廣小路驛の東約二粁、中瀨村西明寺長者屋敷にある。友生街道の南側に沿ひ、山林中に土壇、礎石等遺存し、且つ方形の土壘が周圍に存し、遺瓦を出土して居る。

【長樂山廢寺址】〔指定史蹟〕國分寺址の東方、中瀨村西明寺長樂山にある。友生街道の南側に沿ひ、山林中に主要建物の土壇存し、四周に土壘あり、遺瓦等が殘存して居る。その位置及び規模から見て或は伊賀國分尼寺址とも考へられる。

【西光寺觀世音勢至二菩薩坐像】〔國寶〕參急廣小路驛の東約四粁、友生村界外にある西光寺の寺寶で、木造、來迎姿で跪坐像であるから、もと脇侍であつて本尊が失はれたものである。鎌倉時代中期の作で國寶となつて居る。

【勝因寺虛空藏坐像】〔國寶〕參急猪田道驛の西南約二粁、猪田村山出の勝因寺（虛空藏寺）の本尊で木造、高さ約三尺二寸、寺傳空海作と稱し藤原時代通行の像である。

【長隆寺木造藥師如來坐像】〔國寶〕參急依那古驛の西約一粁、依那古村森寺長隆寺(大日寺)の寺寶で、藤原末期通行の像である。

【常福寺】〔新義眞言宗豐山派〕參急阿保驛の西北約一粁、神戸村古郡にある。明王院と號し、養老年間德道上人の草創と傳へて居る。のち天正の末年、根來寺の宥俊法印、法弟の隆盛上人と相計り中興した。寛政中、藤堂高次の祈願所となり常行堂を再營した。本尊五大明王像は木造彩色、高さ何れも約五尺、忿怒の形相凄まじく、衣文の皺襞簡約にして煩冗の嫌なく、肉身顏面の刀法巧にして密敎的な幽玄さを加へて居る。五大明王のかゝる大作の完存することは珍重すべく、奈良市不退寺のそれと相類する傑作である。製作は藤原時代で國寶になつて居る。

【大村神社寶殿】〔國寶〕參急阿保驛の東南二粁半、阿保町阿保東町、大村神社の境内にあり、元の本殿で一間社、妻正面、屋根入母屋造、柿葺で天正十五年の建立と云ふが、形狀よく調ひ、繪樣彫刻など桃山時代の特徵を遺存して居る。

【寶嚴寺十一面觀音立像】〔國寶〕參急阿保驛の東約四粁、阿保町寺脇にある木造、藤原時代初期の特徵を有した佳作である。尙、本尊には有名な千體の地藏尊がある。

伊賀上野から關西本線で東すれば佐那具四粁、新堂四粁四を經て草津線の分岐點柘植六粁二に至る。長い加太隧道を潛つて伊賀國から伊勢國に入り加太八粁九關五粁を過ぎれば漸く田畑の間に出て參宮線の分岐點龜山五粁七に着く。

【御墓山古墳】〔指定史蹟〕佐那具驛の東約一粁、府中村佐那具天王下にある。前方後圓墳で一名丸山とも呼び、樹木鬱蒼として茂り、長軸二〇〇米に及び、規模宏大を極める。土俗傳へて、崇神天皇の御代四道將軍として北陸地方に赴き、平定の後この地に駐屯して崩じ給うたと傳へる孝元天皇皇子大彥命御陵と稱して居る。附近の千歲及び驛の北方、外山等の山林中には古墳が散在して居る。

【敢國神社】〔國幣中社〕佐那具驛の南約二粁半、府中村一之宮南宮山の麓にあり、敢國津神、即大彥命を祀る。式内阿拜郡の大社で古來伊賀一宮として崇敬厚く、天正中兵火に罹り一時荒廢したが、藤堂氏入國後殿宇再興し、盛觀を呈するに至つた。十二月五日を例祭とし、四月二十五日には報賽祭あり、古式の獅子神樂の奉奏がある。

【關町】(一七圖か1)關驛所在地。東海道、大和街道の會合地で、交通の要地であつたが、鐵道の開通以來衰微した。寶藏寺の地藏は世に名高い。こゝから西北約二粁に筆捨山の勝地がある。

【地藏院】〔眞言宗御室派〕關驛の西北約一粁、關町新町にある。寶藏寺と稱し、關の地藏の名を以て知られて居る。文應年間火災に罹り、文明四年再建し、後更に元祿年間七ケ年の日子を費して今の本堂を再建した。境内廣濶で風趣に富んで居る。

護摩堂〔國寶〕方三間、單層、屋根四注造、本瓦葺で元の本堂であつたと云ひ、簡素な手法であるが向拜に奇工な蟇股を點出し、室町時代中期の遺構である。

奈良高田間

奈良から櫻井線により南下すれば京終一粁九を過ぎて奈良市外に進み、田畑の間を走つて帶解二粁九、櫟本二粁五を經、丹波市二粁六に至る。驛附近には天理教信徒宿泊所の大厦高屋が幾多甍を並べて居るのが目立つ。尙南下して長柄二粁七、柳本一粁七、三輪三粁七を通つて櫻井一粁七に着く。

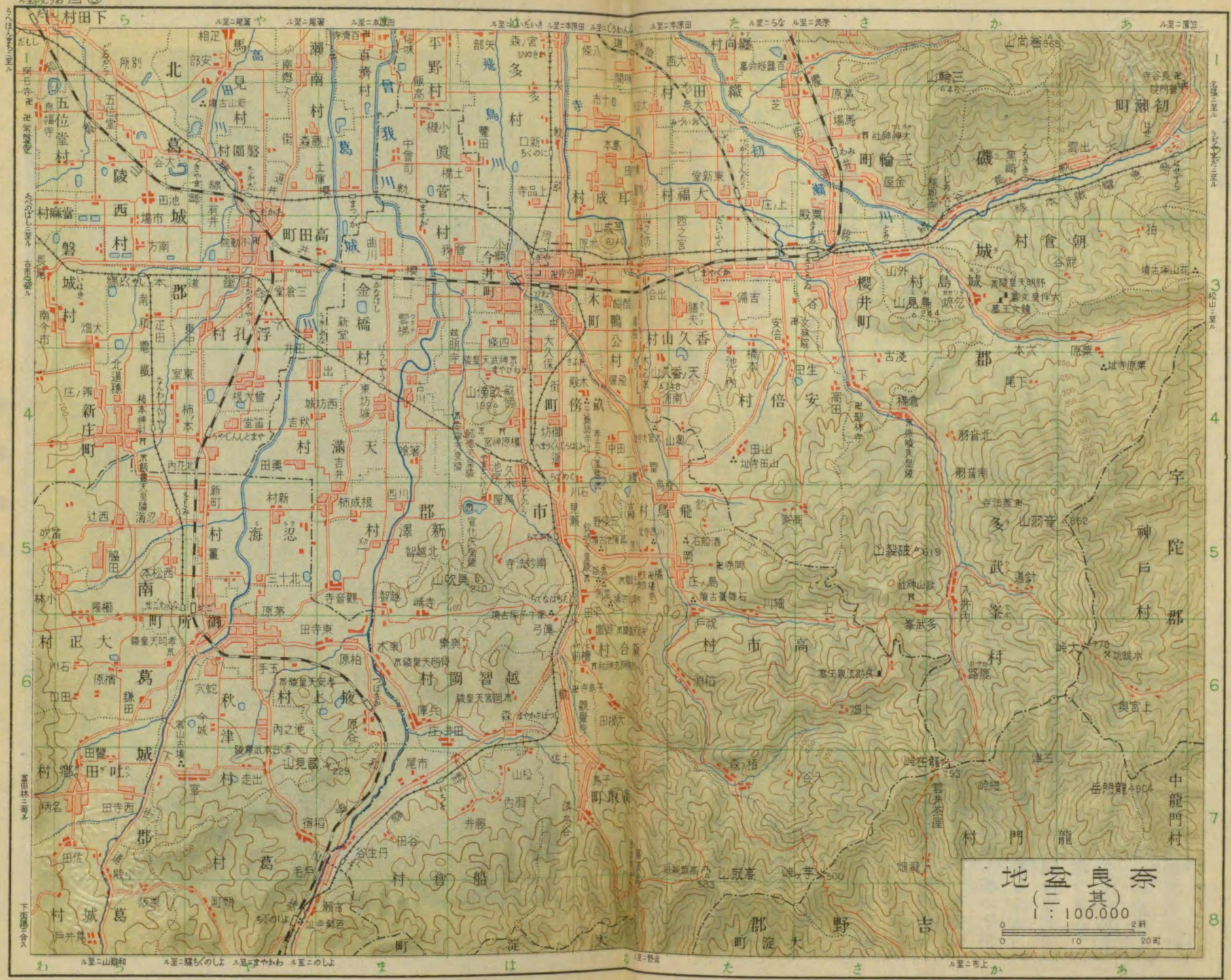
【帶解寺(地藏院)】〔眞言宗〕(一九圖さ5) 帶解驛の東二〇〇米帶解町今市にある。帶解地藏と稱し、本尊の地藏菩薩半跏像は木造、鎌倉時代の作にかゝり、國寶に指定されて居る。文德天皇の皇后御懷胎の時御祈りありて淸和天皇を御安產し給ひ造立せられたと傳へ、安產の祈願に參詣するものが多い。

【正曆寺(菩提山寺)】〔眞言宗御室派〕(一九圖あ4) 帶解驛の東五粁、五ヶ谷村菩提山寺にある。正曆三年九條關白兼家の子兼俊法印の開創で、建保中信圓法印の中興である。本尊藥師如來倚像は金銅製天平時代の作で國寶に指定され、同じく國寶の增壹阿鉾經力品卷第卅七の一卷は奈良帝室博物館へ、天平十九年二月の日附ある大安寺資財帳一卷は東京帝室博物館へそれぞれ出陳中である。境內廣大で諸堂存し、山間の一巨刹である。

【弘仁寺】〔古義眞言宗高野派〕(一九圖か5) 帶解驛の東南五粁、五ヶ谷村虛空藏にある。高井山の虛空藏さんとして知られ、小野篁の創建で、弘法大師開基と傳へて居る。寺寶の明星菩薩立像は木造空海作と傳へ、平安時代初期の作に屬し國寶に指定され、奈良帝室博物館に出陳中である。

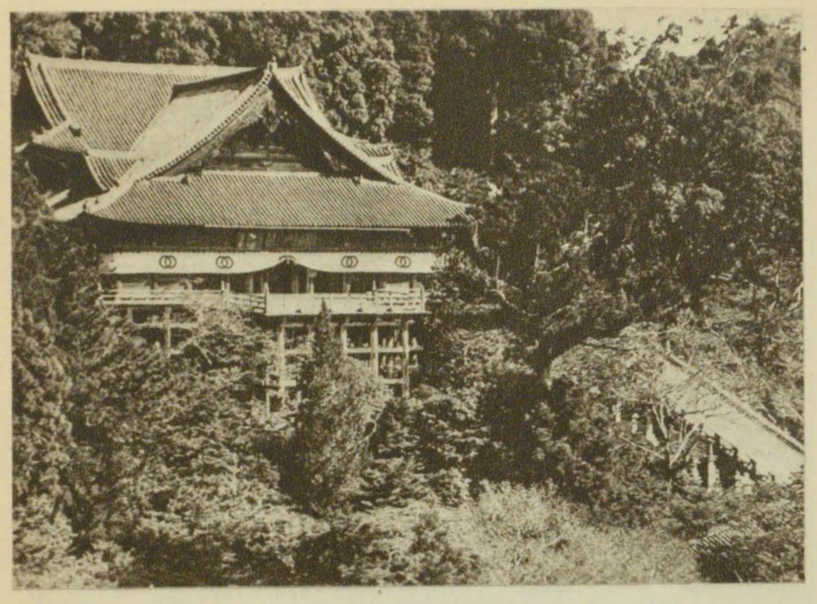
【善福寺阿彌陀如來坐像】〔國寶〕櫟本驛の東北二粁、櫟本町和爾の善福寺の本尊で木造である。

【丹波市町】(一九圖さ7) 丹波市驛所在地。奈良盆地の東緣に位し、石上神宮鎭座の地で、近年天理教の中心として大いに發展した。人口約一萬四千、天理教は神道の一派で、中山みき女を教祖とし、丹波市に結構壯麗なる天理教廳、本部、祖靈殿、教祖殿の外、中學校高等女學校、外國語學校、女子學院、圖書館等の敎育


地図 奈良
(二 其)
1:100.000
0 2粁
0 10 20町
北葛城郡
高田市
大和高田市
磯城郡
宇陀郡
吉野郡
生駒郡
奈良市
法隆寺
唐招提寺
薬師寺
興福寺
東大寺
春日神社
平城宮跡
大和三山
畝傍山
耳成山
天香具山
二上山
金剛山
葛城山
大和川
佐保川
竜田川
初瀬川
飛鳥川
曽我川
葛城川
高田川
富雄川
奈良盆地

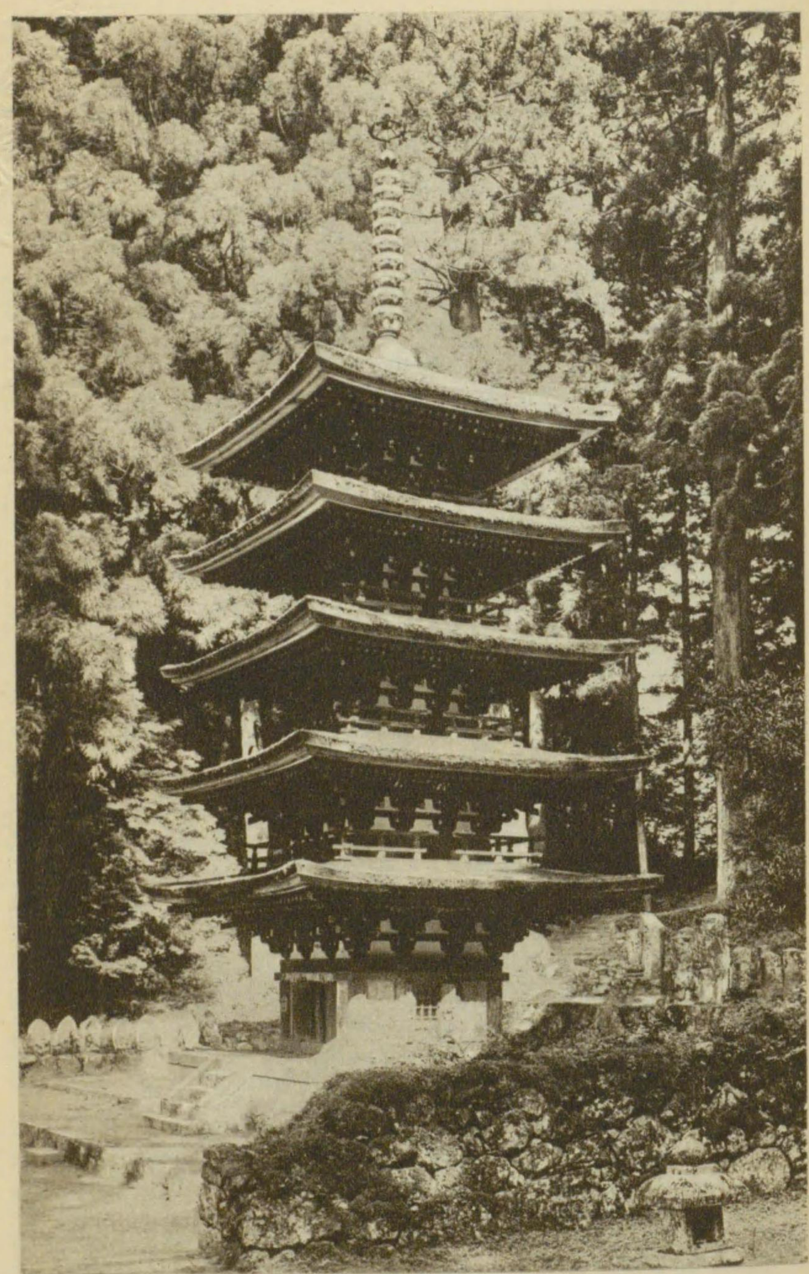
武神神大

社 神 山 縣



長谷寺本堂

長谷寺の牡丹



室生寺五重塔婆

赤目靈蛇瀑

溪　蒲

宮神原橋

機關を設けて國の内外に布教し、一月二十六日を春季大祭日、十月二十六日を秋季大祭日と定めて居る。信徒は四百萬と號せられ、宏大な信徒詰所が町内諸處にある。

【西山古墳】〔指定史蹟〕（一九圖か7）丹波市驛の東南一粁、丹波市町杣之内にあり。町の東方に當つて南北に連亘する丘陵の西側に築かれた古墳群の一箇であつて、里俗御陵と呼び、湟を環らした前方後圓の大古墳で全長約二〇〇米、高さ前方部約一〇米、後圓部は二〇米に近く花崗岩の葺石存し埴輪破片が多數に存して居る。後圓部の頂上に石英粗面岩の板狀割石が多數に散亂して居るのは曾て發掘破壞された石室の石材であらう。これ以外の著しきものでは附近に灌子山、コハンボウ古墳等があり、また稍東に白墓と稱する圓墳があり、南には東乘鞍古墳があつて、高い丘陵上に存し、石室のうちに石棺を藏する。更にこの古墳の南方一帶には萱生の千塚と俗稱する著名な古墳群がある。

【石上神宮】〔官幣大社〕（一九圖か7）丹波市驛の東一粁半、丹波市町布留にある。古は布留御魂神社ともまた布留社とも稱した。祭神布都御魂劍は、神武天皇東征して熊野に至り給ひし時、天照大神の武甕雷神をして降さしめ給ひし神劍で、崇神天皇の御世に創祀され、石上大神と號されたのである。上古はその奉仕者として物部氏が當り、境内に多くの神寶即ち武器を藏して居た延喜の制には名神大社に列し、皇室の崇敬常に變る所がなかつた。

今の本殿は大正二年の再建であるが、拜殿、樓門、及攝社出雲建雄神社拜殿は鎌倉時代の建築である。

例祭は九月十五日、渡御祭と稱する古祭禮は十月十五日に執行される。

樓　門〔國寶〕一間一戸の樓門で、屋根は入母屋造、檜皮葺で棟木に文保二年造立の銘文があり、形態のよく整つた美しい建築である。

拜　殿〔國寶〕七間四面、單層、屋根入母屋造、檜皮葺で、鎌倉初期の手法を現はした建築である。

攝社出雲建雄神社拜殿〔國寶〕五間一面、單層、屋根

切妻造、檜皮葺、もと永久寺の鎮守住吉神社の拜殿であつたが、近年今の處に移されたものである。その構造形式は鎌倉時代の初期に屬すべきもので、我國現存割拜殿及軒唐破風を有する最古の建築である。

尙當社には國寶の勾玉類十一個と色々威腹卷があるが、何れも奈良帝室博物館に出陳されて居る。

【毛原廢寺址】〔指定史蹟〕 丹波市驛の東二四粁、豐原村毛原にある。笠間川を南にせる山麓に在る寺址で、造立の由緒沿革は詳かでないが、殘存の礎石の規模及配置や遺瓦の文樣等の上から見て、奈良時代大伽藍の遺址と見るべきものである。金堂址、中門址、南大門址及西塔址等の多數の礎石が殘つて居る。

【天皇神社本殿】〔國寶〕 長柄驛の西二粁、二階堂村備前にある。牛頭天皇神社とも呼ばれる天皇神社の本殿で一間社春日造、屋根檜皮葺で、應永三年林鐘廿六日上棟云云の棟札存し、各種の繪樣は室町時代の特徴をよく表はして居る。

【大和神社】〔官幣大社〕（一九圖さ9） 長柄驛の東南約半粁、朝和村新泉にある。倭大國魂神、八千戈神、御年の神を祀り、本殿三座、三殿あり、中央は倭大國魂神左は八千戈神、右は御年神を祀つて居る。垂仁天皇二十五年の創建で、大和直祖長尾市を神主となし、倭大國魂を祭らしめ給うたと云ひ、歷代天皇の御崇敬厚く、延喜の制名神大社に列した。鳥羽天皇の元永元年火災によりて神殿三宇及び靈代等燒失した。例祭は四月一日である。境內に前方後圓型の古墳がある。

【崇神天皇山邊道勾岡上御陵】（一九圖か9） 柳本驛の東一粁、柳本村柳本にあり、ニサンザイ山と稱し奉り、山に倚り西北面して築かれた前方後圓墳で前後徑約二四三米、松樹鬱蒼として生茂し、周濠が存して居る。

【景行天皇山邊道上御陵】（一九圖か10） 崇神天皇御陵の南半粁、柳本村澁谷にある。王墓または向山と云ひ、山に倚り西面した前方後圓墳で三段に築成され、前後徑約二九米、陵上雜樹蓊蔚として茂り、周濠は御陵が山の傾斜面に存するが故に點々斷續し、小池相連なつて陵周を繞つて居る。御陵の西南約一粁織田村箸中に

は倭迹々日百襲姫命大市御墓あり、箸の墓と稱し鐵道線路の西側に横はり、長軸約三〇〇米を有する前方後圓墳である。命は孝靈天皇の皇女であると云ふ。

【長岳寺】〔眞言宗高野派〕 柳本驛の西一粁半、磯城郡柳本村柳本上長岡にある。釜の口大師と呼び、天長元年空海の開基創建になり、堂宇甍を並べしが、後屢々兵火に遇ひて、鐘樓門及び五智堂を殘存するのみである。

樓門〔國寶〕 桁行一間、梁間一間、重層、屋根入母屋造、柿葺、鐘樓と樓門とを兼ねた特殊の構造で、藤原時代の風趣を有するが、室町時代の形式手法を有し恐らく同時代の建築であらう。

五智堂〔國寶〕 境外佛堂で、方一間、單層、屋根寶形造、本瓦葺、一名眞面堂と稱し、また傘堂と稱する。その形狀構造頗る奇異で、四方吹放ちにて床なく中央に太き心柱ありて屋根に達し、その上部四面を覆うて額を作り、五智如來の種子の如きを刻して居る。鎌倉時代の遺構であるが屋蓋等は後補である。

本尊阿彌陀如來及兩脇侍像〔國寶〕 木造、中尊高四尺七寸、通行の定印像である、兩脇侍は半跏像で、中尊及び勢至菩薩像の胎內に仁平元年歲次辛未四月始、願主僧憲幸の墨書銘が存して居る。玉眼嵌入の最古の像として注意すべきで、三尊共整美且つ溫雅な像である寺寶に增長天多聞天立像二軀あり、木造で本尊と同時代の作にかゝり、國寶である。

【千萬院不動明王立像】〔國寶〕 柳本驛の西三粁、川東村法貴寺千萬院（藥師堂）の寺寶で藤原時代末期の作である尙これより西方、同村唐古及び附近一帶は石器時代の遺跡地で、彌生式土器及び破片が多數に各種の石器類と共に發掘される。

【大神神社】〔官幣大社〕（二〇圖さ2） 三輪驛の東約半粁、三輪町三輪山にある。大物主神を祀り、三輪山（三諸山）を以て神體山とし、特に神殿はなく、唯正面に鳥居を設け、その前に拜殿を建てゝあるのみである。古來朝廷の崇敬厚く、延喜の制には名神大社に列し、また二十一社の一及大和の一宮にして、今も尙著名の神社である。

今の拜殿は寛文四年德川家綱の再興にかゝり、規模頗る大にして、江戸時代初期の構造裝飾を代表せる優秀な建築で、國寶に指定されて居る。

尙當社の鳥居は木造で特殊の形式を有し三輪鳥居と稱されて居る。

大神祭は崇神天皇の八年大田田根子命をして祭らしめ給ひしにはじまると傳へ、四月と十二月に行はれるが、現今の例祭は四月九日にのみ行はれる。

攝社大直彌子神社々殿〔國寶〕第二鳥居を入りて參道の左手にある。五間五面單層、屋根入母屋造本瓦葺でその構造樣式は佛寺建築に屬し、鎌倉時代の優秀な建築である。

寶物

一周書卷第十九〔國寶〕　一卷

一高　坯　一個

木造で裏に「大神社延元三年五月日大施主道有」の朱書がある。

【玄賓庵】〔眞言宗高野派〕三輪驛の北一粁、織田村茅原にある。三輪山の西北麓でもと三輪山の北、檜原谷にあり、弘仁の頃玄賓が草庵を結んで隱棲した處で、後、遺址に大日如來を安置したが、寛文年間荒廢せるを中興し、維新の始め今の地に移つた。寺寶の不動明王坐像は木造で、鎌倉時代の作にかゝり國寶であるが、奈良帝室博物館に出陳中である。

櫻井驛　奈良縣磯城郡櫻井町櫻井

▽參宮急行電鐵　櫻井、宇治山田間　九七粁五

▽大阪電氣軌道　櫻井、初瀨間　五粁六

▽同　櫻井、上本町間　三九粁八

▽大和鐵道　櫻井、新王寺間　一七粁六

▽乘合自動車　奈良行、多武峯行、岡行、松山町行、上市行

【來迎寺地藏菩薩立像】〔國寶〕驛の東南三〇米、櫻井町櫻井にある來迎寺の寺寶で木造、鎌倉時代の遺品である。

【聖林寺十一面觀音立像】〔國寶〕驛の南二粁、櫻井町下にある。明治の初年、神佛分離に依り三輪大神社の神宮寺大御輪寺が廢寺となつた際、それを移坐したのである。像は高さ六尺九寸、右手を垂下し左手に水瓶を

執つて直立し、姿態線條流麗にして整美、乾漆像中その技巧最も練熟し、手法自在妙域に達せるものである。蓮座また完全に當時のものを遺存し、頭上の十一面も多くは舊態を存し、光背も斷片が別に保存されて居る製作年代は天平末期である。

寺の東方約一粁、多武峯に通ずる街道に近き丘上に崇峻天皇倉梯岡上御陵が存する。

【文殊院】〔古義眞言宗高野派〕（二〇粁さる）驛の西南二粁、安倍村阿部にある。安倍寺または崇敬寺と稱し、大化年中阿部倉橋麻呂の創建と云ひ、大寺であつて承曆の頃は四十九の支院を有したと云ふが、維新後衰退した。境內廣く老樹森立し諸堂がある。本尊文殊菩薩像及脇侍像三軀は木造で、中尊は高さ七尺に近く、侍者優塡王善財童子、須菩提の三軀と共に安阿彌作と傳へ、鎌倉初期の雄作で、四軀共に國寶に指定されて居る。中尊騎乘の獅子は後補で、侍者の一軀は江戸時代初期の作である。古來安倍文殊として聞え、丹後の切戸、羽前長井の文殊堂と共に日本三文殊と稱せられ、賽者が絶えない。

【文殊院西古墳】〔指定史蹟〕文殊院境內、本堂の直ぐ向つて右側にある。文殊院の東に連なる丘陵上に築造せられた古墳群の一で、突出した丘陵の高い部分を利用して稍々掘込んで石室を築造したものである。高さ約六米、底徑約二〇米、南面して壯大な石室の入口を開いて居る。石室は羨道、玄室から成り、何れも琢磨を加へた大形の花崗岩の切石を使用して居る。玄室の側壁及び奧壁は長方形の石を四段に伍の目に積んで居るが、三壁面は內心に向つて多少の傾斜を有し、天井は一枚石を以て覆つて居る。その面はたゞ平滑に磨いた計りでなく、周圍に外緣を取つて中央を次第に薄く削磨し、穹窿狀の感を起さしめる技巧は驚嘆に價するものがある。且つ左右壁面は一個所宛殊更に長い石材を用ゐて中央に筋目を入れ、一見二個の石材を並べて積んだ如くに見せて居る。羨道は左右壁共四枚の切石を用ゐ、天井石三枚、入口の一枚は高くなり、その界に細い溝を彫刻し、この部分に扉等の閉鎖裝置のあつ

たことが推察される。この古墳は石室の規模宏大で且莊麗を極め、構築の整正なる事は未だ全國に匹儔を見ないものである。石室の底が地平より低いため、入口に階段を設け、今玄室内に不動石像が安置されて居るこの古墳の東大日堂の傍に一石室開口し、また同じ丘陵の東に存する古墳は石室内に石棺が存する。

【白山神社本殿】〔國寶〕文殊院の東約100米、安倍村阿部にある。一間社流造、向拜唐破風附屋根柿葺で、室町時代中期の建築に屬する。

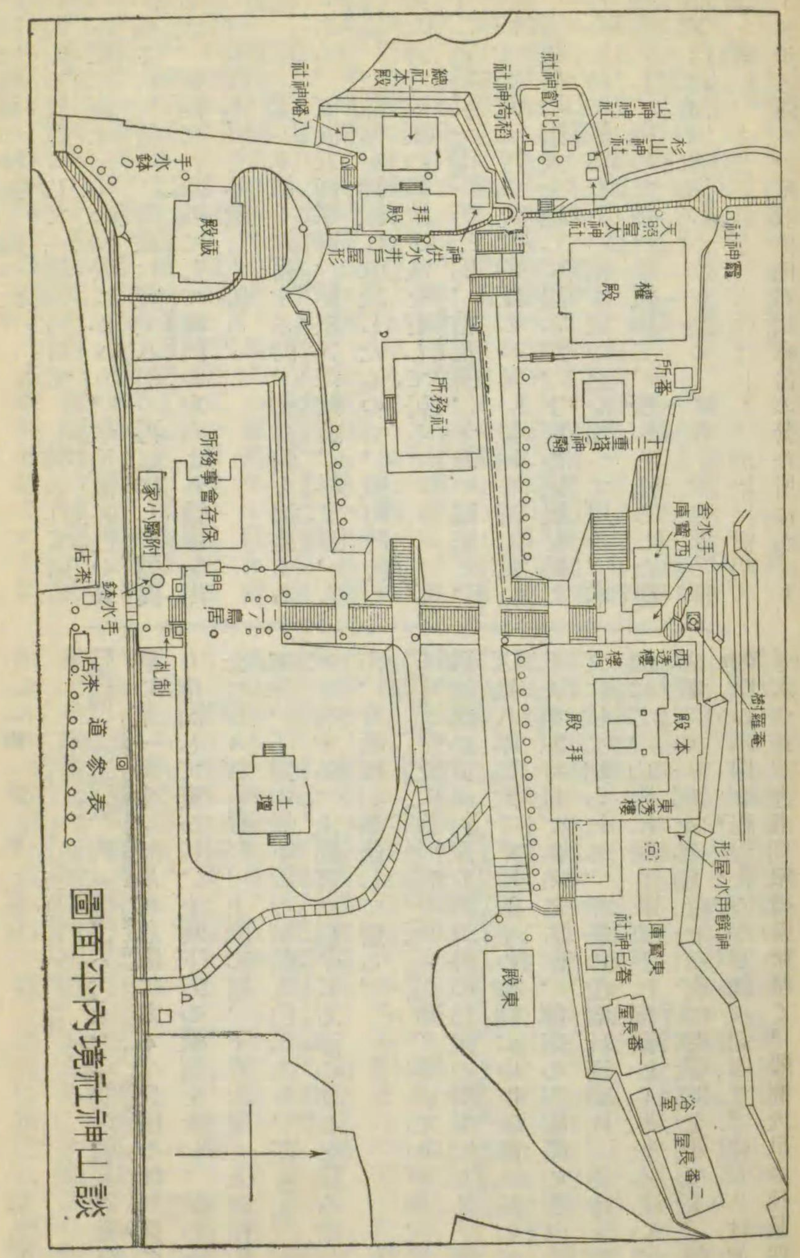
【鳥見山】(二〇圖さ〻) 驛の東南一粁餘、山容略圓形を呈して海拔三四米、神武天皇大和平定の後頂上に靈時を設けて大孝を申べ給うた處であると云ふ。しかし生駒郡の北部北倭、生駒、宇陀郡榛原町の北方鳥見山、吉野郡小川村等異說がある。

【山田寺址】〔指定史蹟〕(二〇圖た4) 驛の西南約四粁、磯城郡安倍村山田部落の西南丘陵の上に存し、はじめ淨土寺と稱し、また華嚴寺とも呼ばれた。創始は舒明天皇十三年と傳へ、蘇我山田石川麻呂の營む所にかゝり

堂塔の配置は四天王寺伽藍に似て塔、金堂、講堂を一直線上に置いた所謂百濟式によつたものである。講堂址には十六個の礎石ありてその一部は舊位置を保つて居る。その南に金堂址、更に南に塔址の礎石がある。講堂址の礎石は自然石の表面に薄い方形座を造り出しこの上に更に圓柱座の造出しがあり、これに地覆座を加へたものであつて、西北隅の礎石には狹間石が連接して遺つて居る。境内から屢々磚佛古瓦を出土した。磚佛は手法優秀、飛鳥時代の特色を發揮して居る。境内に貫名海屋の筆に成る碑文が建てられてある。

【談山神社】〔別格官幣社〕(二〇圖ぬ) 驛の南約六粁、多武峰村多武峰にあり、山麓まで自動車の便がある。

當社の祭神は藤原鎌足朝臣にして、天武天皇の御世に鎌足朝臣の長子定慧和尙が唐から歸朝し、遺骸を阿威山より多武峰に改葬し、その墓上に塔婆を建て、塔の南に妙樂寺を、またその南に聖靈院を建てゝ、鎌足朝臣の木像を祀つたのが當社の起原で、はじめは佛寺であつた。古來皇室の崇敬厚く、醍醐天皇の延長四年



圖面平內境社神上談

には談山權現の神號を賜つた。

社殿頗る壯麗にして「關西の日光」と稱されて居る今の本殿は嘉永三年の造營にかゝり、朱塗極彩色の裝飾が施されて居る。拜殿は寛文八年の再建にして規模頗る大、裝飾また華麗にして樓門の左右より透樓を出して拜殿及本殿を連續して居る。

權殿〔國寶〕本殿を造營する時、御神體を遷座する所である。五間五面單層、屋根入母屋造、杉皮葺、もと常行三昧堂を權殿に改造したもので、室町時代の優秀な佛寺建築の構造手法を有して居る。

十三重塔婆〔國寶〕方三間、檜皮葺、朱塗の建築で、高さ四十三尺五寸あり、勾配のゆるい屋根を薄く重ねて、石塔婆の形式を模して居るが、下層の屋根を特に大ならしめて居るため、稍安定の感を加へて居る。木造塔婆として極めて稀れな遺構で、唐から齎らした樣式を模したものである。

寶物

一大威德明王像〔國寶〕絹本著色　一幅

一銅露盤〔國寶〕　以上何れも奈良帝室博物館出陳　一箇

【舒明天皇押坂內御陵】（二〇圖かる）大軌長谷線外山驛の東一粁半、城島村忍阪にある。丘陵の傾斜面により南面して築かれ、上圓下方の墳型をなし、段の塚または段々塚と呼び、上圓二壇、下方三壇で上圓徑約四五米、下方の最下段の幅約九〇米あり、高さ約二八米を有する。上圓部は扁平長方形の切石を積み重ねたが、今松樹が繁茂して居る。

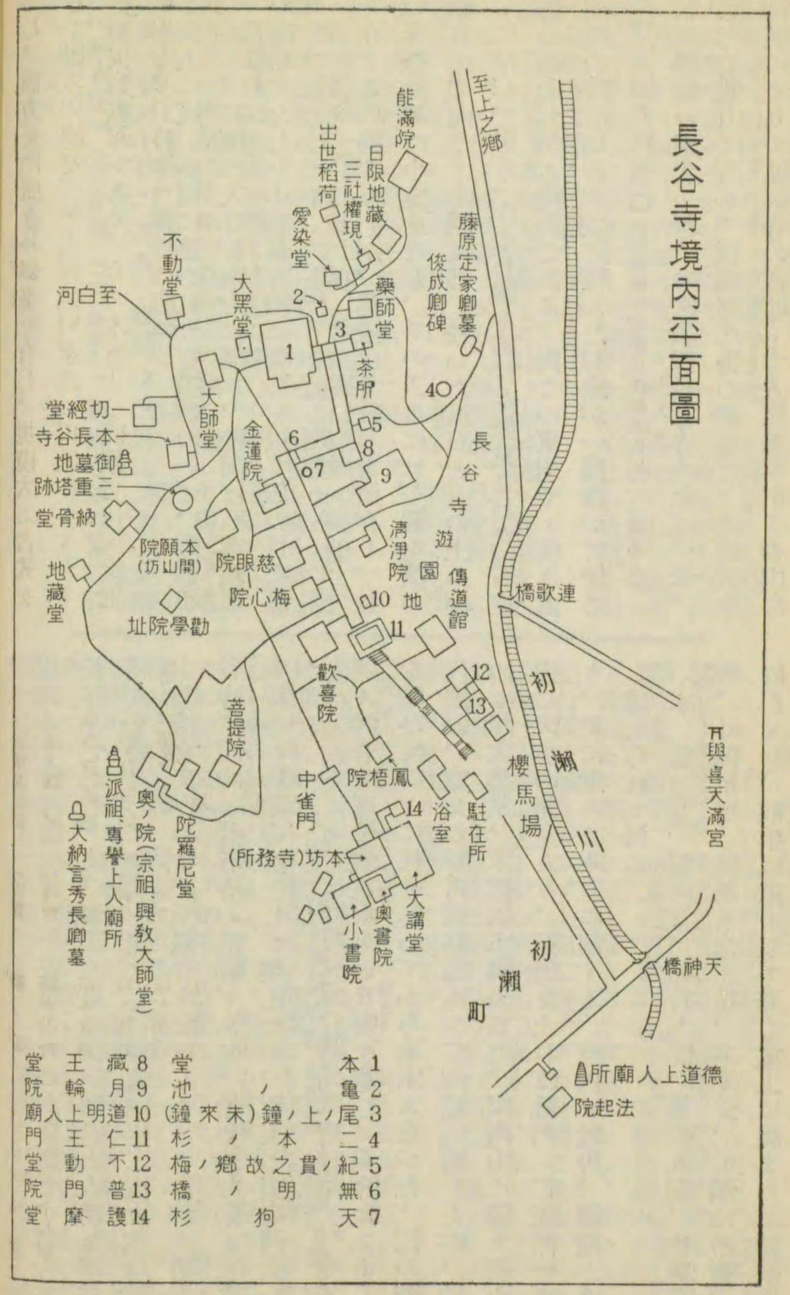
【粟原寺址】〔指定史蹟〕（二〇圖ある）同外山の東南三粁、磯城郡多武峰村粟原西垣外の山腹の斜面にある。持統天皇八年皇太子草壁親王の御爲に中臣朝臣大島の創建した粟原寺址であることが、傳來の三重塔の覆鉢の銘文に依て知られる。堂塔の位置は同時代の諸寺と趣を異にし、山腹に營まれ東西に配置せられたらしい。近年礎石の一部を移動したが、金堂及塔の舊規尙見るべきものがあり、且、古瓦が多く出土して居る。その巴瓦は中房の蓮實十五顆のうち二個連接して居る如く見えるのが特徴である。また花瓦は巨勢寺址のものとよく似て居る。

【花山塚古墳】〔指定史蹟〕（二〇圖あ4）粟原寺址の東二粁多武峯村粟原小谷にある。粟原から松山に至る女寄峠の頂上に近い斜面に築かれた古墳群の一で、圓形小墳である。石槨の入口を南方に開き、壁面は石英粗面岩を磚狀になした小形長方形の切石を以て伍の目に疊み、更に漆喰土を施して居る。前室は破壞せられて兩壁を存するに過ぎないが、奥室は天井石を遺存し、且室の奥部は更に小室をなし、その入口には石扉を篏めた軸穴が、向つて左隅底部に敷いた板石とその上の楣石とに存して居り、その石扉も破片が發見された。石室全體の構造が頗る特異である。尙この東南やゝ低き處に同樣の磚狀切石を以て積んだ石室が一箇殘つて居る。

【長谷寺（長谷觀音）】〔新義眞言宗豐山派總本山〕（二〇圖あ1）大軌初瀨驛の東北一粁、參宮急行長谷寺の北八〇〇米、初瀨町泊瀨山にある。西國第八番の靈場で、天武天皇の御願によりて弘福寺の道明上人寶龜年中この山に精舍を創建し、三重塔を建立し、塔中に銅板法華經說相圖（千體釋迦板佛）を安置したのが草創で、卽ち本長谷寺である。後、聖武天皇の御宇德道上人勅を奉じ諸人を勸進して伽藍を建立し、神龜四年工成り本尊稽主勳稽文會作の十一面觀音を安置した。これ卽ち新長谷寺で現時の長谷寺の濫觴である。始め法相宗で奈良興福寺の所轄寺院として榮えたが、天正の頃寺門大いに頹廢した。大和大納言秀長寺領を寄進し伽藍を修め、遇々妙音院專譽僧正根來の兵燹を避けて泉州にありしを請ひてこゝに住せしめてから現宗となつた。江戸時代慶安、寛文の時再建修造あつて伽藍完備したが、明治年間大講堂、庫裡以下燒失した。境內山に倚り廊を通じ大小の諸堂あり、石階を上れば總門（仁王門）あり、更に進みて本堂に達する。境內、牡丹、櫻樹が多く植ゑられて居る。

本堂〔國寶〕觀音堂、桁行九間、梁間九間、內陣重層、外陣單層、屋根入母屋造、本瓦葺、泊瀨山の懸崖にかゝり、前半は束を以て高く崖上に組まれて舞臺造

長谷寺境内平面圖



をなし、前方更に廣き外舞臺を有し、規模大で古式を存して居る。慶安三年六月德川家光の再興にかゝりその旨の擬寶珠銘がある。今の本尊十一面觀音は天文七年東大寺佛工良學丹後の作と云ふ。

奥の院　本堂の西南三〇〇米、興敎大師堂あり、堂傍にある礎石は三重塔の舊址である。

寶物

一不動明王坐像〔國寶〕木造　一軀
　不動堂安置の木尊である。
一地藏菩薩立像〔國寶〕木造　一軀
　地藏堂安置の木尊である。蓮華座下面に天文十五年の後補銘がある。
一不動明王坐像〔國寶〕木造　一軀
一金鼓〔國寶〕銅製　一口
　徑七寸四分、厚二寸七分五厘表面銘帶に八幡宮福樂寺奉施入金口僧永覺建久三年十一月廿一日の鑄出銘を有し、現存金鼓の最古の有銘遺品である。
　左記のものは奈良帝室博物館出陳
一阿彌陀來迎圖〔國寶〕絹本著色　一幅
一淨土曼荼羅圖〔國寶〕絹本著色　一幅
一法華說相圖〔國寶〕銅盤　一面
一法華經〔國寶〕紙本墨書　二十八卷
一無量義經〔國寶〕紙本墨書　三卷
一觀普賢經〔國寶〕紙本墨書　一卷
一阿彌陀經〔國寶〕紙本墨書　一卷
一般若心經〔國寶〕紙本墨書　一卷

【普門院不動明王坐像】〔國寶〕大軌初瀨驛の東北一粁、初瀨町初瀨にある普門院の寺寶で木造、不動堂に安置されて居る。同じく同町初瀨の能滿院の寺寶、地藏十王像及び春日曼荼羅圖は共に絹本著色で、前者は室町後者は鎌倉時代の作であるが、二幅とも國寶で奈良帝室博物館に出陳中である。

【妙圓寺藥師如來立像】〔國寶〕大軌初瀨驛の北約四粁、上之郷村笠にある妙圓寺の寺寶で木造、平安初期の作で長谷觀音の餘材を以て作つたと傳へる。

【宗祐寺多聞天立像】〔國寶〕參急榛原驛の東北約三〇〇米榛原町萩原、宗祐寺の寺寶で、木造、鎌倉時代の作にかゝり國寶である。同じく國寶の絹本著色佛涅槃圖三幅は奈良帝室博物館に出陳中である。

【宇太水分神社】〔縣社〕參急榛原驛の南約一粁、榛原町下井足にある。水分神を祀り、大宮と呼び、式内社である。本殿は三殿より成り共に一間社、春日造、屋根檜皮葺で、左殿の棟木銘に元應二月二十三日上棟云云とあり、小建築であるが鎌倉時代末期の遺構で、繪樣彫刻が美しい。

【佛隆寺石室】〔國寶〕參急榛原驛の東南約四粁、内牧村赤埴佛隆寺境内にある。寺は仁明天皇の嘉祥年間、空海の高弟賢惠の開基で、石室は本堂の後方赤埴山の半腹にあり、賢惠の廟塔である。寶形造の石築で、自然石の割石の面を粗麁きして積み累ねて四壁を作り、後壁は山崖に接して居る。屋蓋は自然石を以て葺き寶形をなし、頂上同じく石製方形露盤を置いて居る。正面中央に入口を開き、内部の奥壁に方孔を設け五輪塔婆を安置して居る。屋根の勾配緩かなる等藤原時代の特徴を表はして居る

【松山西口關門】〔指定史蹟〕參急榛原驛の南約八粁、松山町下茶にある。舊松山城の西口門で警察署の南、橋の前に當り、桝形を成し正面の柱間十三尺五寸、軒の高さ十二尺三寸を有し、兩圓開の左右に袖垣を附した藥醫門で、江戸時代初期の建築に屬し、舊位置の儘を保つて居る。城下町の關門として珍らしい遺構である。

【森野舊藥園】〔指定史蹟〕參急榛原驛の南約八粁半、松山町の東にある古城山の麓にあり、舊城址の本丸から西南に突出した山嘴の地を利用した藥園である。松山の人、森野藤助が創始した所に係り、今に舊態を存し漢種その他の舊時栽培した藥種草木が生育して居る。藤助字通貞養郭と號し、元祿三年この地に生れ、性藥物を好み、享保十四年德川吉宗が國産藥物を檢索するため、植村佐平次を大和に遣はした時、藤助これを助けて公役に服し、のち功を以て特に甘草その他の漢種を下附せられ、尋で各種の藥草を賜はつたので藤助これを栽培し、且、精製販賣を許可せられた。明和四年六月、歳七十八を以て歿した。大正六年從五位を贈らる。その子孫よく家業を承繼し、明治維新を經て今日に及んだ。園の高所に養郭堂あり、藥園制札等を存し

側に皆川淇園の筆に成る養郭翁祠堂之碑がある。その他石水亭、桃岳庵等の建物あり、遺物標本、文書、書藉等今に保存されて居る。

【八ツ房杉】〔指定天然紀念物〕參急榛原の南約一一粁、宇賀志村佐倉字天王櫻實神社境内にあり、大小六株の杉の一處に密生するものにして、古來八ツ房杉と稱されるその中、幹の基部にて互に合着し上部の屈曲せるもの、また全幹殆ど水平に伸出せるものあり、幹の最大なるものは根元の周圍約八米に達する。普通の杉の直生せるに反し、奇異の發生を遂げたる點に於て學術上有益なものである。

【大藏寺】〔新義眞言宗豐山派〕參急榛原驛の南約一二粁、上龍門村栗野にある。役行者練行の地と傳へ、弘仁年間嵯峨天皇の勅願により弘法大師堂舍を建立したと云ふ。江戸時代に及んでも寺運衰へず、五百五十石の朱印を受けて居た寺である。

本堂〔國寶〕桁行五間、梁間五間、單層、屋根四注造、柿葺、亂石積基壇の上に建ち、鎌倉時代中期の建築である。

大師堂〔國寶〕桁行三間、梁間二間、單層、屋根寶形造、柿葺で、今背面に二間の廂を葺降して居る。本堂と同時代の建築である。

【都祁水分神社本殿】〔國寶〕參急榛原驛の北約一〇粁、都介野村友田にある。俗に友田の水分と云ひ、本殿は一間社春日造、屋根檜皮葺、殿内靈座の床板裏に康正三年造立の文字があり、室町時代の遺構に屬する建物である。

【大野寺】〔新義眞言宗豐山派〕參急室生口大野驛の東南約三〇〇米、三本松村大野にある。慈尊院彌勒寺とも稱し天長年間弘法大師空海の開基にかゝり、後土御門天皇の御代寺の規模を壯大となし、承元元年天皇の御願により雅緣大僧正山城笠置の石佛に模して彌勒菩薩を岩面に刻し、同三年成る。供養の際は後鳥羽上皇御幸し給ひ、御諱を書き給へる宸翰を體内に納め給うた。天正年間兵亂に寺堂燒燼したが後再興した。地藏堂安置の本尊地藏菩薩立像は木造で身代燒地藏尊と稱し、袈

裳に切金文様があるが、鎌倉時代末期の作で國寶に指定されて居る。石佛は寺の前面、宇陁川の對岸屏風浦の英雲安山岩の大岩壁に刻まれ、總高五丈、流麗な線彫で形よく整ひ石佛中の雄作である。近年像の胸部及び腹部の邊にある圓い小孔内から朽敗した小卷子を發見した。附近は岩壁所々に露出し、下は溪流をなし、十月末より十一月中旬頃は樹木の紅葉する秋の景觀がよい。

【室生寺】〔新義眞言宗〕（一七圖な4）參詣室生口大野驛の南八粁、室生村室生、室生山の中腹、閑雅幽邃の地にあり。白鳳九年役小角の草創と傳へ、後弘法大師の再興によつて堂塔完備し、女人高野と稱し、眞言密教の大道場となつた。現存の金堂と五重塔婆とは平安時代初期に屬する稀有の遺構として名高く、この他鎌倉時代の本堂と御影堂がある。これ等諸堂の内には平安初期に屬する優秀な多くの佛像が安置されて居る。

彌勒堂　參道の石段を登つて行くと左手に當つて最初にある堂で、三間三面入母屋造柿葺朱塗の建築である。本尊彌勒菩薩像は有名な國寶であり、この外國寶の釋迦坐像が安置されて居る。

彌勒菩薩立像〔國寶〕彌勒堂の本尊で、廚子内に安置されて居る。木造、高さ三尺一寸、寶珠形の光背を負ひ、珠鬘を以て嚴飾せる檀像式の優秀な作で、中唐の樣式を傳へたもので、我が弘仁式佛像の手本となつたものであらう。

釋迦坐像〔國寶〕彌勒堂内外陣の一隅に安置されて居る。木造高さ四尺五寸肉付豐かにして右手に說法の印を、左手に與願印を結べる釋迦像で、力强い刀法を示した弘仁式の優秀な作である。

金　堂〔國寶〕彌勒堂から石段を上つて右手にある。五間五面、朱塗單層、屋根は四注造、柿葺、嘉祥二年の建築であるが、前方一間通りは江戸初期に附加したものである。構造頗る簡單にして桝組は單純な大肘斗木を使用せるに過ぎない。内部は床を張り、外陣の天井は化粧屋根裏となし、内陣は組入天井を張つて居る佛壇後方の板壁には帝釋天曼荼羅を現はした壁畫が描

かれて居る。胡粉繪で奈良時代から平安初期に移る過渡期の手法を徵すべき貴重な研究資料である。須彌壇内には釋迦如來、藥師如來、文殊菩薩、十一面觀音及十二神將等、平安初期に屬する優秀な佛像が安置されて居る。

釋迦如來立像〔國寶〕金堂の本尊である。弘法大師の作と傳へ、金堂創建當時のものである。木造著色高さ七尺八寸、右手を擧げ左手を垂下し、身體の肥滿せる雄大な作で、刀法銳利にして一種の特色を持つて居る光背は木製で舟形を成し、高さ一丈一尺、幅は最も廣き所で五尺二寸あり、胡粉地に唐草繧繝彩色を施し、七體の化佛を描いたもので、その構圖彩色優秀にして平安時代初期に於ける佛畫の一般を窺ふべき貴重なものである。

藥師如來立像〔國寶〕金堂安置の像で、木造著色、高さ五尺四寸、本尊釋迦像と同樣平安時代初期の作である。光背は舟形で同じく胡粉地に彩畫を施した優秀な作である。

文殊菩薩立像〔國寶〕金堂内釋迦像の向つて左にあり木造著色、高さ六尺八寸、これも弘法大師の作と傳ふる平安初期のものである。光背また舟形を成し、胡粉地に花文を描いて居る。

十一面觀音立像〔國寶〕金堂内安置の像で、聖德太子御作と傳へて居るが、これも同じく平安初期の作である。木造著色、優秀な作で、高さ六尺四寸、左手に華瓶を提げて居る。光背は舟形をなし、胡粉地に唐草繧繝彩色を施して居る。

地藏菩薩立像〔國寶〕金堂安置の像で、木造高さ五尺三寸、釋迦及藥師像と同形式のものにして光背も舟形を成し、同じく平安時代の作である。

十二神將立像〔國寶〕金堂内諸佛の前列に安置されて居る。木造著色、高さ各約二尺の小像であるが、鎌倉時代初期の優作である。十二體のうち二體は奈良帝室博物館へ出陳されて居る。

本　堂（灌頂堂）〔國寶〕金堂から五重塔婆に至る途中にある。五間五面、單層、屋根入母屋造、檜皮葺、朱

塗の建築で、寺傳に弘法大師再建のまゝと傳へて居るが構造樣式より見て鎌倉中期のもので、和樣に天竺樣を加味した屋蓋の美はしい大建築で、本尊如意輪觀音像が安置されて居る。

如意輪觀音坐像〔國寶〕本堂の本尊で春日廚子に納められて居る。木造漆箔、六臂の半跏像で、高さ二尺六寸、平安時代前期の作で弘法大師の作と傳へ、製作技法ともに優秀である。

五重塔婆〔國寶〕本堂から奥の院に至る登り口にあたり、綠深き樹林の中に建つて居る。弘仁時代の建築にして弘法大師一夜の建立と傳へて居る。方三間高さ五十三尺四寸、現存五重塔婆中最小のものである。屋根は檜皮葺で、勾配緩く、軒の出深く、木割は一般に小さくして纖麗の趣致に富み、全體として恰好の良い朱塗の美建築である。

御影堂(奥の院)〔國寶〕室生山の最高所にあり、弘法大師堂とも稱して居る。三間四面、單層屋根寶形造檜皮葺、鎌倉時代中期の再建である。

寶物

一佛具〔國寶〕金銅製　五個
一十二神將立像〔國寶〕木造　二軀
共に奈良帝室博物館出陳

【室生山暖地性羊齒群落】〔指定天然記念物〕室生寺境内本堂の後方、燒山の無明谷にある。主として暖地產のもので、いよくじやくしだ最も多く、これに次いでいはやしだ、おほばのはちぢやうしだ、きよすみひめわらび、はかたしだ等がある。いよくじやくしだ、いはやしだ等は四國、九州の如き暖地に產するものであるが、これを室生山に見るのは分布の北限である。

【室生龍穴神社】室生寺の東約一粁、室生村室生龍穴にある。式内社で高靇神を祀り、今天兒屋根命及び大山祇命等を配祀し、祈雨の神として知られて居る。社後の山に岩窟存し、うちに龍穴神が祀つてある。

【三本松】〔指定天然記念物〕參急室生口大野驛の西北三〇〇米、三本松村三本松にあり、目通幹圍六米、根本より約三米の高さに於て幹は三大枝に分れ、東西北の三方に擴がり出て居る。故に三本松の名を得、村名もまたこれによつて居ると云ふ。黑松の巨樹として有數のものである。

【向淵すずらん群落】〔指定天然記念物〕參急室生口大野驛の西北一粁半、三本松村向淵にあつて、自動車を通ずる。すゞらん群落地は字奥柴その他の四區に分れ、何れもくぬぎ、こなら等の雜生せる林底に存し、粗密不同であるが、概して密生し、山邊郡都介野村吐山にあるものと共に、本邦に於ける分布の南限となつて居る。

【赤目の峽谷】〔指定名勝〕參急赤目口の南約二粁六、名賀郡瀧川村長坂にあり、山麓赤目まで自動車の便がある。その途上も景色がよい。

赤目と香落とは夙くから伊賀の二名勝としては知られて居たが、參宮急行の開通以來、夏秋の頃特に觀光の人が多くなつた。自動車の停まるところが赤目で、そこには役小角の開基と傳ふる古刹延壽院がある。昔は八坊もあつたさうだが、今は僅に一宇の堂にその址を殘して居るのみである。境内に德治二年丁未十一月在銘の春日形の石燈籠一基あり、國寶に指定せられて居る。

いはゆる赤目の峽谷は名張川の支流丈六川が赤目山に於ける柱狀節理の片麻岩地を流下する際に、斷崖飛瀑、潭淵を現はして景趣をなして居るところで、行者瀑から始まつて岩窟瀑に終るまで、前淵後淵に分つてその間に飛泉懸水大小幾十を數へ、俗にこれを赤目の四十八瀑と稱して居る。瀑は大して大きなものは無いが、前淵には行者瀑、銚子瀑、東覗西覗、懸衣岩不動瀑、靈蛇瀑、天王舞臺岩、護摩岩、千手瀑、天狗の踞岩、曳布瀑、龍ケ壺の勝がある。後淵には斧潭、縋藤瀑、夫婦瀑、降雨瀑、陰陽瀑、釜潭、柿窪瀑、横潭、荷擔瀑、琵琶瀑、岩窟瀑などの勝があり、瀑水と懸崖と磐岩と樹林と相照映して幽邃極まりなき景致をなして居る。この邊り春は花、夏は納涼、秋は觀楓の遊賞によい。旅館　對泉閣。

【香落溪】參急名張驛から溪の入口の晦淵まで約八粁それより小太郎落しまで約八粁の間を口香落と云ひ、

葛から長野に至る約八粁の間を奥香落と云ひ、名張から自動車の便がある。

香落溪は名張川の支流青蓮寺川の峽谷で、伊賀の箕曲村から大和の曾爾村に跨り、片麻岩の柱狀節理が諸處に現はれ、峯巒の奇と溪水の深洄と相俟つて幾多の景致をなし、新綠、紅葉の頃最も遊賞に適する。

名張から約二粁ばかり行くと比奈知川と青蓮寺川の合流するところに縣社積田神社がある。香落行の自動車はその宮居を左に見て青蓮寺川の谷に入り、中知山の辨天と發電所を左右に見て、やがて香落の第一潭晦淵の上に架る香落橋に至る。

橋を渡ると道は轉じて西岸に沿ひ、屏風を立て廻した樣な岩山が左右から迫り、前面には濃淡の襞を重ねた峻峯聳えて道をふさぐ。羅漢岩を對岸に仰いで一轉回すると道の上に溪中第一の不動の瀧が懸り、やがて覗岩の大絶壁が頭上を壓する。更に屏風岩の柱狀節理の美を對岸に仰ぎつゝ滑淵を下に見て通ると川の中に龜の背岩の横はつて居るのが見える。紅葉の美はこの屏風岩から鬼面岩あたりが最も好いのである。やがて前面には念佛岩とも云ふ天狗柱岩が聳立して溪中第一の偉觀を現じて居る。

そこからは兩岸の山勢次第に緩かになり、對岸には八幡長者の屋敷址と傳ふる小平地があり、やがて伊賀大和の國境の溪流に架せる落合橋を渡る。そのあたり對岸には大空高くそゝり立つ大絶壁が見える。これが口香落の終點で、八幡長者の一子小太郎が、惡漢の爲に突き落されて、無慘の死を遂げたと云ふ小太郎落しである。

奥香落はこの小太郎落しから奥で、大和の曾爾村に屬し、口香落に比してずつと溪が開けて居り、蕭條な山村が左右に現はれて景趣一變更に妙を覺えしめる。その焦點をなすは鎧ケ岳と兜岳と屏風岩で、この附近一帶の地層の基礎をなす片麻岩を貫いて噴出した英雲安山岩が風雨に浸蝕されて壯大なる柱狀節理の美觀を呈したものである。葛に行くと鎧の腹卷を正面から見た形に似た鎧ケ岳が仰がれ、その柱狀節理は恰も小札

を列ねた樣に見える。西行はこの狀景を「まくずなる鎧が岳に來て見ればそよ吹く風のくさずりの音」と詠じた。横輪に行くと兜岳も名に負ふ如く兜の鉢釜の樣に見られる。屏風岩は奥香落の王者で自動車の終點から登路約二粁、岩屏風の長さ約一粁半、高さ約二〇〇米に及び、岩壁全面に柱狀節理の岩相を露出して壯觀限りなく、岩下の高原には躑躅、櫻多く自然の公園をなして居る。地質學者の說によると太古この附近に大噴火があり、今の曾爾盆地はその噴火口であり、口香落の溪谷はその火口瀨であり、屏風岩は噴火口壁の一部が風雨の侵蝕に堪へて殘存したものであると云ふ。

【無動寺】〔眞言宗醍醐派〕參急名張驛の西約二粁半、錦生村黑田堂ケ谷にある。寺寶の不動明王立像は木造で極彩色、高約三尺二寸あり、面相豐滿な藤原時代末期の作で國寶に指定されて居る。

【福成就寺廚子】〔國寶〕參急名張驛の南約二粁、名賀郡箕曲村中村にある福成就寺の寺寶で、木造黑漆、文明十二年の銘が存する。

【彌勒寺十一面觀音立像】〔國寶〕參急名張驛の北約五粁名賀郡鷹原村八幡にある彌勒寺の寺寶で木造、高約五尺五寸、藤原樣式を遺存する鎌倉時代初期の作である同じく寺寶の鎌倉時代末期の作にかゝる木造聖觀音立像と共に國寶に指定されて居る。

【國津神社十三重石塔婆】〔國寶〕參急名張驛の東南約二〇粁、一志郡太郎生村國津神社の境內にあり、自動車の便がある。規模大ならざれども、初層四面に四佛を彫刻し、相輪折損して居るが、殆んど完全に存し、鎌倉時代の俤を存して居る。

櫻井からは西に折れて左窓に天香久山を望み香久山二粁を經、耳成山を右窓間近く眺めて畝傍三粁を過ぎ金橋二粁六を通つて高田二粁一に至つて和歌山線に接する。

畝傍驛　奈良縣高市郡八木町八木

▽大阪電氣軌道　畝傍、吉野口、吉野間二八粁七

【大和三山】　奈良盆地の中に屹立する畝傍山、耳成山、香久山の三丘陵を云ひ、何れも美しい形をなして居る。香久山、耳成山は男性で、女性の畝傍山を爭うたと云ふ傳說がある。平城京の規範となつた藤原京はこの三山の間にあつた。

天香久山　香久山驛の南八〇〇米、香久山と略稱される。花崗片麻岩より成つて海拔一四八米、海原なせる埴安池はその北麓にあつたであらう。

耳成山　畝傍驛の東北一粁一、大軌耳成の西北約四〇〇米。天神山或は梔子山の別名を有し、讃岐岩より成る塊狀火山で、海拔は三山中最も低く一四〇米である。

畝傍山　畝傍驛の南約一粁一、大軌橿原神宮前の西北約五〇〇米、一に慈明寺山と呼ばれ、往昔山腹に七十八の寺院があつたと云ふ。讃岐岩から成る塊狀火山で、海拔は三山中最も高く、一九九米である。登山口は畝傍、大久保、吉田、山本の四つあつて、道程三〇〇米乃至四〇〇米である。山頂に畝火山口神社がある。

【飛鳥川】　高市郡の南部稻淵山に發し、北流して飛鳥地方を經、磯城郡に入つて大和川に注ぐ。流程三〇粁內外の小川であるが、昨日の淵ぞ今日は瀨となると詠ぜられて、古來著名である。

【國分寺十一面觀音立像】〔國寶〕畝傍驛の東半粁、八木町八木にある開運厄除觀音として賽者のある國分寺の寺寶で木造、藤原時代の作にかゝる。本堂は奈良時代樣式を具へた柱礎の上に建つて居る。

【正蓮寺大日如來坐像】〔國寶〕畝傍驛の西北約半粁、今井町小綱にある正蓮寺大日堂の本尊で、木造、鎌倉時代末期の精緻な作である。

【神武天皇畝傍山東北御陵】（二〇圖は4）　畝傍驛の南一粁、大軌神武天皇御陵前下車、畝傍町洞にあり。畝傍山下の平野に位し、八稜圓形の御陵で、文久三年に修治されたものである。徑約三二米、高五米半、周濠幅約一六米、內外に丘堤を築いて居る。御陵上には松樹鬱蒼として繁茂し、兆域森嚴廣濶として居る。尙、畝傍山の南麓に懿德天皇畝傍山南纖沙溪上御陵あり、安寧天皇畝傍山西南御陰井上御陵は山の西麓にある。何れも圓墳である。

【橿原神宮】〔官幣大社〕（二〇圖は4） 畝傍驛の南約二粁、大軌橿原神宮前下車、畝傍町にあり、皇祖神武天皇及び媛蹈鞴五十鈴媛皇后を祀る。この地は神武天皇橿原宮の宮居の舊址で、明治二十二年、明治天皇勅してこゝに神宮を創建し給ひ、翌二十三年三月廿日宮號を橿原神宮と定め、官幣大社に列せられた。境内三、六〇〇アール餘、外苑三、八三〇アール餘、規模宏大にして森嚴の氣に滿ちて居る。本殿は元の内侍所（溫明殿）、拜殿は元の神嘉殿であつたが、近年社殿を新らたに造營して舊拜殿は境内の入口に移し、神樂殿として使用して居る。本殿及舊拜殿は安政二年京都御所に於て造營されたもので今國寶になつて居る。例祭は二月十一日及び四月三日。

【畝傍考古館】 大軌橿原神宮前下車、驛構内にあり、鐵筋コンクリート校倉造の建築で、陳列品は主として大和國内諸地方から發掘された石器時代土器、石器、古墳發見各種の遺物、古瓦その他で、點數約二千、八木町の森田常治郎氏の蒐集品が大部分を占めて居る。

有料で一般に公開して居る。

【宣化天皇身狹桃花鳥坂上御陵】 大軌橿原神宮前の西南約一粁半、畝傍町鳥屋見三才にあり。阜上に在つて東北面した前方後圓墳で三段に築かれ、前後徑約一六〇米を有し、周濠の一部が南側に方形の池となつて遺つて居るが、これは寛永年間に外堤を毀ち、用水池を廣く掘穿つた際のものである。この西南半粁に崇神天皇皇子倭彦命の御墓あり、身狹桃花鳥坂墓と稱し、垂仁天皇二十八年崩じこゝに葬り奉つたが、日本書紀に殉死の傳説を載するものは即ちこの御墓である。

【新澤村一石器時代遺跡】 宣化天皇御陵の西方約一粁新澤村一の東常門、二の壺、前殿、田部臺等の諸區域に亙つて存する遺物包含地及び散布地で、多數各樣の彌生式土器と共に石鏃、石錐、石槍、石庖丁、石匙、石斧、石劒、石槌等から砥石、玉類その他の諸遺物を出土し、同地の小學校にも多數の蒐集品が保存されて居る。

【元藥師寺址】〔指定史蹟〕（二〇圖な4） 大軌橿原神宮前驛の東一粁、畝傍町木殿にある。天武天皇白鳳九年皇后御不豫のため勅して創建し給ふ所にかゝり、養老二年平城京に移建されるまで存したものである。東西兩塔及び金堂址最も明瞭に殘存して居る。金堂址の土壇には今淨土宗藥師寺の物堂、本堂、庫裡がある。舊金堂礎石は大部分前庭に露出遺存し、往時の壯觀を偲ばしめる。礎石は極めて良質の花崗岩を用ゐ、外側の礎石は自然石の表面に高さ約七糎の方形座を造り、内部の礎石には更に方形座に短い地覆座を附加した形のものである。この東南に東塔址あり、西塔址またこれと相對して居る。東塔址は土壇の中央に心礎あり、中央に直徑九四糎、深さ約一八糎の圓柱の孔の中央更に一段低くなりて、その中央に直徑三〇糎、深約二三糎の小孔あり、四天柱礎は外面に切缺を有するもので、また側柱礎は金堂礎石と等しく長約七〇糎の方形座に、幅約四二糎の地覆座を附加して居る。西塔址は土壇に心礎と思はれる中央に直徑約三九糎、高九糎の突起ある礎石が一箇遺存して居る。金堂土壇の附近には多數の古瓦破片の埋藏されたるのを發見した。瓦の文樣は頗る優雅な手法に成つて居る。丸瓦は中房浮出し、八個の複瓣蓮華は肉厚く珠紋を外緣に密に配して居る。花瓦は數種あり、忍冬紋から脱化した有節唐草紋を配し、上緣に珠紋、下緣に波狀紋を有するものは粟原、巨勢寺址等の古瓦にも見られる。

【孝元天皇劍池島上御陵】 大軌橿原神宮前の東約一粁半、畝傍町石川にある。劍池と呼ばれる池に三方圍まれた中山と呼ぶ丘陵の中央にあり、二個の墳丘相連なつて前方後圓墳の形態を存し、長徑約五五米あり、高さ前墳約二米半、後墳約三米ある。

【大官大寺址】〔指定史蹟〕（二〇圖な4） 大軌橿原神宮前の東三粁、飛鳥村小山にある。香久山の南方約一粁の水田中に金堂址、塔址の土壇畑地になつて遺存して居る。この寺は聖德太子が平群の熊凝に起された精舍に始まり、舒明天皇十一年、百濟の地に移して百濟大寺と稱し、天武天皇二年更にこの地に遷して大官大寺と稱せられ、飛鳥四大寺の一として結構壯大を極めたが、平

城奠都と共に再び奈良の地に遷され大安寺と改稱せられたものである。寺址の礎石は今大抵取去られたが、土壇址は何れも水田から約一米半の高さに桑畑となつて遺存し、道路畦畔に多數の瓦破片が散亂し居る。僅に殘存した金堂の礎石の一箇は、自然石の表面に徑約一米三三（四尺四寸）の圓柱座を造出し、また塔の心礎は圓柱座直徑約一米半を有して居て、出土の徑二四糎（七寸八分）の雄偉な丸瓦及雄健な唐草紋の花瓦と共に伽藍の規模の莊大であつたことをよく物語つて居る。この寺址から東南に奥山久米寺址ありて塔址の礎石を存し、多種の古瓦を出土した。西南に雷丘及豐浦寺址等がある。

【久米寺】（眞言宗御室派）（二〇圖は4）大軌久米寺下車、畝傍町久米にある。聖德太子の御弟來目皇子の創建と傳へ、弘法大師嘗て密經をこの寺に得て立志修學したと傳へ眞言宗最初の伽藍であると云ふ。境内廣く本堂に本尊藥師如來坐像を安置し、觀音堂には久米仙人坐像がある。また土壇を存し、自然石の礎石十數個その上に遺存し、上に寛政年中京都仁和寺から移した多寶塔が建つて居る。尚この他十三重石塔及び益田池碑等がある。

【丸山古墳】 大軌岡寺驛の東北半粁、畝傍町見瀨五條野にあり。見瀨部落の東丘上に見ゆる古墳で、内部に長さ二〇米餘の石槨あり、石棺二箇を藏し、曾て檜隈大内御陵に比定され、今御陵墓參考地である。

【菖蒲池古墳】（指定史蹟）（二〇圖な5）大軌岡寺驛の東約一粁、畝傍町五條野にあり。見瀨から岡に到る街道の北側丘陵にある小圓墳で、封土は著しく毀損せられ、南方に石槨の入口を開いて居る。羨道も玄室の前部も破壞せられ、内部に二箇の刳抜石棺が南北に竪に横はり何れも四注造屋根形の蓋があるが小棟は反を有し、その内面は全部乾漆を施したる表面を更に朱塗となし製作頗る精巧である。

【豐浦宮址】 大軌岡寺驛の東北約三粁、飛鳥村豐浦の邊であらうと云ひ、推古天皇御即位の始めから十一年間宮居の址である。小墾田宮に御遷宮の後、鄰に欽明天

皇十三年百濟から奉獻の佛像をこゝに移し、宮址を寺に施入し、豐浦寺となしたと云ひ、礎石が遺存して居る。飛鳥、高市の地方は豐浦宮以後約百餘年間、持統天皇の御代壯麗な藤原宮が大和三山の間に營まれるまで御歷代殆ど相ついで皇居を構へられた所で、藤原京に對し飛鳥京と呼んで居る。

【飛鳥大佛】 大軌岡寺の東北約三粁、飛鳥村飛鳥、安居院の本尊である。銅製丈六の坐像で、推古天皇の朝に造つて、元興寺に据ゑたものである。度々火災にかかりいたく損じて居るが、日本最初の丈六銅佛として名高い。

【川原寺（弘福寺）址】（指定史蹟）（二〇圖な5）大軌岡寺驛の東二粁、高市郡高市村川原現在弘福寺境内及その前面一帶にある。孝德天皇白雉四年には既に存在した有名な大寺で、飛鳥京に於いて三大寺の一に數へられ、藤原京に於る五大寺の一、平城京の十大寺の一になつて居た寺であつた。この寺の礎石は古來白瑪瑙の礎石として喧傳せられて居るが、實は岩質大理石（變質石灰岩）で、現今表面風化して黝灰色に變じ且つ火災のため削剝して居るが、土中に埋まつて居る部分は純白色で方形を呈し、伽藍創立當時の美觀を想見する事が出來る。現境内の本堂前面に最も多數にあつて二十四箇を算し、何れも方形の座上に圓柱座の彫出しあり、一方に地覆座を同高に附加した飛鳥地方の伽藍に普通見る所のものに屬して居る。堂宇の下及び前庭に存するものは恐らく金堂礎石で、この東南に十餘個遺存するものは塔址で土壇上にあり、古瓦破片を出土して居る。弘福寺西隣の光福寺の前面字馬場と呼ばれる個所にもその東方の水田の字トナミにも礎石群がある。また字ロウモンの水田中にあつた礎石は今現位置に存しない尚、字堂前にあつた二個の礎石は門址の礎石と推されるが、今、橘寺の境内に移された。寺址發見の巴瓦（疏瓦）は圖案手法圓熟し、中房に十五顆の房子を有し、八個の複瓣蓮華紋の周圍に珠紋を配し、或は鋸齒狀紋を配したもの等あり、花瓦は重線唐草の小形のもの及び中心に結びを有する唐草を中央に

配したもの等がある。

【酒船石】〔指定史蹟〕（二〇圖た）大軌岡寺驛の東二粁半高市村岡から飛鳥への途中の丘の上にある石造物で、扁平な花崗岩の表面にほゞ圓形の凹み大小數箇と、これを連接した數條の溝を彫れるもので、總長約五米、幅二米半、厚さ約一米、今その兩側を缺き全形を知ることが出來ないが、上代に酒の釀造に使用したものと傳へて居る。尙これより西南半粁を隔てた飛鳥川の沿岸の出水ケチンダにも、これと類似した石造物が曾て發見された。

【岡寺（龍蓋寺）】〔新義眞言宗豐山派〕（二〇圖た5）大軌岡寺驛の東約三粁、高市村岡にあり、途中まで自動車の便がある。天智天皇二年岡本宮を改めて寺となし義淵法師に賜うたのがこの寺で、法相宗に屬したが、近世再興して現宗となつた。西國第七番の札所である。本尊如意輪觀音坐像は高さ約一丈五尺塑造の巨像で、後補の部分も存するが奈良時代の遺作に屬し國寶である。

寶　物

一佛涅槃像〔國寶〕　木　造　一　軀
　高さ約五尺六寸あり、藤原時代の作で涅槃像の木彫として甚だ珍らしい遺品である。
一如意輪觀音半跏像〔國寶〕　銅　造　一　軀
　高さ一尺六寸、傳稽文首作、本尊如意輪觀音塑像の胎内にあつたものと云ふ。奈良帝室博物館出陳中である。
一義淵僧正坐像〔國寶〕　木　造　一　軀
一天人浮刻磚〔國寶〕　一　枚
　傳岡本宮腰瓦、以上二點奈良帝室博物館出陳

【石舞臺古墳】（二〇圖た5）大軌岡寺驛の東約三粁、多武峯街道の傍、高市小學校東南方の田圃中に存する。極めて巨大な花崗岩塊を用ゐた石槨が、封土を失ひ露出したもので、羨道部は地下に埋れ、唯入口の石材が露はれて居るが、玄室は長さ約八米、幅約三米、下底は土に埋もつて現在約三米の高さがある。地字島の庄と云ひ、島の大臣蘇我馬子桃原墓であらうと云ふ說がある。

【橘寺】〔天台宗〕（二〇圖な5）大軌橘寺驛の東約二粁高市郡高市村橘にあり、自動車の便がある。上宮院菩

提寺と稱し聖德太子の創建し給うた七箇寺の一である。この地もと用明天皇別宮の址と傳へ、聖德太子御誕生の靈地である。創建當時寺域宏大を極め、七堂伽藍屬坊等甍を並べたと云ふが、後、衰頽廢絕に及び、元治元年九月再興した。本尊は木造聖德太子坐像で、室町時代の精緻な技巧に成る優作で國寶に指定され、太子殿（本殿）に安置されて居る。

寶　物

一如意輪觀音坐像〔國寶〕　木　造　一　軀
　觀音堂安置の木尊で藤原時代の作に屬する。
一地藏菩薩立像〔國寶〕　木　造　一　軀
　觀音堂に安置され、平安初期の逸品である。
一鼉太鼓〔國寶〕　木　造　一　箇
　鎌倉時代初期の優作で觀音堂に安置されて居る。
一太子繪傳〔國寶〕　絹本著色　八　幅
　傳土佐光信筆、室町時代の作、奈良帝室博物館出陳。
一日羅立像〔國寶〕　木　造　一　軀
　平安初期の作奈良帝室博物館出陳

【弘福寺】〔新義眞言宗豐山派〕　橘寺の北にあたり、高市村川原にある。古の飛鳥河原で川原寺とも云ひ、創立の來由は充分明かでないが敏達天皇十三年の創始と傳へ、また齊明天皇元年更に造營があつたやうである。後衰微して今、本堂以下二三の建物を有する。寺寶の持國天多聞天立像二軀は木造、共に藤原時代の作で國寶に指定されて居る。

【お龜石】　橘寺より下平田に至る舊道の傍にある。一見龜形をなせる花崗岩質片麻岩の大石で、首を西に向ければ大和一面大海に變ずと古來傳へて居る。

【天武天皇、持統天皇檜隈大内御陵】（二〇圖な5）大軌橘寺驛の東約半粁、高市村野口にあり、王墓と稱し丘上に在る圓墳で徑約四九米、高さ約六米半、陵上樹木繁つて居るが、内部に壯麗なる横穴式御石室がある兩天皇御合葬の御陵で始め天武天皇朱鳥元年九月飛鳥淨御原宮に崩じ給うたので、持統天皇二年十一月にこの陵に葬り奉つたが、尋で大寶二年十二月、持統天皇藤原宮に崩じ給うたので翌年十二月飛鳥の岡に火葬し御骨をまたこの陵に藏め奉つた。

【中尾山古墳】〔指定史蹟〕（二〇圖な5） 大軌橘寺驛の東約半粁、阪合村平田中尾山の上にある。牽牛子塚の東になつて居る。圓形古墳で封土の高さ約四米、底徑約二〇米、頂上は發掘せられて石室を露出して居る。石室は花崗岩を磨いて加工した切石四枚を用ゐ、內法の大いさ幅九一糎、高さ八九糎、平滑に磨した表面に朱塗を施した精巧特異な構造である。恐らく火葬した遺骨を收藏した初期の火葬墳墓であらう。

【鬼厠、鬼俎】（二〇圖な5） 大軌橘寺驛の東半粁高市村野口にあり。厠と稱するものは路面より低く南側にあり、俎と呼ぶものは北側の一段高所に存して居るが、前者は横に口を有する石棺の蓋で、後者はその身の部分であつたのが、蓋の部分が下方に巔落したものである。今欽明天皇御陪塚附屬地となつて居る。

【欽明天皇檜隈坂合御陵】（二〇圖な5） 大軌橘寺驛の東半粁、阪合村平田にある。丘上に西面して築いた前方後圓墳で、陵上松樹密生し、周濠あり、陵は砂礫を以て頂部を厚く葺いてあつて、里俗石山とも呼ばれた。檜隈墓は、南西隅にあり、敏達天皇皇孫茅渟王の妃吉備姫王の御墓で里俗金鳥塚と云ひ、域內に猿石と稱する石像四軀が置かれて居るが、これは元祿十五年阪合村平田池田の田間から掘出したものである。

【文武天皇檜隈安古岡上御陵】（二〇圖な6） 大軌橘寺驛の東南約一粁、丘上にあり、圓墳である。

【牽牛子塚古墳】〔指定史蹟〕（二〇圖は6） 大軌橘寺驛の西半粁、阪合村越、塚前にある。御前塚とも呼ばれ越部落の西部の丘陵に造られたもので、封土圓形高さ約五米、徑約一三米、石室は一箇の巨大なる凝灰岩切石を刳り抜き、短かき羨道を入れば玄室で、內部は中壁を以て左右相等しき二室に別たれ、各々天井が穹窿形を呈し、底面には何れも長方形の棺座を造出し、その上より乾漆製棺の破片、七寶飾具、勾玉、小玉等と共に遺骨を發見した。入口の封鎖に用ゐた石扉の破片及びその外部を更に蔽うた巨大の蓋石が現場に遺存して居る。出土遺物は畝傍考古館に出陳してある。

尙、越には岩屋山古墳がある。文殊院西古墳に似た

石室のある古墳である。

【高取町】（二〇圖な7） 大軌壺阪山驛所在地。奈良盆地の南緣に位置し、植村氏四萬五千石の舊城下、名高い壺阪寺の所在地である、賣藥の製造が行はれる。人口約四千。

【子島寺（千壽院）】〔眞言宗高野派〕（二〇圖な6） 大軌壺阪山驛の東北半粁、高取町觀覺寺にある。天平寶字四年孝謙天皇の勅願によつて玄昉僧正の法弟報恩法印の創立にかゝり、その後長保年中住僧眞興一條天皇の御不豫を祈り驗があつたので、恩賞として賜はつたのが、今國寶に指定されて居る紫綾金銀泥繪の兩界曼荼羅圖二幅である。奈良帝室博物館に出陳中である。

【於美阿志神社石塔婆】〔國寶〕 大軌壺阪山驛の東北約一粁、阪合村檜前於美阿志神社東方の社のうちにある。十三層の塔婆であるが、今十層を存し、相輪及び上部二層を缺き、更に一層壞落して居る。岩質流紋岩質の凝灰岩で、初層軸部の方石に圓廓內に四佛の種子を平彫して居る。平安時代初期弘仁時代を降らない遺物である。尙、於美阿志神社は阿知使主を祭り、檜前氏の氏神であると云ひ、塔婆は氏寺と思はれる廢檜隈寺の塔址にあるが、この他に土壇、礎石等が遺つて居る。尙高市村稻淵龍福寺門內には天平勝寶三年の銘を有する竹野王碑と稱する古塔が存する。

【壺阪寺（南法華寺）】〔新義眞言宗豐山派〕（二〇圖な7） 大軌壺阪山驛の東南約四粁、高取町壺阪にある。大寶三年元興寺辨基上人の開基で、西國第六番の札所である。本堂は八角で千手觀音像を安置し、古來淨瑠璃の壺阪靈驗記を以て有名で澤市の杖と云ふものまで傳へて居る。境內に禮堂、阿彌陀堂、三重塔、因幡堂等あり東三〇〇米の所に五百羅漢石がある。

三重塔〔國寶〕三間三層塔婆、屋根本瓦葺、全體の權衡美しく室町時代の遺構であるが、修理の際奈良以前の形式を有する心礎石が發見された。

寶物

一一字金輪曼荼羅圖〔國寶〕絹本著色 一幅
一鳳凰磚〔國寶〕浮彫 一枚

以上二點奈良帝室博物館出陳

【高取城址】（二〇圖た7） 大軌壺阪山驛の東南約五粁、高取山の頂上にあり、山險によつて自然の城塞をなして居る。吉野朝時代、吉野方これに據つたが、天文中越智氏こゝに居り、天正年中豐臣秀長に歸伏した。慶長五年、德川氏この城を本多因幡守俊政に給したので舊城を修補し、寛永十七年植村出羽守家政これに代りて城主となり、爾後子孫相繼いで維新に至つた。文久三年には天誅組がこれを攻めたことがある。現在の遺址は主として植村氏所築のものに屬し、本丸その他の石壘がよく遺存して居る。

御陵所在地府縣別表

東京府	一
京都府	七〇
大阪府	一六
兵庫縣	一
奈良縣	三一
滋賀縣	一
山口縣	一
香川縣	一

王寺吉野口間

和歌山線は王寺から南下して吉野川の北岸に出で、流れに沿うて西進して和歌山に終る。王寺を出で下田六粁六 を經、櫻井線の接續點高田四粁九 を經、大和新庄三粁四 御所二粁七 を過ぎれば暫く東し壺阪三粁三 を通つて西南に折れ吉野口四粁 に着く。

【達磨寺】〔臨濟宗南禪寺派〕 驛の南一粁半、王寺村王寺にある。聖德太子の創始と傳へる。のち笠置の解脫上人が再興したと云ひ、嘉元三年興福寺衆徒堂宇を燒いたが、足利義持南峯和尚をして中興せしめた。達磨坐像を本尊として居るが、木造で高二尺八寸餘、形整ひ刀法流麗、光背に左の墨書銘がある。

永享二年庚戌四月奉
征夷大將軍源相公鈞命彫造至十月終功
左邊眉眼鼻口并兩手舊像不壞者也

佛工椿井法眼集慶
繕粧僧　周文
勸緣遠孫比丘　祖能謹誌

王寺吉野口間

即ち幕命により永享二年椿井法眼集慶の修作する所で、彩色は畫僧周文が施したことを知る興味深い遺作で、國寶に指定されて居る。

寶　物

一聖德太子坐像〔國寶〕木造　一軀
高さ二尺七寸餘、衣冠を着けた素朴な作で法隆寺聖靈院の本尊に似て居るが鎌倉時代末期作で胎内に左の朱書銘がある。
大佛師法橋院惠
作者法橋院道
建治三年十一月　日

一達磨寺中興記幢〔國寶〕石造　一基
本堂裏手に覆屋内にあり、高さ約六尺五寸、頂部に寶珠を有する笠石あり、足利將軍、南峯祖能に命じて伽藍を修築せしめた事を記念するため文安五年六月二十一日に建立したもので八角形の幢身各面に永享七年九月十六日南禪寺の惟肖得巖の撰にかゝる達磨寺中興記の長文を刻し、尙、祖能の七言四句の建幢偈を併せ刻して居る。

一佛涅槃圖〔國寶〕絹本著色　一幅
京都博物館出陳

【二上山】（二圖さ5） 下田驛の西南約三粁、大軌二上の

西南約四粁、大阪鐵道二上山の西南約二粁、河内、大和の境に聳えて居るトロイデで、南北の二峯に分れて一に二子山と呼ばれ、北のを雄岳、南のを雌岳と云ふ雌岳は海拔四百米で、雄岳はこれよりも稍々高い。全山讃岐岩から成り、火口は今認め難い。雄岳の頂上に葛木二上神社や天武天皇の皇子大津皇子の墓がある。山上からは淡路島が望まれる。山麓に於ける大和の二上、河内の磯長、駒ケ谷の諸村から金剛砂を産する。

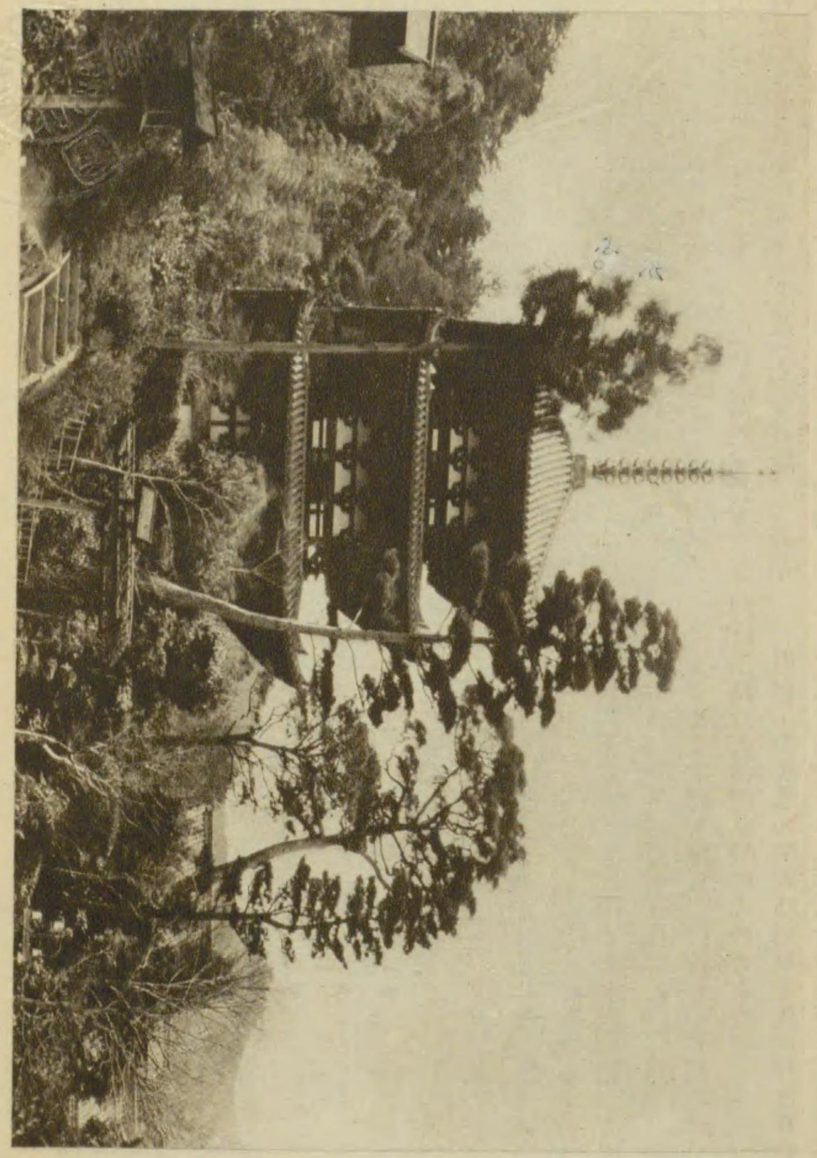
【屯鶴峯】　下田驛の西約三粁、大軌關屋の西約一粁、大阪鐵道二上山の西北約二粁、二上山の麓にあり。面積約一三ヘクタール、灰白色の水成岩が風化侵蝕されて奇景を呈し、遠望すると鶴が屯集して居る樣であるから、この名があると云ふ。一にドンシリボーと稱される。法隆寺の敷石はこゝから搬出されたとの傳へがある。

【常盤寺大日如來坐像】〔國寶〕　下田驛の南約一粁半、五位堂村良福寺常盤寺の本尊で木造である。尙、この寺の北にある阿日寺（誕生院）は慧信僧都の生誕地と傳へられるが、寺寶に絹本著色聖衆來迎圖一幅あり、鎌倉時代の作にかゝり國寶であるが、奈良帝室博物館に出陳中である。

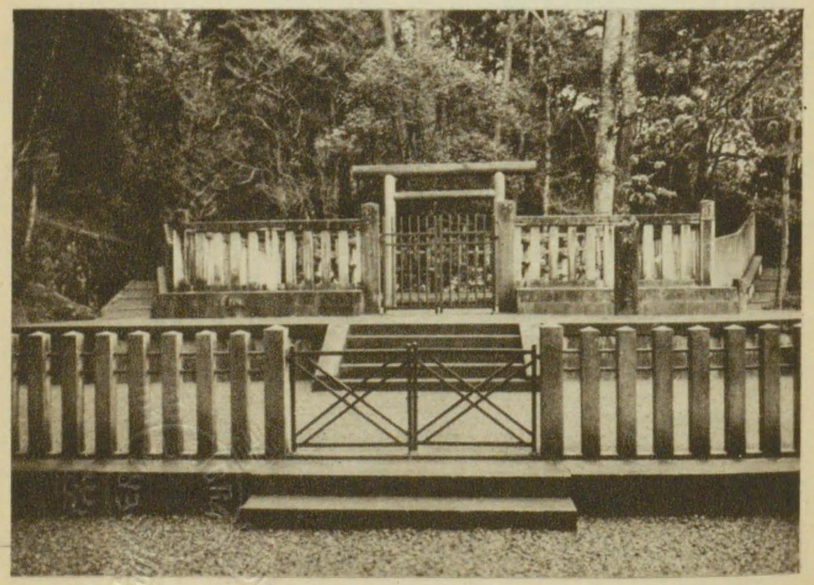
【當麻寺】〔眞言、淨土兩宗〕　下田驛の西南二粁、大阪鐵道當麻の西南約半粁、北葛城郡當麻村當麻二上山の麓にある。

當寺は推古天皇の御世に創建され、初めは山田郷にあつたが、白鳳二年、役行者練行の地と傳ふる今の地に移建され、はじめは禪林寺と呼び後當麻寺と稱した後右大臣藤原豐成の女こゝに入り、剃髮して法如と稱した。弘仁年間弘法大師本寺に參籠してより眞言宗を奉じ、後淨土宗の興起するやまたその敎旨を入れ、爾後今日に至るまで眞言淨土の兩宗に屬して居る。治承年間兵火に罹り、鎌倉時代になつて再興された。現存堂宇の多くは卽ち鎌倉時代のものであるが、東西兩塔は奈良時代移建當時のものである。

現存主要伽藍の配置は奈良時代に行はれた唐樣を傳へ、金堂は南面して建ち、その前方に三重塔婆が二基東

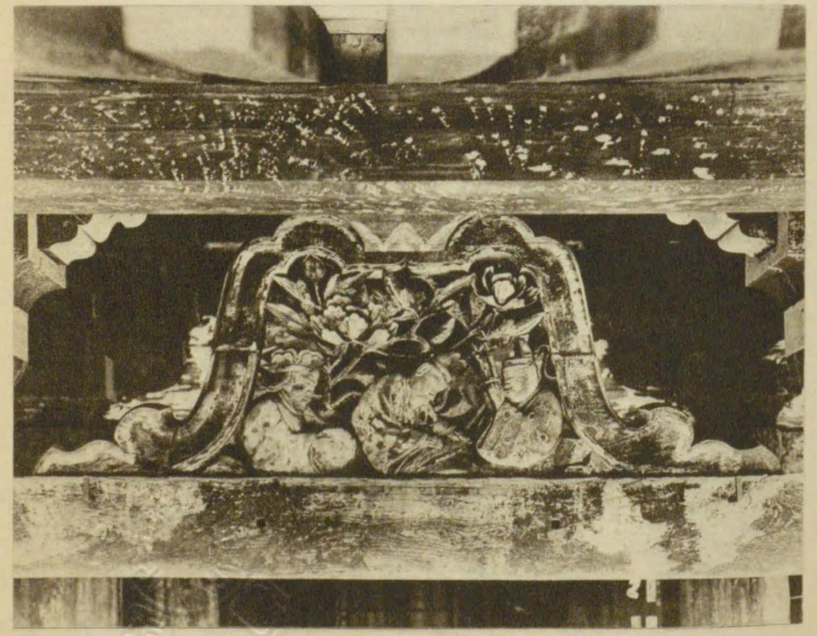


吉野神宮



後醍醐天皇御陵

藏王堂



藏王堂蟇股

西に相對して居る。また金堂の後方には講堂がある。現存の寺門は東方にあり、これを入ると金堂と講堂の東側に出で、その中間を西に突き當ると正面に有名な曼荼羅堂がある。金堂の東方には鐘樓がある。尙この外、藥師堂、法華堂、大師堂、糸操堂、經藏、寶藏などがあり、國寶に指定された古建築及佛像類を多數藏して居る。

東塔及西塔〔國寶〕金堂の前方小丘の上に相對して建つて居る。何れも三層塔婆にして高さ約八十尺、西塔は各層三間三面であるが、東塔は初層のみ三間三面中層及上層は二間二面になつて居る。屋根は本瓦葺、桝組は三手先を用ゐ、尾垂を加へ、雄大な樣式を現はした奈良時代の塔婆にして、東西相並んで遺存せる唯一の實例である。九輪の輪がどちらも八個であるのは珍らしい例である。尙兩塔心柱の覆板には彩畫が施されてあるが、それは次の平安時代に描かれたものであらう。

金堂〔國寶〕東西兩塔の後方にある。五間四面、單層、屋根入母屋造、本瓦葺、桝組は和樣二手先を用ゐた鎌倉時代の建築で棟木に正中三年の修理銘がある。內部は組入天井、虹梁その他の細部によく鎌倉時代の特徵を現はして居る。堂內には本尊彌勒菩薩、四天王像、吉祥天像、不動明王像、役行者等の諸像が安置されて居る。

彌勒菩薩坐像〔國寶〕金堂安置の本尊である。塑造で高さ七尺三寸。白鳳時代當寺が今の地に移建された當時のものにして、奈良朝塑像の最古のものに屬し、形相の雄大な點に於ては、藥師寺の金銅藥師三尊にも酷似せる所あり、またその大なる點に於て、塑像としては岡寺の彌勒菩薩像と共に現存遺品中最大なるものである。唯漆箔をはじめ、後補の多いのは遺憾である。

不動明王立像〔國寶〕金堂の前立本尊である。一木造、高さ五尺七寸、全面に損傷はあるが、藤原時代の作である。

四天王像〔國寶〕金堂に安置されて居る。三軀は乾漆造で、殘りの一軀多聞天像は木造である。何れも高さ

七尺餘あり、乾漆造の三軀は奈良時代初期の作で、その形式古風にして稍法隆寺四天王像に類し、兩足を揃へて直立せる正面像であり、多聞天像は鎌倉時代に補つたものである。

役行者及前鬼及後鬼像　金堂に安置されて居る。何れも一木造、室町時代の作である。

石燈籠　金堂の前にあり、高さ七尺、樣式古風にして奈良時代の作と稱し、雄大な趣がある。

講　堂〔國寶〕金堂の後方にあり、七間四面、屋根四注造、本瓦葺、內外構造極めて簡潔莊重にしてよく鎌倉時代の手法を發揮して居る。堂內には本尊阿彌陀像をはじめその他の佛像が安置されて居る。

阿彌陀如來坐像〔國寶〕講堂安置の本尊にして木造、漆箔、形相優美にして藤原末期の作である。

吉祥天立像〔國寶〕講堂安置の像で、一木造高さ三尺四寸、優美な彩色模樣があり、藤原初期の作である。

地藏菩薩立像〔國寶〕講堂安置の像で、寄木造、高さ八尺五寸、地藏像中大作の一にして、藤原末期の作である。

本　堂(曼荼羅堂)〔國寶〕境內西の奧にあり、遠く東門に面して建つて居る。寺傳によると、もと千手堂と云つたが、中將姫の曼荼羅が出來てから曼荼羅堂と稱したと云ふ。寺中最大の堂宇で、七間六面、屋根四注造本瓦葺、鎌倉時代寬元六年に再建された大建築である。四方に椽をめぐらし、內部は前面三間を外陣とし、殘りを內陣として居る。內陣佛壇は黑塗で壇の側面勾欄等には、螺鈿で寶相花模樣を現はしたもので、寬元元年の銘がある。また壇上の廚子はその扇に蓮華を蒔繪で現はした雄大なもので、仁治三年の銘文がある。ともに鎌倉時代の優秀な漆工藝術を徵すべき貴重な遺品である。廚子の扇ははづして、今奈良帝室博物館に出陳されて居る。

この廚子には彼の有名な中將姫の織つたと傳ふる原圖曼荼羅を、文龜年間に模寫した大曼荼羅がかゝつて居る。

淨土曼荼羅掛幅〔國寶〕曼荼羅堂の廚子にかゝつて居る大曼荼羅である。絹本著色、竪十二尺四寸、橫十二尺六寸あり、文龜年間に法橋慶舜、法橋專慶の二人に描かしめたもので、世に文龜曼荼羅と稱して居るが、その圖像は普通當麻曼荼羅と稱して、世に多く流布されて居るものと同樣である。その原圖曼荼羅は本寺に祕藏せるもので、中將姫が蓮絲を以て織成したものと傳へて有名であるが、損傷甚だしく圖樣の明瞭ならざる點も多いのである。然しその圖柄は當寺の文龜曼荼羅をはじめ當麻曼荼羅と稱するものと同一であることは容易に認められるのである。

今その圖相を見るに內外兩陣に區別され、向つて左緣の外陣には韋提希夫人歸佛の因緣を十二段に分けて描き、向つて右緣の外陣には彌陀の十六觀中の十三觀を、また下緣の外陣には他の三觀卽ち九品往生の相を描いて居る。次に內陣の圖相は願力所成の極樂淨土の有樣を描いて居る。卽ちその圖は前面に蓮池を現はし池中には舞臺があり、その上で菩薩が舞踏を演じ、その左右兩側には佛及菩薩の集會が描かれ、中央の寶座には多數の菩薩にかこまれた阿彌陀三尊佛が描かれて居る。その後方には多くの樓閣があり、更にその上部には雲上の寶塔、飛天及樂器の飛行せる有樣が描かれて居る。さて外陣の圖は主として觀無量壽經の所說によつて描かれ、內陣の圖は阿彌陀經をはじめ、善導大師の著述にかゝる觀經疏などに記述された極樂淨土の記事によつて描かれたものと考へられる。而してその人物及建築物の描寫は全く支那風のものである。

尙本堂內には平安時代の木造十一面觀音像〔國寶〕、中將姫法如の木像及延德二年の願文ある金鼓がある。

奧　院　應安三年誓阿上人の建立にかゝり、圓光大師像を本尊として安置して居る。この像は寄木造著色當院造立當時のもので國寶に指定されて居る。この外本堂には觀音、增長天、多聞天及地藏菩薩の像があり何れも藤原時代の作である。

寶　物

一銅　鐘〔國寶〕　二口

一個は鐘樓にかゝつて居る。高さ四尺三寸、口徑二尺八寸五

分、奈良朝時代の作。

一阿彌陀如來坐像〔國寶〕　一軀

木造、紅玻璃彌陀と傳へ平安朝の作である。

一法然上人行狀繪卷〔國寶〕　四十八卷

紙本著色、傳土佐吉光畫、奥院藏、うち十二卷は奈良帝室博物館出陳。

左記寶物は奈良帝室博物館に出陳

一當麻曼荼羅緣起〔國寶〕　二幅

絹本著色、室町時代

一妙幢菩薩立像〔國寶〕　一軀

木造著色、平安時代

一三尊佛像〔國寶〕押出銅造　一面　奥院藏

一螺鈿唐草合子〔國寶〕　一口　奥院藏

一倶利伽羅龍蒔繪筥〔國寶〕　一口　奥院藏

東京帝室博物館出陳

【西南院十一面觀音立像】〔國寶〕當麻寺境内の西塔附近にある塔中西南院の本尊である、寺寶の千手觀音立像、聖觀音立像と共に何れも欅材の一木彫で、千手觀音像の如きは眞手の臂迄も同木で彫出してある。何れも平安初期の作で、聖觀音立像は奈良帝室博物館に出陳。他は當麻寺の講堂に移座されて居る。

【高雄寺藥師如來坐像】〔國寶〕下田驛の南一粁半、當麻村新在家にある高雄寺藥師堂安置の本尊で木造、觀音堂安置の國寶木造聖觀音立像と共に平安初期の一木造の彫像で、後者は奈良帝室博物館に出陳中である。

【高田町】（二〇圖やろ）高田驛所在地。奈良盆地の西南部に位し、和歌山線、櫻井線の外、大軌及大阪鐵道の便をも有する交通の要地で、綿織物を產し、青物、鮮魚等を集散し、奈良縣第三の都會である。人口約一萬五千。

【不動院本堂】〔國寶〕高田驛の南四〇〇米、高田町高田にある。桁行五間、梁間四間、單層、屋根四注造、本瓦葺で、棟木銘により文明十五年の建立である事を知り得るもので、室町時代の遺構である。

【西光院地藏菩薩立像】〔國寶〕高田驛の西四粁、磐城村竹内西光院の寺寶で木造、平安初期の作である。

【巢山古墳】〔指定史蹟〕高田驛の北約四粁、馬見村三吉にある。馬見山と云ふ丘陵の東麓に北面した大形の前方後圓墳で、環濠が水を湛へて完全に遺存するのが著しい。封土の全長二〇〇米餘、高さ前方部約二〇米、後圓部同約二五米、前方と後圓との接續部兩側に造出しあり、封土三段に築かれ、葺石あり、全墳竹林を以て被はれて居る。後圓部の頂上に割石を以て築かれた石槨が二個存し、共に破壞されて入口その他が露出し、また前方部の頂上にも小石槨の存した痕跡を止めて居るこれ等の石槨から發掘された大勾玉、小形勾玉、管玉石製刀子、鍬形石、車輪石、石釧等の遺物は宮内省に收藏されて居る。馬見山丘陵は特に大形前方後圓墳の群集地で、巢山古墳の西方丘陵の中央に位する佐味田寶塚（黄金山）古墳は豐富な漢式鏡を出土したのを以て普く世に知られ、附近に小圓墳が群集する。また巢山古墳の南にあつて御陵墓參考地である新木山古墳は封土に埴輪が樹立して居る。これより南約二粁には新山古墳（御陵墓參考地）があり、曾て多數の漢式鏡を出土した。これより南方鐵道線路に近く築山古墳（御陵墓參考地）があつて環濠を存し、南側に七個の小古墳がある。この他石室を開口した圓墳、家形石棺等が諸所に存して居る。

【百濟寺】〔眞言宗高野派〕（二〇圖まー）高田驛の北四粁、大軌松塚の北三粁、百濟村百濟にある。舒明天皇十一年、聖德太子の遺願によつて熊凝精舍をこゝに移し、規模を大にし、百濟大寺と名付け給うた。天智天皇これを移して高市大寺を興し給ふに及び荒廢し、弘仁中空海中興したが後數度の火災にあひて衰微した。江戸時代に及び延寶年間に修補再興した。三重塔は三間三層塔婆、屋根本瓦葺、鎌倉時代の建築で國寶に成つて居るが、九輪は延寶の改鑄にかゝる。

【瑞花院本堂】〔國寶〕高田驛の東北四粁、大軌眞菅の北一粁半、平野村飯高西垣外にある。桁行五間、梁間五間、單層、屋根四注造、本瓦葺で、嘉吉三年卯月上棟大工藤原時家云云の棟木銘があり、屋上鳥衾に嘉吉元年の銘が存し、構造樣式これとよく一致して居る。

【置恩寺十一面觀音立像】〔國寶〕大和新庄驛の西三粁、新庄町寺口にある置恩寺（藥師寺）の觀音堂に安置せられる本尊で、木造である。

【御所町】（二〇圖や6）御所驛所在地、葛城川の上流に跨り、大和絣及賣藥を產する。人口約六千。

【大和絣】大和絣は寶曆年間御所町の淺田氏が創製したものである。現今南葛城、北葛城、高市、磯城の四郡卽ち中和地方に產し、概ね地方農家の副業として婦女子がその製造に從事し、手織である。近時足踏織機を購入して、能率の增進に努めて居る。製品の九割は白絣が占める。

【一言主神社】〔縣社〕御所驛の西南約四粁、吐田鄕村森脇にある。葛城坐一言主命神社と稱し、もと葛木山頂にあり、式內の古社であるが、今は山麓の現地に鎭座し、一言主命、幼武尊（雄略天皇）を祀り、吉凶一事は必ず祈願の靈驗ありと云ひ、衆庶の參拜するものが多い。境內幽邃で古雅の趣がある。

【宮山古墳】〔指定史蹟〕御所驛の南約四粁、秋津村室にある。室の大墓と云ひ、松樹や雜木が繁茂して居る。丘陵に築造した前方後圓墳で、封土二段、長軸二〇〇米前方部の高さ二〇米、後圓部は高さ二五米で、葺石があり埴輪圓筒がある。環濠は貯水池となり、東北麓及南麓に遺つて居る。後圓部の頂上に長さ約二米半、扁平で兩端に各々二箇の繩掛凸起を有する石槨の蓋石と思はれるものが露出して居る。前方部からは曾て古鏡の破片と各種の玉類、石製刀子、木片等を發見した。

尙こゝから西方二粁、吐田鄕村名柄から銅鐸が多鈕細線文鏡と共に出土して學界に知られた。

【葛城御歲神社】御所驛の南約五粁、葛城村東持田御歲山にある。式內の名神大社で大年神、御年神及び高照光姫命を祀つて居るが、御歲神は五穀を掌る神で、農家の參拜するものが多い。

吉野口驛　奈良縣南葛城郡葛村古瀨

▽大阪電氣軌道　吉野口、吉野間一五粁七

【豆勢寺塔址】〔指定史蹟〕吉野口下車、葛村古瀨、鐵道線路の傍にある。天武天皇朱鳥元年紀に見える豆勢寺の址であると傳へられ、塔址の土壇及礎石あり、土壇の大いさ約一五米四方で、高さ二米、上に今大日堂がある礎石は四個の圓柱座を有する花崗岩の舊礎石を利用したもので、その心礎は大日堂の西にあり、片狀花崗岩で約二米四方の方形を呈し深一二糎、徑八八糎の圓柱孔を中央に有し、孔底の中央に深約六糎、底徑一三糎の孔あり、この孔の周圍を繞つて三重の同心圓の淺い細溝を彫り、また更にこれ等を貫いて外方へ導いた放射狀小溝を穿つて居る複雜で特異な樣式のものである。土壇上には小石佛、古瓦片等散亂し、またこの南二〇米に土壘の殘つたものが存する。疏瓦（巴瓦）は外緣に珠紋帶及び波狀紋帶を二重に繞らした複瓣蓮華紋の手法頗る進步したものに屬する。花瓦は中央に忍冬文の唐草を配したもので、平城宮址、粟原寺址等より出土の古瓦に類似のものがある。

【今木雙墓】驛の西南一粁半、葛村水泥の丘陵上に約七三米を距てゝ相並んだ大小二基の圓墳がある。共に石室を有し、小古墳の石室內には二個の石棺が存し、入口にある方の石棺の蓋石にある繩掛突起には蓮花紋が刻してある。里俗蘇我蝦夷、入鹿父子の雙墓と稱して居る。

【鳳閣寺廟塔】〔國寶〕大軌下市口驛の東南一二粁、黑瀧村鳥住にある。吉野群山の西南、大峯山の山續き、百貝山頂にあり、日本總袈裟頭で修驗宗の根本と云ひ、寬平七年聖寶（理源大師）の開基にかゝり、眞言極秘惠印灌頂の道場であつた。天慶年間には日藏上人も一萬都率塔を建てたと云ふ。廟塔は寺後の山上、だけ山にあり、延喜九年聖寶入寂後、高足觀賢、眞崇、大師の遺骸をこゝに葬つたとも、また聖寶の母の墓とも云ふが詳かでない。現存の廟塔は石築の寶塔で、三重の臺座の最下段は複瓣蓮華紋を、その上段は正面に龜の頭と前肢一對とを各々浮彫し、その左右兩側及後面は底部若干の膨みをもち、格狹間を作り、うちに左の銘文がある。

鳳閣寺尊師□□廟塔正平二十四年己酉十月二十□日勸修□□大工薩摩權守行長奉獻□□一萬八千二十三人

蓋し正平二十四年の建立で、最上の臺座に單瓣蓮華を刻し、その上に方形の石笠を載せ、最頂露盤、伏鉢丸輪、葉座、寶珠を丸彫した相輪を冠し、權衡美しく姿態優雅で、室町時代初期の寶塔として珍らしきものである。

【丹生川上神社下社】〔官幣大社〕 大軌下市口驛の南約一二粁、丹生川の上流、丹生村長谷にあり、自動車の便がある。祭神闇龗神で、白鳳四年の創建と傳へ三社中最も早く、明治四年に官幣大社に列せられた。祭日は六月一日である。

【おほやまれんげ自生地】〔指定天然記念物〕 大軌下市口から約二八粁、天川村北角字峯中にあり。この木は本邦の他地方では通例孤立して存在するが、こゝではたけかんば、こはうちかへで、うらじろかんば、しらべ等の樹下に群生して居る。

【佛經ケ岳原始林】 大軌下市口から約三二粁、上北山村、天川村にあり。佛經ケ岳は吉野連山の中央に位し古生層より成つて海拔一、九二五米、千古斧鉞の入らざる原生林を以て覆はれて居る。山麓から九〇〇米の邊までは橡帶に屬し、九〇〇米乃至一、三〇〇米邊まで栗帶、一、三〇〇米以上一、五〇〇米邊まではぶな帶、一、五〇〇米からたうひ、一、六〇〇米邊からしらべの生育を見る。松柏科のしらべたうひ、こめつがひのき、ごえふまつ等が分布し、ぶな帶にありてもうらじろもみ、つがすぎの外、かうやまき、かやの二種を存する。おほやまれんげ、みやまもみぢ、いちこおほばめぎ、やはずあぢさゐ、うかばの諸種もある。

【比曾寺址】〔指定史蹟〕 大軌六田驛の北一粁、大淀町比曾の周圍山を繞らした南面せる丘陵の上、現在世尊寺の境内地にある。寺傳に用明天皇二年聖德太子の創建にかゝると云ひ、別名吉野寺と唱へ、また現光寺とも稱した。寺址は金堂及び講堂址の礎石、東西兩塔址の各々土壇、礎石を存し、礎石、遺瓦の上よりみて奈良時代に屬するものである。礎石は小形であるが工作は精巧、低い圓柱座に地覆座を加へた形式のもので、また東塔の心礎は表面に方約五八糎の方形の淺い彫込みを造つた中央に徑約二二糎、深一一糎の椀形の孔を有する特殊な形式のものに屬し、西塔址の心礎は長方形で中央圓孔を穿つたものである。西塔心礎の上には石塔が一基建つて居るが、もとの東塔であつた室町時代初期の三重塔は大津市三井寺に移築せられ、今國寶になつて居る。

【妹山樹叢】〔指定天然記念物〕 大軌大和上市の東約一粁半龍門村河原屋字妹山に屬し、山は吉野川の北岸に屹立して海拔二九〇米である。古來山麓大名持神社の社叢として伐採を禁止され、滿山樹林欝蒼として繁り、天臺烏藥その他暖地性植物を產し、殊に山頂に於けるつるまんりやうの純群落、山腹に於けるるりみのきの純群落の如きは稀に見る所である。

【美吉野運動場】 大軌吉野神宮下車、吉野川の中洲にあり、競技場は一萬人を收容し得る觀覽席を備へて居る。その他野球場、庭球コート、相撲場、籠球場、クラブハウス、合宿所等の設もある。

【吉野山】〔指定史蹟、名勝〕(二一圖) 吉野山は吉野群山の最北端大峰山脈の一支脈で、北方吉野川畔から起り、南方青根峰まで峰脊一〇粁餘の尾根の稱である。山上は峰に沿うて道路開け、兩側に旅館料亭、土產物店が立並んで街衢をなし、人口二千有餘の吉野町を形成して居る。大軌電車は吉野川を渡ると、間も無く吉野神宮驛を過ぎて、漸く上り勾配を走り、終點吉野驛まで通じて居る。こゝから吉野山驛まで架空索道の便がありこの驛から南方への平坦に近い道路の左右に藏王堂、吉水神社、竹林院その他の社寺、史蹟があり、普通右の交通順路によつて見物する人が多い。大軌六田驛下車、徒步または自動車による人は、往時の柳の渡の箇所に吉野川に架する美芳野橋を渡り、六田部落を過ぎて綠山の中腹に沿うて勾配緩かな大道を南進するのである。外に六田部落から一の坂を經て吉野神宮前に出る舊道があり、それによると吉野神宮、村上義光墓等の前を過ぎて太閤橋を渡りて吉野山驛に達する。

吉野山は櫻花の名所として、また吉野朝廷の皇居址として、廣く人口に膾炙されて居るが、上、中、下の

一目千本の間に介在して、南朝の史蹟の外に一時天下に一大勢力を揮うた修驗道の根據地として、今にその俤を偲ぶ伽藍僧坊が點綴されて居る。

吉野山繁榮の濫觴は、金峰山が役行者を開祖として修驗道者經行の根本道場となり、藏王權現を山上に祀つてから、山下の吉野にまた藏王堂の造立を見、金峰山寺の起つたのに始まり、平安時代に入りて聖寶僧正、日藏上人により山上は隆盛を極め、皇室の崇信あつく、寛弘四年藤原道長の登山あり、公卿、國司の奉賽等頻りに行はれ、山下の吉野山もこれに伴つて盛大となり、堂塔甍を並べ僧坊軒を接するに至つた。鎌倉時代には源義經の入山あり、元弘亂に際し護良親王この山に入り、藏王堂を本據とせられたが、同三年北條軍の來攻にあひて、衆徒よく王事に盡したれど、遂に敗れて親王は熊野に落ち給うた。延元元年後醍醐天皇の行事あり、こゝを皇居となし給うて以來、後村上天皇が正平三年に賊を避けて賀名生に移り給うた迄、吉野朝の本據地であつた。室町時代の吉野山は尙隆昌を保ち、康正年間藏王堂の再建があつたが、降りて天正七年、櫻樹一萬本を寄進した者あり、文祿三年豐臣秀吉大規模な觀櫻の宴をこゝで催した。次いで慶長九年秀頼の子守水分神社の再建その他堂舍の修補等があつたが、同十九年德川家康天海僧正に命じて金峰山寺の寺務の金輪王寺を實城寺と改め、寺號を日光に移し金峯山寺一山を擧げて日光輪王寺の支配下に置いた。これより寺運衰退に傾き、吉野朝廷の遺蹟も荒るゝにまかせて訪ふ者も少なかつた。それでも西行、山陽、宣長、益軒、芭蕉、蕪村その他の文人墨客はよくこゝに遊んで、數多の吉野懷古の詩歌文章を殘した。かくて明治維新後は塔尾御陵始め赤心純忠の士の墳墓も修復され、昔ながら來る春毎に滿山を粧ふ櫻花と、幾多の南朝史蹟とは觀光者を惹き附けて居る。

旅館　辰巳屋、さこや、芳雲館、櫻花壇。

【吉野山の櫻】　吉野山の櫻は役行者が藏王權現の尊像を櫻の木に刻んだことから神聖視し、參詣者が神木として獻木する習はしから、遂に日本第一の櫻の名所となつたのだと云ふ。櫻はいづれも同山中に自生せる山櫻と同一系統に屬し、ながき年代を經て今日尙名聲を落さゞるは一に櫻樹の補植繼植を怠らなかつた結果で、古來の繼植中最名高いのは、天正七年に大阪平野の郷士末吉勘兵衞が一萬本を寄附したことで、文祿三年にはこゝで豐太閤大觀櫻の擧があつた。

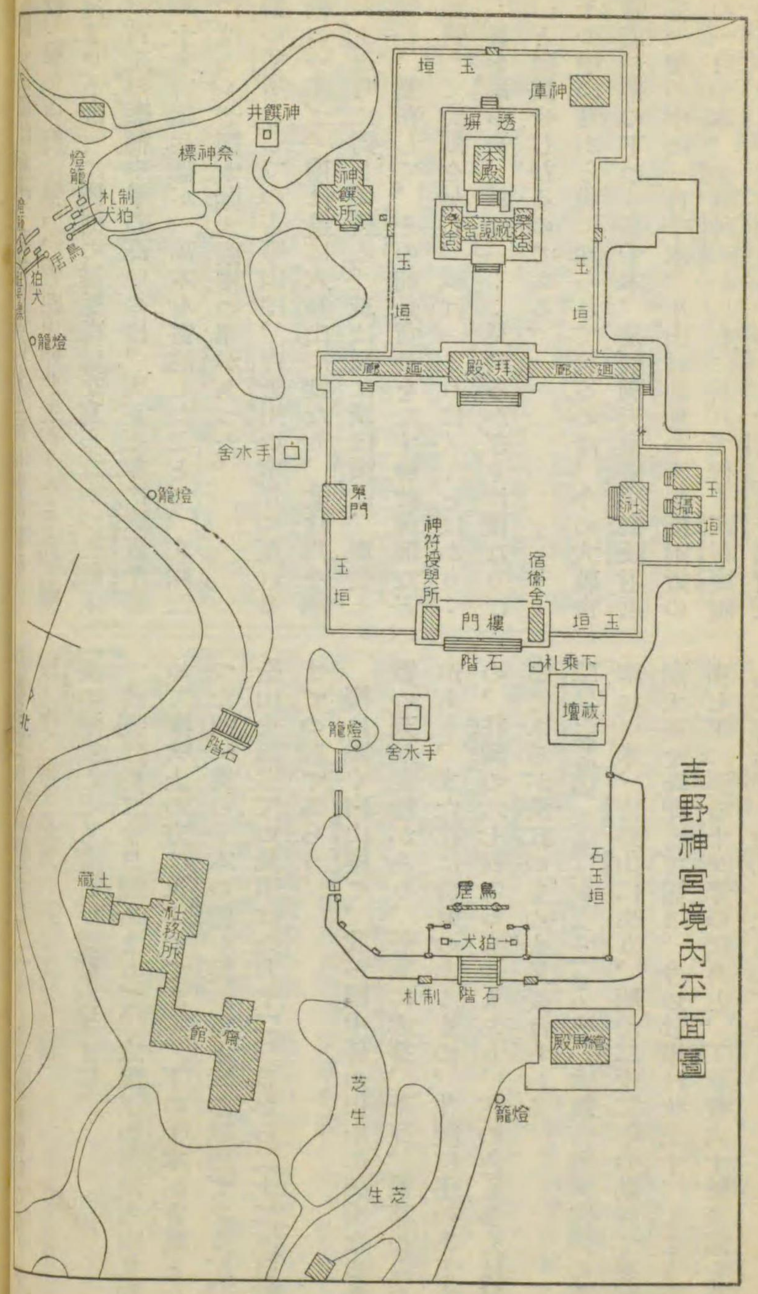
櫻の名所としての吉野山は、吉野川の南岸に亙れる山脈の一部で、南は遙に大峰山に連なり、北は川を隔てゝ上市町に對して居る。或は嶺に或は溪に、群生し散生し、點在して、その前景背景をなす神社佛閣などと照映して美觀を呈し、或は「これは〳〵とばかり……」目を刮らせ、或は「……見ゆるかぎりは櫻なりけり」と歎賞せしむるのである。

その中に昔から世に知られて居るのは、今の大軌吉野驛前一帶の下の一目千本、後醍醐天皇塔尾御陵附近溪谷一帶の中の一目千本、小山神社前の天皇橋附近の上の一目千本、金峰神社から右に折れて行く西行庵附近の奥の一目千本を主なるものとし、村上義光墓附近の長峰の櫻、吉野神宮境内の歌塚の櫻、大橋附近の關屋の櫻、藏王堂及吉野皇居址の櫻、花矢倉から左方の溪の瀧櫻なども美しい景觀を現ずる。

花期は約二十日間あまりで、大體下の方から咲き初めて漸次上の方に及ぶのである。下の千本が青葉となつた頃に奥の千本の蕾が綻ぶると云ふ狀態であるが、全山を通じての見頃は四月十二三日から二十二三日頃までの間であらう。

櫻は悉く白山櫻で、我が國中部の山中に固有なる多數の天然變種があり、若葉に赤芽、茶芽、黄芽のものがあり、また花に香氣のあるもの、花梗に毛のあるもの、花瓣の六七枚あるものもあり、花の色も多くは純白であるが淡紅のものも見受けられる。

【吉野神宮】〔官幣大社〕（二一圖なる）　大軌吉野神宮驛の西南三〇〇米、吉野山にあり、明治二十二年の創建で後醍醐天皇を奉祀して居る。今の社殿は大正十二年より昭和七年に至る十ケ年の歲月と、工事費六十餘萬圓を費して御造營を竣功したものである。



社殿の位置は金剛、葛城の連山を正面右手に望み、景勝の地を占め、境内の總面積約八〇〇アールある。社殿の結構は本殿、祝詞舍、樂舍、拜殿、神門、齋館、神饌所、繪馬殿、手水舍等を具備し、全部臺檜の素木造である。

本殿は三間社流造、屋根檜皮葺、祝詞舍は正面五間、圓柱吹き放ちで、その左右には切妻造の樂舍が對稱して繫り、屋根は檜皮葺で本殿の向拜と渡舍を以て連續して居る。拜殿は正面五間、入母屋造、屋根檜皮葺で左右廻廊を以て連結し、本殿との間は左右玉垣を以て區劃されて居る。

【村上義光墓】（二一圖た4）大軌吉野驛の西約三〇〇米、道の傍、松檜の茂る丘上に建つて居る寶篋印塔である。義光は護良親王の從士で、元弘三年親王敗軍の際、藏王堂に於て親王の身代りとなり自刄した忠烈の士である。傍に天明三年十月内藤景文の建立にかゝる忠烈之碑がある。

【御野立所】義光墓の南約二〇〇米、明治二十三年四月昭憲皇太后の御野立所である。この邊櫻樹頗る多く下の千本と稱する。

【大橋】ケーブル吉野山驛の近くにあり、一の橋とも云ひ、擬寶珠に秀頼建立の銘がある。慶長九年、吉野水分神社々殿再興の際の改築にかゝるものである。

【黑門】ケーブル吉野山驛の南にある。金峰山寺の總門で、往時は大名の下乘した門であるが、今は簡單な構造である。

【銅鳥居】黑門より約一〇〇米、急阪を上ると道の東側にある。高さ二丈五尺、奈良の大佛の餘銅を以て鑄造したと傳へ、また醍醐天皇昌泰元年の御建立とも傳へられるが、山上の發心門として敬重せられる。附近に藤尾坂あり、靜がこゝで、義經と別れて降つた所と傳へて居る。

【金峰山寺】〔天台宗〕銅鳥居から三〇〇米にある。

當寺は吉野山の中樞、景勝の地を占め、役小角の創建と傳へ、古來修驗道の本山として名高く、山上（大峰）、山下（吉野山）に存在する寺院を總稱して金

峰山寺と稱した。中古以來上下の信仰をあつめ、僧院僧徒多く、その威望と實力は侮るべからざるものがあり、吉野大衆と稱され、保元年間には高野山と屢々その所領を爭つたことがある。延元の亂には後醍醐天皇寺中に行宮を置き給ひしも、正平三年高師泰、師直のため寺は行宮とともに燒かれ、その後康正元年漸く再興された。現存の本堂（藏王堂）及仁王門は卽ち當時再建にかゝるものである。

仁王門〔國寶〕三間一戸の樓門、屋根は入母屋造、本瓦葺、朱塗、康正二年の再建である。室町時代の建築であるが、木割雄大にして頗る大規模な風格を存して居る。

本堂（藏王堂）康正元年の建築で、天正年間に豐臣秀吉の修理を經、最近大修繕成り、吉野山上景勝の地に堂々たる建築美を誇つて居る。七間八面、重層、屋根入母屋造、檜皮葺で、上層には双斗を組み、高欄付の廻椽をめぐらし、下層の暮股には極彩色を施した人物花卉の精巧な彫刻を嵌裝して、上下ともに雄大な構造美と裝飾美を發揮して居る。正面一間通り柱間を吹き放ちとなし、その雄大な圓柱は柱列の美觀を呈して居る。

内部は内外兩陣に區別され、外陣中央の柱は特に巨大にして人目をひくものがある、内陣の柱は黑塗であるが、二本の來迎柱は金箔押になつて居る。後壁須彌壇の厨子内には高さ二丈六尺の本尊藏王權現像が安置されて居る。

寶　物　本堂奥の一間通りに陳列されて居る。

一童子立像〔國寶〕　二軀

木造、高約三尺五寸、水干樣の衣服を着けた姿を現はした鎌倉時代の作である。康正二年丙午年大勸進定善金峯山二王堂と陰刻されて居る。

一笈〔國寶〕　一個

前面を飾れる鍍金の薄板には蓬萊山、舞鳳、松梅、菊花、蓮池等の彫形を施した室町時代の作である。

一經函〔國寶〕　二個

金銅製、藤原時代の作で形狀頗る優美である。

一燈籠〔國寶〕　一基

書銅製、高さ約九尺、形態美はしく本堂の前面に建つて居る

銘文

奉造立燈鑪

奉寄進御油田　七反

文明三年辛卯九月十一日

施主淨祐

妙久禪尼

和州下田住

大工左衞門助

【吉野朝皇居址】金峰山寺仁王門を入らず、右折したところにあり、同寺本堂の西約一〇〇米にある。金峰山寺の寺務であつた金輪王寺（實城寺）の址である。延元元年十二月、後醍醐天皇、この地に遷幸あり、始め吉水院に在はしたが、次いでこゝに移り給ひ、同四年八月崩じ給うた。後村上天皇踐祚し給ひこゝに在しましたが、正平三年賊兵亂入するに及び賀名生に遷り給うた。寺は廢絶して、石柵を繞らした裡に吉野朝宮址の碑が建つて居る。

王寺吉野口間

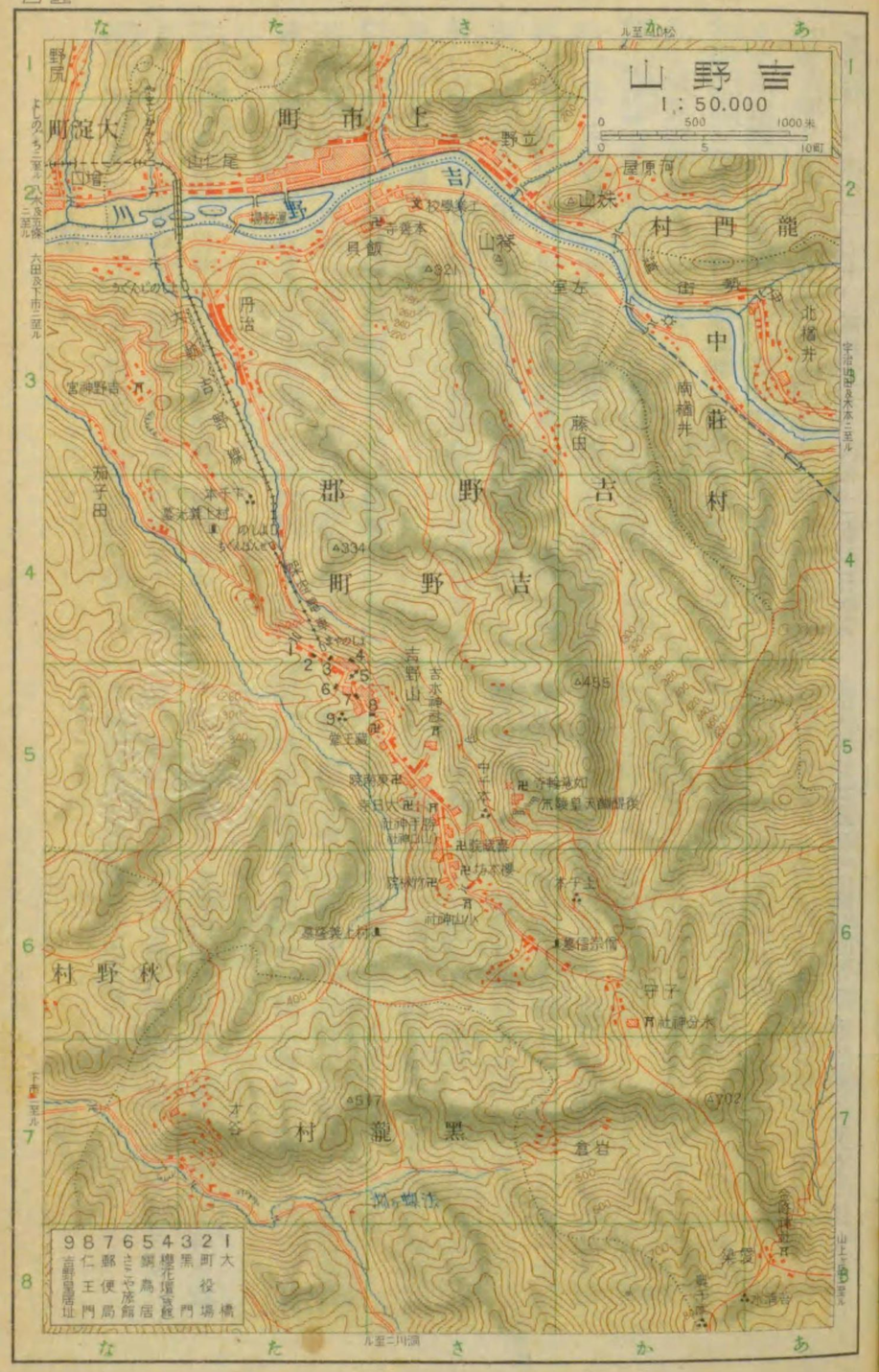
【吉水神社】〔縣社〕（二一圖さ5）藏王堂の東約半粁にある。役行者の庵室の舊址に營む所と傳へ、もと吉水院と稱し、金峰山寺供僧房の一であつた。延元元年、後醍醐天皇こゝに居給うたことがある。明治八年寺を改めて吉水神社と稱し、後醍醐天皇、楠正成、吉水院宗信を祭神とした。書院〔國寶〕は今、社務所となつて居る。單層、屋根入母屋造、檜皮葺、背面に小入母屋を突出し、側面に大唐破風の玄關を附加した複雜な構造である。正面四十八尺四寸二分、側面九十八尺二寸八分、義經の間と呼ぶ室と、後醍醐天皇の玉座の間と稱する室があるが、前者は室町時代初期の遺構に屬し後者は桃山時代の增築にかゝるもので、共によく時代の特徵を發揮し、書院造の樣式を見る可き好資料である。門の傍に吉水院宗信廟がある。

寶　物

一色々威腹卷〔國寶〕　傳義經所用　一領

一御願文〔國寶〕　紙木墨書　一卷

傳後醍醐天皇宸翰　奈良帝室博物館出陳



王寺吉野口間

【吉野温泉】 吉水神社の前を右に折れて泉湯谷に下りた所にある。含鐵炭酸泉で加熱して居る。貧血症、神經痛、婦人病などに効くと云ふ。旅館小川旅館。

【如意輪寺】〔浄土宗〕（二一圖さ5） 吉水神社の東南約一粁半、吉野町吉野山塔尾にある。延喜年間日藏上人の開基と傳ふ。正平二年十二月、楠木正行四條畷に赴くに先ち將卒の名を過去帳に記し、堂扉に辭世の和歌を刻した事は廣く世に傳へられて居る。境内に後醍醐天皇御靈殿、至情塚、髻塚等も存する。

寶物

一藏王權現立像〔國寶〕木造　一軀

極彩色、金鋼金物の精巧を極めた作で、高二尺八寸あり厨子に納められて居る。厨子は高さ約五尺四寸、黑漆塗で底板外側に左の墨書銘がある。

延元元年正月十六日　拜領　吉野山　八ケ院　地下

像も亦延元元年の作たるや明である。

【後醍醐天皇塔尾御陵】 如意輪寺の後山にある。圓墳で北面し、徑約二七米、高約五米、内外二重の石柵あり、墳基に繞らされた八角形の石柵は元祿修陵以前のものと云ひ、石門は元治の修補の際のものである。外方の石柵は方形で明治年間の重修である。天皇は延元四年、御治世二十二年にして吉野の皇居に崩じ給ひ、群臣遺命を奉じて、服御を改めず、棺槨を厚くしてこゝに葬り奉つた。御陵域内に後龜山天皇皇子世泰親王御墓がある。

【山口神社】 吉水神社の南約四〇〇米、もと勝手明神と稱し、天忍穗耳命他五柱神を合祀する神社である。後方の山は袖振山と呼び、天武天皇の御代天女來つて舞を舞つたと云ふ傳説で知られて居る。社の前に康永年間の銘ある湯釜がある。その他明應四年の陰刻銘ある舞樂面を藏する。

【大日寺五智如來坐像】〔國寶〕 山口神社の西約一〇〇米にある大日寺の寺寶で木造、五軀あり、藤原時代後期の作である。附近に元櫻本坊、井光神社等がある。

【櫻本坊】〔天台宗〕 山口神社の南三〇〇米、道の東側にあり、もと三寶院門跡の宿所で、明治八年現地に移つた。

諸佛堂とも云ひ、寺寶の地藏菩薩坐像は木造鎌倉時代初期の作、役小角像は木造、室町時代の作にかゝり、また銅造釋迦如來坐像あり、高さ約八寸八分の小像で飛鳥樣式と奈良樣式との過渡期の作品に屬する。三軀共に國寶に指定されて居る。

【竹林院】〔天台宗〕（二一圖さ6）　櫻本坊と道を隔てゝ西側にある。日藏上人の中興で、寺寶の慶長十九年五山衆試文稿六曲屏あり、俗に糸目の屏風と稱し、國寶に指定されて居る。尙、庭は古來有名で群芳園と云ひ、千利休の築造で、更に細川幽齋の再築したものであると傳へ有料で公開して居る。

【村上義隆墓】　竹林院の西南約八〇〇米、櫻林中にたつ高約二尺五寸一尺角の石塔である。義隆は義光の子で、護良親王熊野に遁れさせ給うた際、單身防戰して討死した。

【吉水院宗信墓】　竹林院の東南約半粁、猿曳坂から約一〇〇米上つた左手の雜木林の小丘にある五輪塔で、石玉垣に圍まれて居る。宗信は修驗僧で吉水院に住し、延元元年後醍醐天皇潛幸し給ふや僧兵を率ゐて行宮を守護し奉り、終始一日の如く吉野朝廷に奉公した。大正六年、正五位を贈られた。

【吉野水分神社】〔縣社〕（二一圖か6）　宗信墓から東南半粁、金峰神社に至る途中、吉野水分山の峰にあり、俗に「子守明神」或は「子守さん」と稱し、天水分神を主座として祀つて居る。現存の社殿は慶長年間豐臣秀頼が建部内匠頭光重を奉行として再建したもので、樓門廻廊、本殿、幣殿及拜殿を具備して居る。

樓門廻廊〔國寶〕三間一戸、重層、屋根入母屋造柿葺の建築で廻廊左右に延び、頗る安定の感を與へた美建築で、桃山時代の特徴を示して居る。

拜殿〔國寶〕十間三面、單層、屋根は入母屋造杉皮葺、構造は簡素であるが、桃山時代の豪放な精神を現はして居る。

幣殿〔國寶〕六間四面、單層、屋根は切妻造杉皮葺で、構造樣式また頗る簡明質素であるが、矢張り豪快な桃山氣分を發揮して居る。

本　殿〔國寶〕一段高い位置に東面して建つて居る。三殿を一棟に連續した建築で、九間二面、中殿は最も小さく、一間社流造で左右の兩殿は各三間社流造である。各殿屋根の前流れに千鳥破風をかけて三殿並立の姿を明かに現はして居る。本殿は拜殿及幣殿とは異り、桝組、虹梁、長押、柱頭等をはじめ蟇股の彫刻等に華麗な彩色を施した桃山時代の神社建築を代表して居る。

【金峰神社】（二一圖あ8）　吉野水分神社の南一粁半、吉野山の高峰金峰山の下、鬱蒼たる老杉に圍まれて建つて居る。古來吉野山地主神として名高く、また藏王權現と稱され、中世以來修驗道の行場としてこの社に詣づるもの多く、御堂關白藤原道長の如きも、寛弘四年金峰山に登り、當社に祈願をこめたことは榮華物語にも記載されて居るが、當社の寶物になつて居る國寶の金銅經筒に刻書された道長自身の願文に徵して明かに知ることが出來る。この願文は左記の通りで、今寶物は東京帝室博物館に陳列されて居る。

南贍部州大日本國左大臣正二位藤原朝臣道長、百日潔齋、率信心道俗若干人、以寛弘四年秋八月、上金峯山、以手自奉書寫妙法蓮華經一部八卷、无量義經、觀普賢經各一卷、阿彌陀經一卷、彌勒上生下生成佛經各一卷、般若心經一卷、合十五卷、納之鋼口埋于金峯、其上立金銅燈樓、奉常燈、始自今日、期龍華曉、於是弟子焚香合掌、白藏王而言、法華經者、是爲奉報釋尊恩、爲値遇彌勒親近藏王、爲弟子无上菩提、先年奉書、欲贊參之間、依世間病惱事、與願違、爲恐浮世之不定、且於京洛供養先了、今猶所以埋於玆者、蓋償初心復始願之志也、阿彌陀經者、此度奉書、是爲臨終時身心不散亂念彌陀尊往生極樂世界也、彌勒經者、又此度奉書、是爲除九十億劫生死之罪證无生忍遇慈尊之出世也、仰願當慈尊成佛之時、自極樂界、往詣佛所、爲法華會聽聞受成、佛記其庭、此所奉埋之經卷自然湧出、令會衆成隨喜矣、弟子得宿命通知今日事、如智者之記靈山於前會文殊之識往劫於須夏者歟、嗚呼發菩提心、懺無量罪、運東閣之隈石、加南山之不蕪、埋法身之舍利、仰釋尊之哀愍、藏信心之手跡、馮龍神之守護願根已固、我望已足、抑憩一樹之蔭、飲一水之流、猶不是小緣、況此之道俗若干人、或有以香花手足與此善者、或有以鞠墨工藝從此事者、南無教王釋迦藏王權現、知見證明、願與神力圓滿弟子願法界衆生依此津梁、皆結見佛聞法之緣、弟子道長敬白、寛弘四年丁未八月十一日

尙この外當社の寶物である國寶の率堵婆透し方形鐵

鐔は村上彦四郎義光の所持せしものと傳へ、吉水神社に保管されて居る。

【吉野林業】　吉野林業地は吉野郡の北部に位し、東西約三五粁、南北凡二八粁、吉野川本流々域並に支流丹生川、小川の流域を占め、郡内二十五町村の中、天川野迫川、大塔、十津川、下北山、上北山の六村を除いた殘り、面積約三一方粁即ち郡全面積の約三割八分で、山林はその八割七分餘即ち二九九方粁を占める。これ等の森林は大部分民有林に屬し、十中八、九は殆ど杉、檜の人工林で、杉八に對し檜二の割合となり、本邦美林の一である。吉野木材は樽丸、酒樽として送出されるものもあるが、十中の九までは丸太として筏に編み、水運によつて搬出される。

【興禪寺藥師如來坐像】〔國寶〕大軌大和上市驛の東約一二粁、小川村中黑の興禪寺の本尊で木造である。

【丹生川上神社中社】〔官幣大社〕　大軌大和上市驛の東約一五粁、小川村小村御手濯川の上流にあり、自動車の便がある。創始は上社と同じく白鳳四年にありと云ひ、祭神は罔象女神で、從來蟻通神社と稱したのを、大正十一年中社として官幣大社に列格し、爾來丹生川上神社の社務所をこゝに置かれ、祈年、新嘗の奉幣はこの社に於て行はれる事になつた。社殿は文政十一年の建築で三社中最も古く祭日は十月十六日である。上市からの途上、宮瀧の地には廣大な敷石遺跡あり、石器時代繩紋及び彌生式土器、錘石等を發見し、また古瓦も出土して居る。

【丹生川上神社上社】〔官幣大社〕　大軌大和上市驛の東南約一六粁、川上村迫にあり、自動車の便がある。祭神は雨師神で、天武天皇白鳳四年御神宣によりて人聲の聞えざる吉野丹生川上に宮社を造つて齋き祀つたのを鎭座の創めとし、上社は高龍神を祀つて居る。淳仁天皇天平寶字七年の旱の際に幣帛と黑毛馬を奉り、また光仁天皇寶龜六年霖雨の際は幣帛及び白毛馬を奉つた事、續日本紀に見え、爾來旱には必ず黑馬、霖雨には白馬を奉つて禱つたが靈驗著しかつたこと、多く古記に散見し、歷朝の崇敬最も厚く、延喜の制、名神大

社に加列し二十二社の一に加へられた。明治七年以來下社の奥宮であつたが、同二十九年官幣大社に列格した。祭日は十月八日である。地は吉野川の上流で山巒溪流の美あり、幽邃の境地である。

【三之公川峽谷とがさはら自生地】〔指定天然記念物〕大軌大和上市驛の東南三〇粁、川上村神之谷にあり、途中まで自動車を通ずる。西は吉野川上流の三之公川と北股川との間の尾根、東は俗稱カラ谷の西の大尾根を以て限られ、北は兩尾の行合點海拔約八九〇米の地を行詰りとし、南は三之公峽谷にて境される地域である。とがさはらは内地では紀伊、大和及四國の一部に限つて自生する珍種で、三之公川地方では方言をかはきと云ひ、大なるものは周圍約一米八乃一米九に達し、平均一米半位である。

【入之波溫泉】（一七圖な7）大軌大和上市驛の東南三六粁、吉野川の上流川上村にあり、自動車の便がある。大和の國に珍らしい溫泉で、含鐵炭酸泉に屬し、胃腸病、貧血症、神經痛、婦人病などに効くと云ふ。旅館更江旅館。

【ししんらん群落】〔指定天然記念物〕大軌大和上市驛の南約六〇粁、上北山村小橡字小玉置にあり、ししんらんは本州南部暖地產の氣生常綠植物にして、本群落はその分布北限地帶にあたる。

【大峯山脈と大臺ケ原山】（二二圖・二三圖）吉野群山は本州の最南端に突出せる紀伊半島の脊稜山脈をなし畿内に於ける最も高峻にしてしかも峰巒重疊の地域全體の總稱で、東は高見山、池ノ木屋山から大臺ケ原山の諸嶺を境として三重縣伊勢、紀伊に接し、西は陣ケ峯、水ケ峯、護摩壇山等の山稜を境として紀伊に接す即ち南西を和歌山縣が繞り、大部分は大和山地で、この山地の骨骼をなすものは山上ケ岳から南走する大峰山脈とその東に聳ゆる大臺ケ原山で、この山岳景觀は最も著名であり、この山地に源を發する熊野川の下流、瀞八丁や紀州の海岸美の地域一帶は、既に國立公園として指定されて居る。

吉野群山は紀和山地の大部分を占め、古生代の末葉に生じたる一大褶曲地體の改造を受けたもので、實に紀勢和半島の骨骼をなし、その褶曲の走向は概ね東微北から西微北に亘り、この山地に源を發する主なる河川は大體この走向に從つて縱谷をなして居る。西には紀伊、有田、日高の諸川、東には櫛田、宮川等の諸流がある。また紀ノ川は古生層及び結晶片岩の向斜層をなせる北側に沿ひ標式の縱谷を造り、しかもこれらの分水界をなせる山脈も略々東西の走向を持つて概ね南北兩斜面の分水嶺をなす、即ち和泉山脈、蕪阪嶺、鹿ケ脊岳、大臺ケ原山等がそれである。しかして吉野川上流の一部と熊野川はこの走向を横斷する横谷をなしこの析裂線に沿ひ恐らく中世代の終に秩父古生層の間に逆入せし石英閃綠岩や石英斑岩からなる火山列を混へて居る。これらは山體堅硬でよく他の山體より頑强に蝕耗作用に堪へ、巍然として吉野群山中の盟主をなして居る。概して吉野群山はその高度は著しき差異なく實に古生代の末葉に成立せる球磨、紀伊、關東山系の一部が中生代の終に準平原と化した面影を止めたものと見ることが出來る。この山地上に大臺ケ原山、大峯山脈等が特に著しく突隆せるは、比較的堅固なる硅岩、硬砂岩等より成り、他より頑硬なるを以てよく侵蝕に抵抗して殘存したるに依るべく、殊に大臺ケ原山及山上ケ岳は前者は硅岩、角岩、後者は硬砂岩の水平的節理により一大高原を構成したものと見做される。尙大臺ケ原山に於ける大蛇嵓及セイロ嵓の附近の豪壯なる絕壁も、實にその硬砂岩たる造山岩石の垂直的節理により東ノ川谷の後退作用がこゝに於て喰止められたものゞ、勿論これ等の準平原は第三紀の初に隆起して山地回春し、更に蝕耗解切されて地形壯年の域に達せしも、依然として太古の準高原の面影の一部をこれ等に止めたもので、實に紀和隆起回春解切準高原と稱す可き地貌を呈し、現今は爾後の東西の縱行斷層、南北の横行斷層、尙吉野川の如き斜行斷層を生ぜしめこれ等は解切されて幾多の小山脈に分裂されたものである。

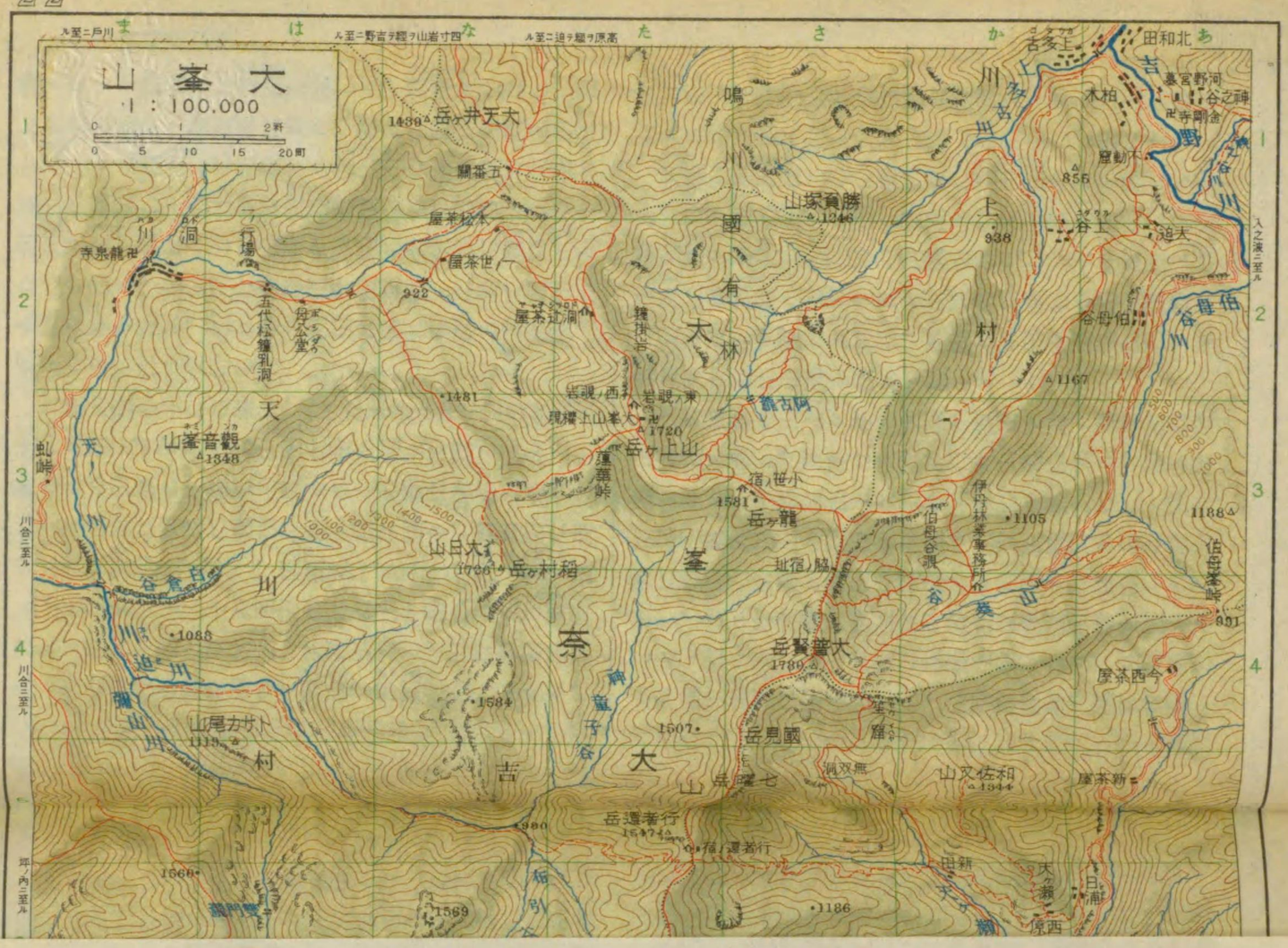
大峯山脈は紀和山脈の中軸をなし、この山地中標高

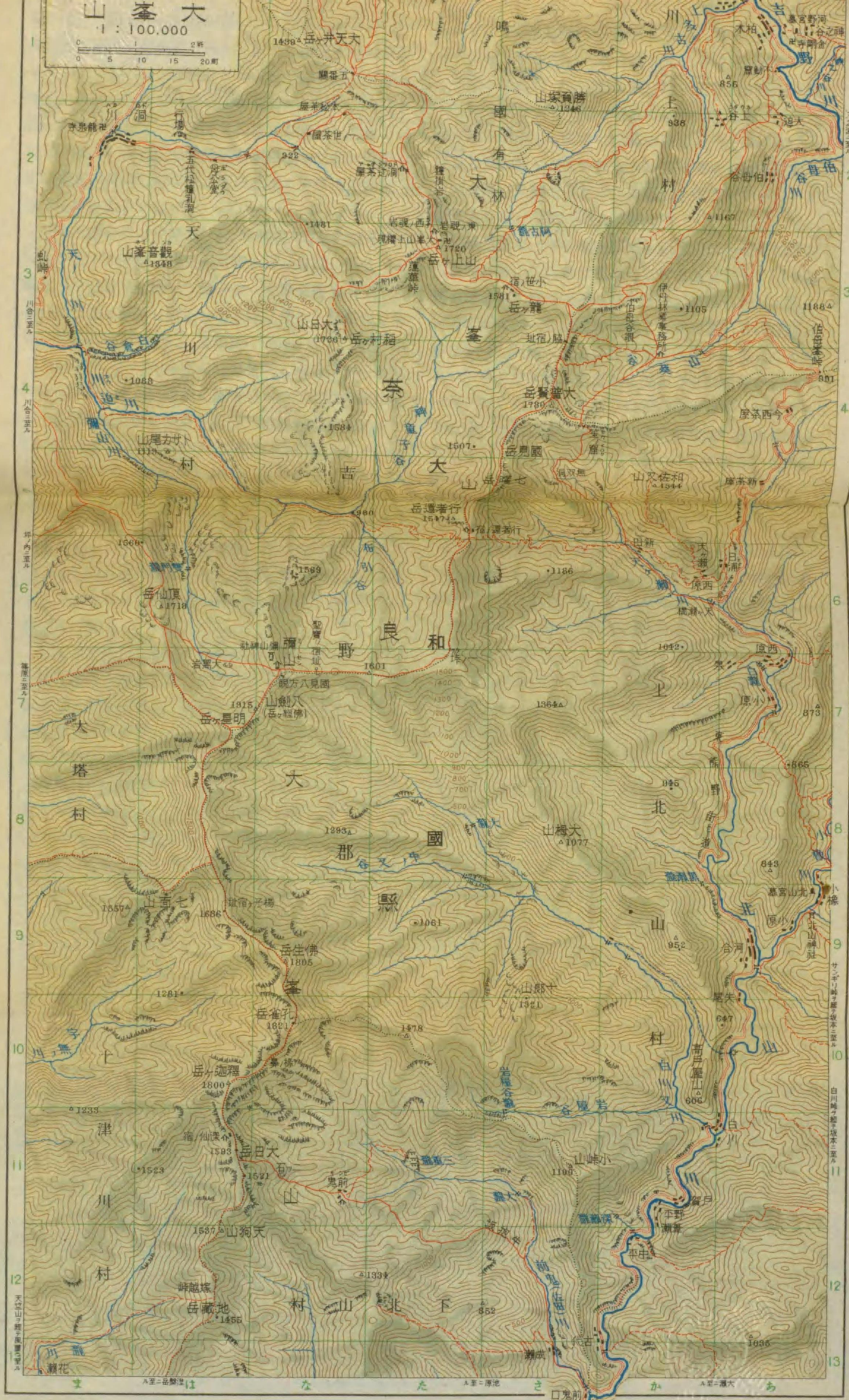
最も高く、稍南北に走向を示して、連峯性をなし、北には吉野川の上流東西に走り、東は吉野川上流と伯母ケ峯を分水嶺として南流する北山川の谷を以て大臺ケ原山に相對し、西は十津川谷を境として居る。この十津川及北山川は、この山脈の南端で合流して熊野川となつて居る。北山川は十津川合流點近くに於て紀州の名勝瀞峽をなし、これ等の河川は何れも到る處溪流、峽谷の美を作つて居る。

大峯山脈の主なる峯は、北は小天井ケ岳(一、三六六米)、大天井ケ岳(一、四三九米)から山上ケ岳を起して居る。山上ケ岳はこの山脈の主峯で、最も多くの登山者がある。これより山稜は稍東に延びて龍ケ岳に連り、尙南方に走つて大普賢岳(一、七八〇米)、國岳見(一、五〇七米)、行者還岳(一、六四六米)となり、その西方には山上ケ岳から走る側脈として稻村ケ岳と頂仙岳の秀峯がある。尙行者還岳からこの山脈は西南に連つて彌山、佛經ケ岳(一、九一五米、明星ケ岳等この山脈最高の雄峯相連り、尙南下して佛生岳(一、八〇五米)、孔雀岳(一、八三一米)、釋迦ケ岳(一、七九九米)、大日岳(一、五二米)に至つて稍山勢衰ふ。卽ち山上ケ岳から大日岳に至る間を大峯山脈の主山として居る。

大臺ケ原山はこの山脈の東に北山川の谷を隔てゝ聳え、日ノ出岳(一、六九五米)を最高として三津河落山(一、六五五米)、經ケ峯(一、五二九米)等の山峯を繞らし、その南西に準平原の臺地狀の山容を見せて東の川溪谷や北山川谷に山足を沒し、東は大杉谷、不動谷の溪谷美をなして尾鷲方面の海に山脚を沒して居る。

大峯山脈の山上ケ岳と大臺ケ原山とは、由來信仰登山者最も多く、夏季は白衣の行者山道に連り、頗る殷賑を極める。特に山上ケ岳は「吉野の奥かけ」と稱して年一萬人以上の登山者を迎へ、京阪地方からの登山客に賑ふ。大臺ケ原山の開山は明治四十年頃からのことで、こゝに大臺ケ原教會の設立以來登山者を迎ふることゝなつた。ことに近年交通至便となり、京阪地方から週末旅行に適するのと、山岳及森林、溪谷景觀の非凡なることにより、國立公園として指定されて以來登山客が激增して居る。


大峯山
1：100,000
0 1 2粁
0 5 10 15 20町
大天井ヶ岳
1439
五番關
屋茶松本
屋茶世戸
322
屋茶辻洞
五代松鐘乳洞
行場
寺泉龍
洞川
山塚負勝
1246
國有林
大峯
鳴川
上村
谷上
迫夫
谷母伯
1167
855
338
田和北
吉多上
木柏
屋動
天川
山峯音觀
1348
岩覗ノ西
岩覗ノ東
現樓上山峯大
1720
岳ヶ上山
1481
宿笹小
1581
岳ヶ龍
地宿ノ脇
伊母林業事務所
伯母谷
伯母峠
1105
1188
691
稲村ヶ岳
1726
山日大
谷倉村
1088
奈良
岳鬢薙大
1789
屋茶西今
山尾カサト
1115
1584
1507
岳鬼國
七曜岳
吉野
大峯山
岳遵者行
1574
宿ノ遵者行
980
1660
1569
1186
山又佐相
1344
屋茶新
田新
天ヶ瀬
日浦
原西
風双無


大峯山
1：100.000
0 1 2粁
0 5 10 15 20町
大天井ヶ岳
山塚負勝
上谷
谷伯母
山峯音觀
上山ヶ岳
山日大ヶ岳
村稲ヶ岳
岳鷲普大
岳見國
山尾カサト
山刈佐和
岳遠著行
岳仙頂
聖宝
山ヶ岳
岩窟大
山劍八
岳ヶ經佛
岳ヶ明星
山梅大
山奇七
岳住佛
岳雀孔
岳ヶ迦羅
岳日大
山狗天
峠越塚
岳藏地
山郎十
山峠小
高丹羅山
大峯
奈良
吉野
大塔村
大和
大和國
吉野郡
北山村
北山
下北山村
十津川村
天川村
川上村
白川
瀬花
瀬成
古屋
平野
中平
賀月
白川
合河
原西
原小
原北
小橡
木相
谷上
谷伯母
谷伯母
谷伯母
谷白倉
谷奥山
谷岩屋
谷又
谷大
谷小
谷
谷
谷

登山路としては先づ大峯山脈へは大軌吉野線下市口驛から洞川を經て登るもの、同線大和上市驛から柏木を經て登るもの、吉野山を經て登るもの、以上三つの登路がある。

洞川口は下市口驛から河合を經て洞川まで約三六粁の間自動車の便がある。所謂吉野山地の狹い谷或は峠を越えて曲折が多い。自動車は多くは吉野杉の美林の中を走る。下市口から約二時間を要する。洞川は大峯登山根據地として數戸の旅館があり、また龍泉寺等何れも登山者の宿坊として登山期には頗る賑ふ。夏期は涼しく避暑地として關西の輕井澤と云はれて居る。附近大峯登山道に最近發見された鐘乳洞があり、赤井五代松氏の努力に依つて、發掘開發され、五代松鐘乳洞と命名されて居る。洞川から山上ケ岳までは約一二粁一ノ行場、母公堂を經て一ノ世茶屋下まで凡そ三粁は杉の殖林帶で稍平坦、一ノ世茶屋から一本松茶屋を經て洞辻茶屋までは幾つかのヂツクザツクを登る。鐘掛岩、東の覗岩、西の覗岩等の名勝は壯麗な岩壁を屹立して居る。洞川から山頂まで凡そ四時間行程である。

別途稻村岳を經て登る登路も約一二粁で、最近開鑿された。この道は信仰登山者以外、山岳趣味を持つ人々にのみ選ばれる。硬砂岩の尖峯屹立して特殊な山容と、これを蔽ふ森林、しやくなげの群落などは、充分に山岳愛好家を滿足させる。稻村ケ岳から一旦蓮華坂峠に降つて急峻を登ると、山上ケ岳の御花畑を經て山頂に達する。

吉野山から金峯神社、新茶屋、百丁茶屋、五番關を經て洞辻茶屋に出て山上ケ岳に達する登路は、往時吉野奥掛として最も多く登られて居た。吉野から約二四粁、一日行程であるが、最近では洞川や柏木方面へ自動車が通じたので、自然この登路によるものは少なくなつた。

柏木方面からの登山路は、大軌大和上市驛から柏木まで三八粁、自動車の便がある。柏木は大臺ケ原山及山上ケ岳登山の準備地で、旅館も數戸あり、東熊野街道での繁華地である。柏木から上多古川の谷に沿ひ、

阿古瀧を經て山上ケ岳までは約一四粁、尙別路伯母谷覗から脇ノ宿を經て龍ケ岳に出て山上ケ岳に達するのも約一六粁で、大體半日行程である。山上ケ岳山頂には洞川の龍泉寺外四棟の宿坊があり、五百人位の宿泊が出來る。こゝに大峯山上權現がある。山頂は展望雄大で、大峯山脈の全容や、大臺ケ原山を初め、大和の深山溪谷は一眸に集り、熊野灘まで望まれる。栂、樅の原生林や濶葉樹の混生林で、紅葉期には全山錦を飾る。普通山上ケ岳の登山者は、洞川から登つて柏木へまた柏木から登つて洞川へのコースを採る。尙龍ケ岳から大普賢岳を探つてワサビ谷に降り、柏木へ降る道も興味あるものである。この他大普賢岳から笙の窟や無双洞を見て天ケ瀨谷に降り、東熊野街道に出て柏木方面へ出ることも出來る。大普賢岳はその東側、北山川谷に向つて甚しく岩壁を屹立し、山相頗る非凡であり、この山腹帶にはサルスベリの繁茂甚だ多きは登山者の注目を惹いて居る。

所謂大峯山脈の縱走は山岳愛好家の選ぶプランであるが、山上ケ岳に一泊して龍ケ岳、大普賢岳を經て行者還岳から尙峯傳ひに彌山までを普通一日行程とされて居る。山上ケ岳から約二六粁であるが、彌山には彌山神社と山小屋とがあり、夏季は宿泊も出來るし番人も居る。こゝから大峯最高峯の佛經ケ岳、明星ケ岳を經て、佛生岳に至り、釋迦ケ岳、大日岳等を縱走して前鬼まで二六粁で一日行程である。前鬼にも宿坊があり、こゝは年中宿泊することが出來る。普通大峯山奥かけとして、信仰登山者も縱走するのは前鬼までで、こゝから前鬼口に降り、東熊野街道に沿ひ、河合までは二二粁、河合からは伯母ケ峯峠を越えて柏木へも自動車が通ずるし、或は瀞八丁を經て熊野方面へも自動車が通ずる。未だ乘合は通じて居ないが、貸切と郵便自動車とが、この山間の谷合深く入つて居るから交通至便である。また大峯縱走を終つて大臺ケ原山に登る人は、河合から小原、木和田、逆峠、開拓を經て大臺ケ原山頂まで約二〇粁である。

大峯山脈は大體山頂まで森林が茂つて居り、山頂附

近は針葉樹が混生して居るが、山腹は概ね濶葉樹林帶で、その間に深き谷と、岩壁とを配し、新綠や紅葉の美觀も見るべきものがあり、山頂附近にはしやくなげその他の高山植物も見られる。

大臺ケ原山は前記の通大和上市から柏木まで三八粁自動車があり、柏木からは吉野川上流本澤川に沿うて入之波まで八粁自動車が行く。本澤川の清流に流す吉野杉の筏と、繁茂せる吉野杉の殖林が吉野の山奥を味はせる。入之波には鑛泉があり、大臺登山口での大きな山村で人口約五百人、多くは林業に從事して居る。約四粁程で筏場（奥入之波）に至るまでは何處までも杉の殖林帶で、稍平坦な道である。この附近から始めて原生林となつて、谷は愈々深く、水は澄んで岩石が大きく、本澤川は一段と溪流美を加へる。屛風瀧を過ぎると五色湯があり河岸の邊に溫泉が湧いて居るが、野天風呂で小屋掛もない。釜公谷を過ぎると直ぐ道は登りとなつて、大臺辻までは相當な登りである。大臺辻は大杉谷溪谷方面への峠路で、こゝから三津河落山の東側をからむが道幅も約二米近くあり、原生林の森林が美しい。入之波から一八粁で大臺教會に達する。教會は神教で宏大な建築であるから、百數十人は宿泊が出來る。こゝには氣象觀測所もあり、高山氣象の觀測が行はれ、電話等も設備されて、山頂とは思はれぬ便利さである。西には大峯連山の全容が望まれ、その山峯が指呼の間に聳ゆるのが眺望される。最高峯日の出岳（一、六九五米）からは尾鷲灣や熊野灘などが一眸に入り、展望頗る雄大である。教會から凡そ三粁に牛石の名勝があり、そこに神武天皇像が建てられ、金箔を輝かして、遠く熊野沖の漁船からも望むことが出來ると云ふ。尙一粁程で大蛇嵓、蒸籠嵓、千石嵓等の岩壁がそゝり立つて、東ノ川谷の浸蝕が物凄く、その間に東ノ瀧、中ノ瀧、西ノ瀧等が落下する。準平原の樣な臺地に、この單調を破つた景觀は、大臺ケ原登山者の必ず訪づれねばならぬ價値がある。

山頂から西へ東熊野街道の河合へ降る道と、東へ木組峠を越えて尾鷲港に降る道がある。また東の川の溪

谷を探るのと、東側の大杉谷の探勝などは、未だ未踏の領域であり、絶讃に價する景勝が祕められて居る。

概して大峯及大臺ケ原山は水蒸氣多く、濃霧及降雨が多く、夏季も快晴の日は割合に少い。この爲に植物の分布生態等にはまた見るべきものがある。

近畿地方指定史蹟所在地府縣別表

京都府……一七
大阪府……七
兵庫縣……八
奈良縣……三二
三重縣……一一
滋賀縣……七
和歌山縣……六

町時代の優秀な神社建築の一遺構で國寶に指定されて居る。

吉野口和歌山間

流造、屋根檜皮葺で、兩宇共に棟木に文明四年二月廿四日上棟の銘が存し、本殿と同じく國寶である。

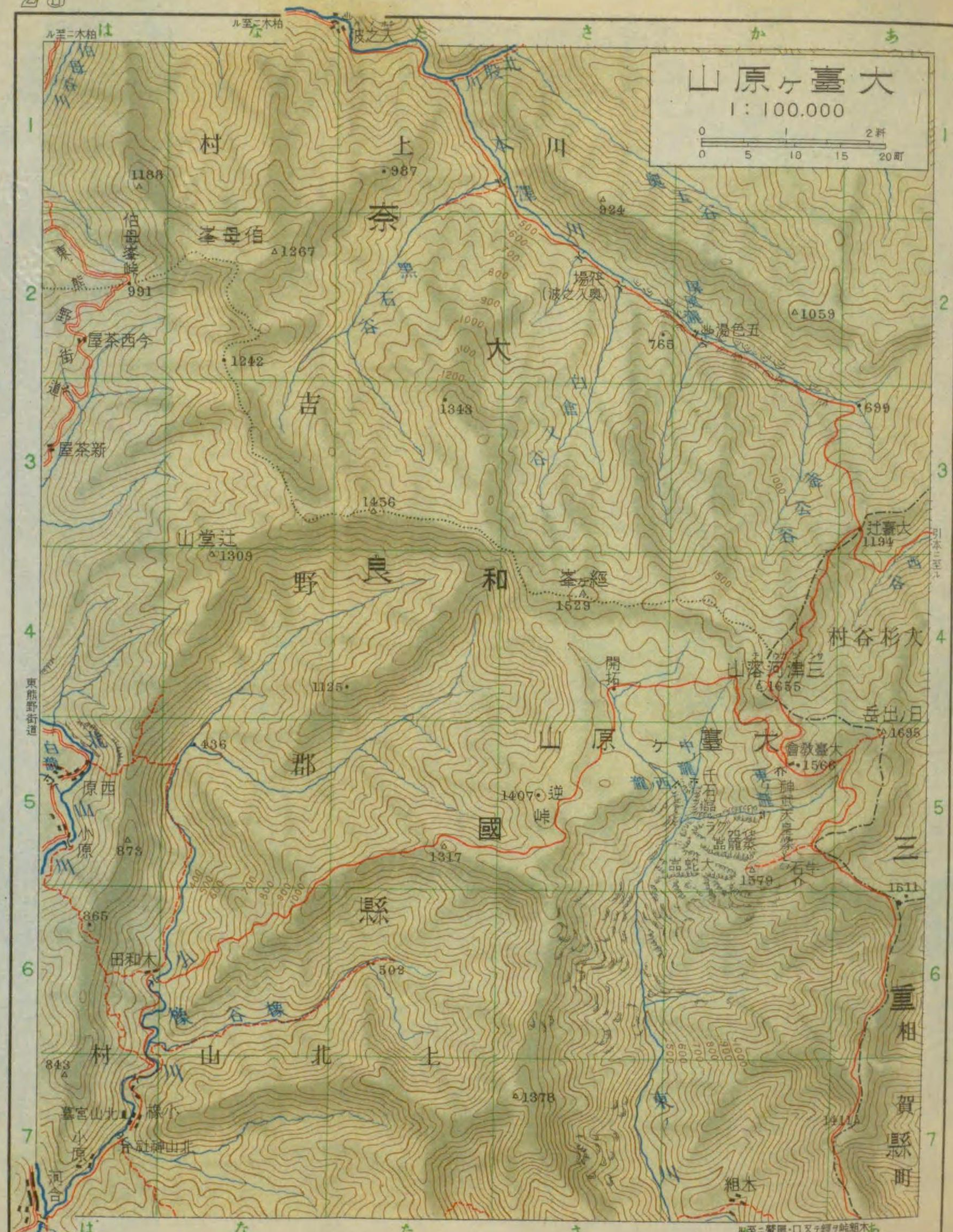
谷を探るのと、東側の大杉谷(おほすぎだに)の探勝などは、未だ未踏の領域であり、絶讃に價する景勝が祕められて居る。

概して大峯及大臺ヶ原山は水蒸氣多く、濃霧(のうむ)及降雨(かうう)が多く、夏季も快晴の日は割合(わりあひ)に少い。この爲に植物の分布生態等にはまた見るべきものがある。

近畿地方指定史蹟所在地府縣別表

京都府	一七
大阪府	七
兵庫縣	八
奈良縣	三二
三重縣	一一
滋賀縣	七
和歌山縣	六

23



谷を探るのと、東側の大杉谷の探勝などは、未だ未踏の領域であり、絶讃に價する景勝が祕められて居る。概して大峯及大臺ケ原山は水蒸氣多く、濃霧及降雨

吉野口和歌山間

吉野口から南西に向ひ、北宇智 六粁七 五條 四粁 大和二見 一粁 を過ぎれば、吉野川の流を左窓に見て奈良縣から和歌山縣に入り、隅田 四粁 橋本 四粁 を經て高野口 五粁 に至る。

橋本は南海電車高野線の連絡驛で、北は大阪市に、南は極樂橋に至りて高野電鐵ケーブル線と接續し、大阪方面よりする高野山參詣の最も普通な捷徑路となつて居る。

【高鴨神社】〔縣社〕 北宇智驛の北二粁、葛城村鴨神にある。佐味の宮と稱し、祭神は阿治須岐高彦根命、多紀理比賣命で、創始は神代にありとも云ふ、雄略天皇の御代土佐に移されたが、天平寶字八年現在の地に移し迎へ、延喜の制名神大社に列した。本殿は三間社流造、屋根檜皮葺で、天文十二年の造營と傳へるが、室町時代の優秀な神社建築の一遺構で國寶に指定されて居る。

【高宮廢寺址】〔指定史蹟〕 北宇智驛の西北約四粁、葛城村鴨神にある。葛城山の中腹で俗稱高宮と呼び、堂址塔址の土壇及礎石よく舊態を保つて遺存して居る。礎石及出土の遺瓦の上から見て奈良時代を降らざる頃の遺址である。

【五條町】（二圖さ7） 五條驛所在地。吉野川に臨み、木材の集散が行はれ、杉割箸、清酒等を產する。町の東北須惠にある八幡宮は天誅組の亂に、代官の首を掛渡したことがある。人口約九千。

【御靈神社本殿】〔國寶〕 五條驛の西約二粁、牧野村中之にある。光仁天皇皇后井上内親王をまつり、本殿は一間社春日造、屋根檜皮葺で、棟木に文明四年壬辰二月廿四日棟梁備前權守藤原掃部の銘あり、諸種の彫刻繰形等に室町中期の好手法を表はして居る。本殿の左右には井上皇后の兩皇子早良親王及び他戸親王を祀る攝社早良神社及び他戸神社あり、社殿何れも一間社流造、屋根檜皮葺で、兩宇共に棟木に文明四年二月廿四日上棟の銘が存し、本殿と同じく國寶である。

【大善寺釋迦如來立像】〔國寶〕　五條驛の西約二粁、牧野村中之にある大善寺の本尊で、木造である。

【草谷寺(龍尾寺)藥師如來立像】〔國寶〕　五條驛の西北約四粁、牧野村北山にある草谷寺の寺寶で木造、高五尺二寸、一木彫、極彩色を施し、法衣に細密な文樣を描き、光背に彩色蔓草文樣、蓮瓣に繒繝彩色を施し藤原時代の作である。この他に藥師如來坐像及び不動明王坐像二軀あり、共に藤原時代の作で、何れも國寶に指定されて居る。

【楊貴氏墓】　五條驛の東南約一粁、牧野村大澤にある享保十二年延見寺址の墓礦中から墓誌を發見した。今その實物は失はれて居るが拓本を存して居る。楊貴氏は吉備眞備の母である。

【武智麻呂墓】　五條驛の東二粁、宇智村小島の山林内にある。榮山寺の開基藤原武智麻呂の墓で、墓碑は高約一米餘、元祿年間の再建のものにかゝり、當寺本願南家始祖贈太政大臣正一位武智麻呂公尊儀天平九年七月二十五日の銘及び文殊院榮算再興の元祿六年四月の年號を刻して居る。最初の墓誌と傳ふるものは破片が榮山寺に存し、天平九年の文字がある。

【宇智川磨崖碑】〔指定史蹟〕　五條驛の東約二粁、宇智村小島にある。榮山寺に至る途中で伊勢街道を右折し、谷川に架した橋下、溪流左岸の岩壁約二米平方の直立した表面に涅槃經四句の偈文を刻してその功德を頌したもので、傍に佛像一軀が彫つてある、偈文に寶龜九年二月の銘がある。彫刻淺く且、表面風化磨滅して讀み難い。

大般涅槃經
諸行無常　是生滅法　生滅々已　寂滅爲樂
如是偈句乃是過去未來現在諸佛所說開空法道
如來證涅槃永斷於生死若有至心聽
常得无量樂
若有書寫讀誦爲他能說一經其身於却後七劫不墮惡道
寶龜九年二月四日工少□□□□□
智識　□□

【榮山寺】〔新義眞言宗豐山派〕　五條驛の東約二粁、宇智村大字小島、吉野川の右岸景勝の地にあり、養老三年藤原武智麻呂の創建と傳へ、奈良時代の八角圓堂及七層石塔婆が遺存して居る。

八角圓堂〔國寶〕天平時代の建築で單層屋根本瓦葺、近年大修理が施されて居る。八角の石壇上に建ち、柱は八角柱を用ゐ、桝組は和樣三斗を組み木割頗る雄大である。内部は土間で中央に四本の八角柱を建て須彌壇を設け、本尊大日如來を安置して居る。須彌壇上には格天井があり、極彩色の裝飾を施したあとを存し、その他柱、頭貫その他隨所に蓮華、寶相華、天人、樂器、佛菩薩等を彩畫せしあと歷然として殘り、奈良時代の優美な建築裝飾を偲ばしめるものがある。

七重石塔婆〔國寶〕奈良時代のもので當初の相輪を具備して居る。これは極めて稀な例で特に注意されて居る。地輪の四面にはアク、ウン、タラク、キリクの梵字が四字陰刻されて居る。

石燈籠〔國寶〕藥師堂の前にある。高さ約七尺、竿に弘安七年の銘があり、火袋二ケ所に梵字が陰刻されて居る。形態頗る重厚で所々缺損して居る。

銅鐘〔國寶〕鐘樓にかゝつて居る、日本三鐘の一として名高く、左記鑄出の銘があり、小野道風筆と傳へて居る。

道澄寺者從三位守
大納言兼右近衛大
將行皇太子傅藤原
朝臣參議左大辨從
四位上兼行勸解由
長官播磨權守橘朝
臣爲報四恩濟六趣
合誠戮力所建立也
堂宇比蔓南北輪奐
尊像接座前後迦趺
兩相公宿殖香火之
緣生爲瓜葛之戚非
唯現世結契闊之情
亦欲淨刹共安養之
樂故各取其名首字
以爲此寺題額所以
贈本緣於來代期同

志於他生也藤亞相
爰命梟匠乃鑄鳴鐘
且將令長夜昏迷聞
妙聲而知曉苦海沉
溺驚梵叫而通津延
喜十七年十一月三
日銘之其詞云
僱師施治菩提催緣
虛受必應響亮自傳
從夕至曉出定入禪
傍唱衆聖遙響大仙
法喜增感耶夢驚眠
通阿鼻獄達有頂天
劫數億萬世界三千
一普利益無限無邊

【賀名生行宮址】 五條驛の南方約八粁、賀名生村和田にある。正平三年、吉野の皇居高師直の兵火に罹るや後村上天皇遁れてこの地に遷幸し黑木御所を建てゝ居給うた。かくて同七年穴太の文字を賀名生に改め、且この歳天皇山城男山に兵を進め給うたが、軍利あらずして再び賀名生に還り給うた。その後文中二年、後觀山天皇、天野山金剛寺より奔りてこゝに幸し、爾來二十年間皇居の地となり、世に吉野宮と稱した。後この地に華藏院なる寺を建てたが廢寺となり、院址の東方小高き所には、正平九年四月十八日この地で薨じた南朝忠烈の臣、贈正一位北畠親房公墓がある。墓は五輪塔である。尙堀家には勅賜の旗幟を傳へ、表門には天誅組將士の筆に成る「皇居」の扁額が懸つて居る。

この地の東約二粁黑淵には、後村上天皇黑木御所址と傳へた場所がある。

【賀名生の梅林】 五條驛の南約八粁、賀名生村の中央觀音山の北斜面にあり、梅林入口まで自動車の便がある。樹數約一萬本、口の千本、見返り千本、東雲千本西の千本、奥の千本などの勝あり、月瀨、青谷に次ぐと稱される。

【春日神社本殿】〔國寶〕 五條驛の南約一〇粁、吉野郡賀名生村向加名生にある。一間社春日造、屋根檜皮葺で室町時代の遺構である。

【常覺寺】〔古義眞言宗高野派〕 五條驛の南約一二粁、賀名生村黑淵にある。春日神社の東方にあつて普賢さんの名を以て知られ、本尊の普賢延命菩薩坐像は木造、高さ約三尺、二十手を有し、藤原時代末期の作で國寶に指定されて居る。寺寶の釋迦如來立像及び地藏菩薩立像は木造で、何れも藤原時代末期の作にかゝり、共に國寶となつて居る。

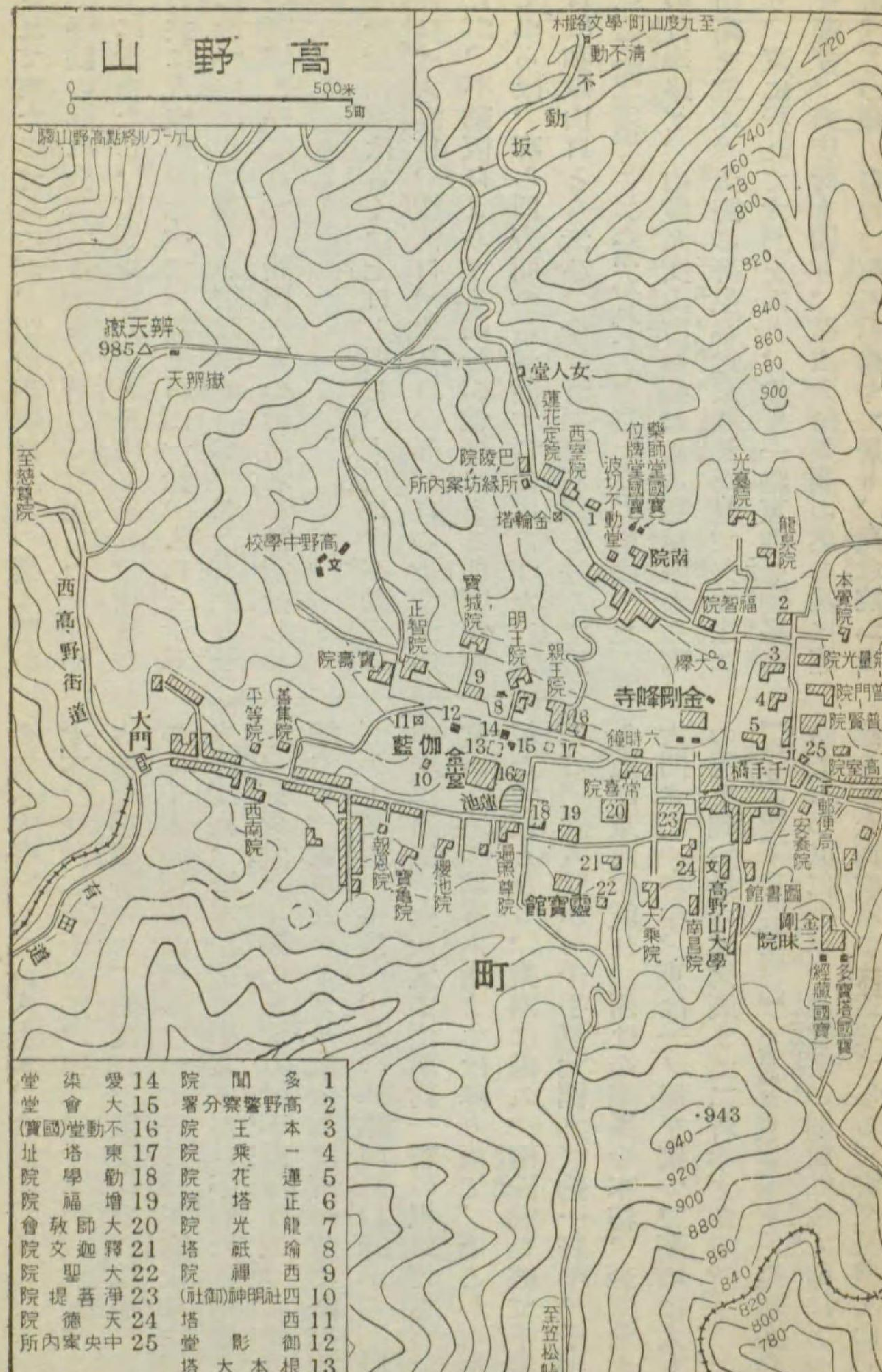
【高福寺阿彌施如來立像】〔國寶〕 五條驛の南約一六粁、野迫川村今井高福寺の寺寶で木造、高さ三尺一寸九分寄木造漆箔藤原時代末期の作である。

【紀ノ川】 大臺ケ原に發源して西北に流れ、更に西に向ひ、吉野山の北を經、五條附近より沿岸に狹長なる平野を開き、和歌山市を過ぎて紀伊水道に注ぐ。流路は大和紀伊の二國に跨り、大和に於て吉野川と呼ばれて居る。流域の面積、一、九二〇方粁、長さ二三四粁、航路距離一〇三粁で木材の流下に利用される。主なる支流は大和に小川、黑瀧川等、紀伊に丹生川、貴志川等がある。この川は伊勢海に注ぐ櫛田川と共に、紀伊半島を貫通する一大斷層に沿うて生じた縱谷を流れて居るが、始は横谷をなして居る。大和上市町の上流宮瀧の邊は兩岸迫り、奇岩激湍があつて風景がよい。また橋本、五條、上市下市附近は鮎狩の適所とされて居る。

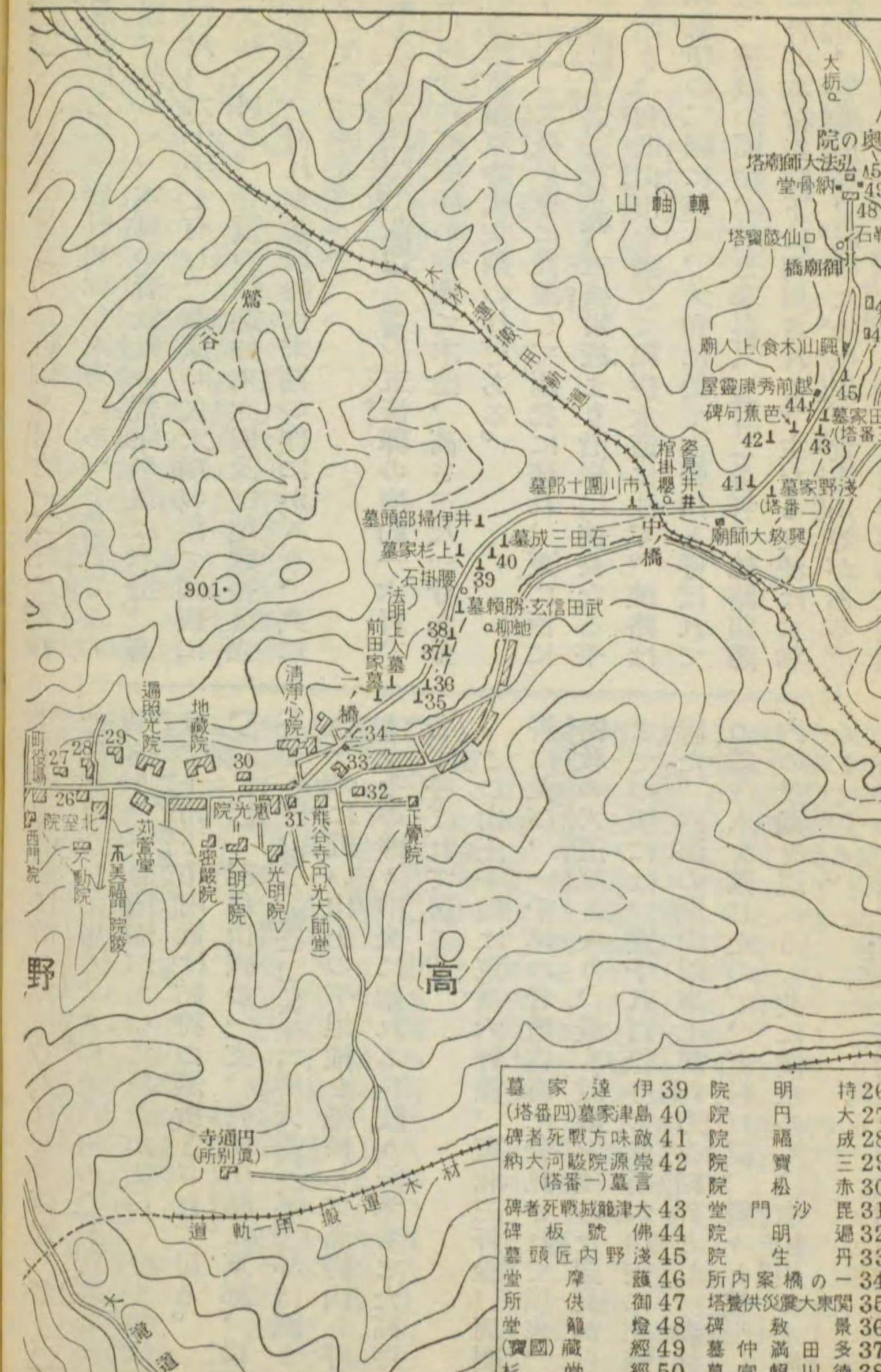
【高野山】 紀伊山脈の一支、長峰山脈の東部、楊柳山(一、〇〇九米)、陣ケ峯(一、一〇六米)、辨天岳(九八五米)等に圍まれた九〇〇米に近い山上の平坦地を總稱して高野山と呼び、またその略々中央に起れる丘陵九〇一米もまた高野山の名で呼ばれて居る。

この山上平地は東西六粁餘、東北三粁餘、周圍十餘粁に及び、一千年の昔僧空海に發見されて以來、眞言密敎の大道場となり、最も殷賑を極めた慶長から元祿までの頃には、壹千八百餘寺の堂塔が山内に充滿して居た。空海の開山以來七里四方を結界とし、森林保護の爲伐木を禁じたので、老杉巨槇、鬱々と繁茂し、山内の景觀を添へると共に溪水多く、有田川の水源地をなして居る。

高野山は長く女人を禁制し、宗敎的靈域として神聖



1	多聞院
2	高野警察分署
3	本王院
4	一乘院
5	蓮花院
6	正塔院
7	龍光院
8	瑜祇塔
9	西禪院
10	四社明神社(御社)
11	西塔
12	御影堂
13	根本大塔
14	愛染堂
15	大會堂
16	不動堂(國寶)
17	東塔址
18	勸學院
19	增福院
20	大師教會
21	釋迦文院
22	大聖院
23	淨菩提院
24	天德院
25	中央案內所

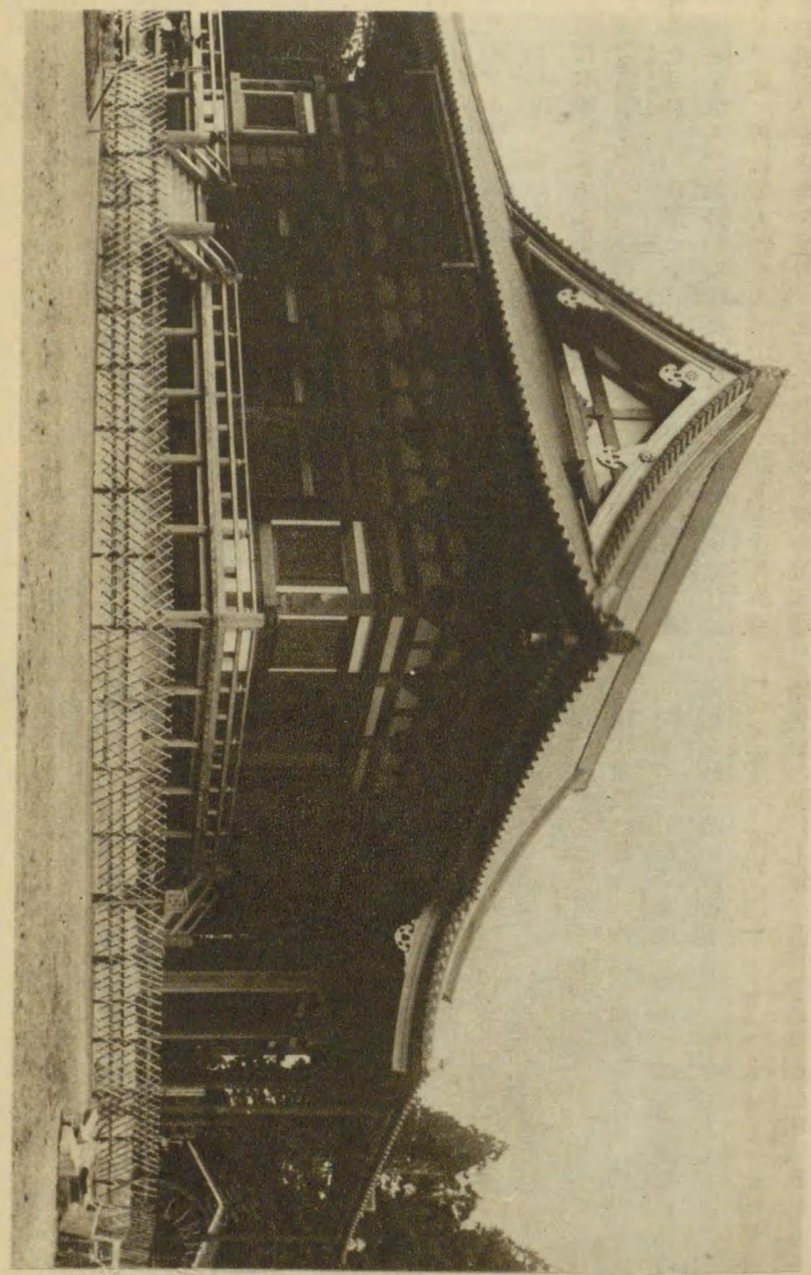


26	持明院
27	大円院
28	成福院
29	三寶院
30	赤松院
31	毘沙門堂
32	遍明院
33	丹生院
34	一の橋案內所
35	關東大震災供養塔
36	景教碑
37	多田滿仲墓
38	德川賴宣墓
39	伊達家墓
40	島津家墓(四番塔)
41	敵味方戰死者碑
42	崇源院殿大河納言墓(一番塔)
43	大津籠城戰死者碑
44	佛號板碑
45	淺野內匠頭墓
46	護摩堂
47	御供所
48	燈籠堂
49	經藏(國寶)
50	經堂杉

視されて來たのであるが、明治維新後女人の禁も解かれ、寺院の間に介在する人家も著しく增加した。今や山上に街をなし、町制を布いて高野町と稱し、賣店料亭と共に人家軒を並べて戸數七百四十餘、人口三千五百に餘つて居る。普通の旅館は無いが、五十有餘の子院が宿坊と呼ばれて、諸國よりの參詣者を宿泊せしめて居る。

高野登山道は古くは七口と稱し、大門口、不動阪口龍神口、大瀧口、相浦口、大峯口、黑河口の七つがあつたが、不動阪口よりする高野山電鐵による便利が開けてからは、專ら同方面から參詣する樣になつた。大門口は和歌山口とも云ひ、今は普通町石道と呼んで居り、元參詣本道として拓かれたものである。所謂一足三禮の行幸路で、山麓九度山町西部にある慈尊院から南へ山路を進み、天野の丹生都比賣神社を經て矢立辻に至り、東に折れて大門を入り、尙も一路東進金剛峯寺前を過ぎ、商店街を通り、弘法大師靈廟の奥の院に達する。この間一町毎に町石が建つて居り、慈尊院から金堂（大塔）まで百八十本、金堂から奥の院まで三十七本、合計二百十七基、卽二百十六町（六里）ある。古檜老杉鬱蒼として繁茂し、袈裟掛石、捻石、鏡石その他千古の舊蹟が數多殘つて居る。不動阪口は京口とも呼ばれ、橋本を經て學文路から羊腸たる嶮路を南進し、苅萱堂、極樂橋を通り、不動阪を登つて女人堂に達する。電車及ケーブルに依れば南海電車終點極樂橋でケーブルに乘換へ、その終點高野山驛から不動阪の中途に出で、女人堂まで南約一粁の坦路である。女人堂から所緣坊案內所までは降り坂で、そこから再び平坦な大道となり、東南に進み、南院前を經て千手橋に至る。女人堂から千手橋元標まで約一粁半、千手橋から道は東西に岐れ、西は金剛峯寺本坊、金堂前を經て大門まで一粁半、東は一ノ橋を渡つて墓地に入り、中の橋を經て奥の院御廟まで二粁半である。

【金剛峯寺（高野山）】〔古義眞言宗總本山〕　金剛峯寺は嵯峨天皇の弘仁七年、眞言宗の開祖弘法大師によつて創建された眞言宗の大道場である。古來皇室をはじめ武

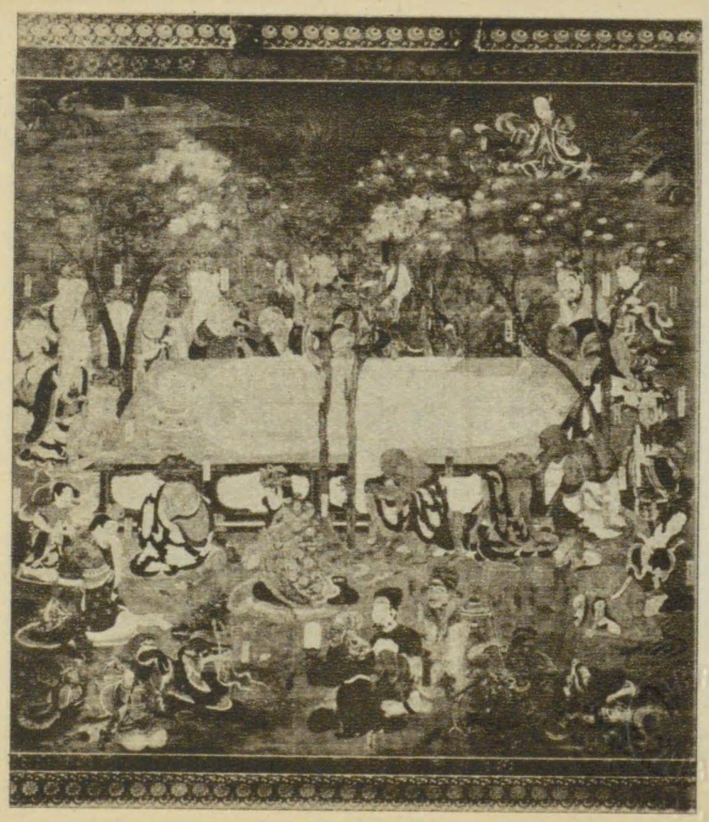


高野山參詣

阿彌陀二十五菩薩來迎圖
（高野山靈寶館）

正智院不動像
（高野山靈寶館）

阿彌陀二十五菩薩來迎圖細部



金剛峯寺涅槃像
（高野山靈寶館）

明王院赤不動像

勾屏湾の眺